■慈恵大学の「今」を伝える法人情報誌

The JIKEI

2002 Summer Vol.2

病気を診ずして
病人を診よ

［特集］

座談会 ―― 司会：羽野　寛

慈恵に学ぶ

現役学生が学長と語り合う

慈恵大学の「今」を伝える法人情報誌
Vol. 2 2002
The JIKEI

Contents

巻頭言 1P 附属病院の医療をとりまく現況 …… 大石 幸彦

座談会 2P 「幅広い視野と人とのコミュニケーションが良き医療人を育てる。」 …… 司会 羽野 寛
慈恵に学ぶ -学長と語り合う-

慈恵最前線 6P 共用試験と慈恵医大 …… 福島 統
共用試験CBTのモデルとなった慈恵医大総合試験システムを通して、
共用試験と慈恵医大の関連について報告する。

視点 8P 慈恵医大晴海トリトンクリニックにみるこれからの慈恵 …… 阪本 要一
今、サテライトクリニックを設置する意義とその未来を考察する。

研究余話 9P マラリア …… 大友 弘士
筆者のマラリアとの邂逅と研究活動、
最近の感染症の変貌に対応するための慈恵の取り組み。

歴史 10P 評伝 高木兼寛 第一話 正直であれ …… 松田 誠
「神仏はいつもそばから眺めておられる」と
母から訓戒された経験が、兼寛の人生に対する基本姿勢を定めた。

随想 12P 変革期に求められる病院事務のあり方 …… 今出 進章
環境の変化に取り巻かれている医療界において、
病院事務に求められているものとは。

学内めぐり 13P DNA医学研究所分子遺伝学研究部門 …… 山田 尚
遺伝情報の解析を受け持つ分子遺伝学研究部門の
学内における研究支援。

施設・設備 14P 西新橋校に大学1号館完成／
慈恵医大晴海トリトンクリニックが開設ほか
新設の施設・設備を機能や実用例を交えながら詳しく紹介。

同窓ニュース 16P 同窓会活動における『慈大新聞』の過去・現在・未来 …… 原 貞夫
慈恵看護専門学校同窓会・恵和会の主な活動 …… 塚本 光子

キャンパスニュース 18P 平成14年度医学部入学式／
慈恵医大・上智大学第2回ジョイントシンポジウムほか
注目すべきキャンパス情報が満載!

JIKEI TOPICS 22P 新入職員就任式／慈恵大学職員野球部合宿トレーニング／
柏病院第2回地域医療連携フォーラムほか
慈恵職員が学内外のさまざまな行事で活躍中。

生涯学習 26P 各種セミナーや研修会への取り組み

BULLETIN BOARD 27P 行事
28P 財務報告
30P 補助金・助成金
31P 公示
32P 学事・慶弔
33P 人事
48P 附属病院医師人事委員会報告
51P 東京慈恵会公報
52P ご寄付のお礼
53P 創立百二十周年記念事業寄付者名簿

■平成14年 主な大学行事予定

7月23日(火)
看護学科説明会(午後2時から)

8月10日(土)
医学科説明会
(午後1時30分から中央講堂)

8月24日(土)
慈恵医大夏季セミナー

9月20日(金)
看護学科10期生戴帽式
(午前10時から看護学科大教室)

10月5日(土)
同窓会支部長会議ならびに
学術連絡会議

10月10・11日(木・金)
第119回成医会総会

10月12日(土)
高木兼寛先生墓参(午後4時から)

10月15日(火)
高木兼寛先生記念日

10月19日(土)
卒後50周年を迎えた方々との懇親会
(昭和27年卒、昭和27年専門部卒)

10月28日(月)
第98回解剖祭(午後1時より増上寺)

12月25日(水)
教授・助教授懇親会(午後6時より)

【巻 頭 言】

附属病院 院長 大石幸彦

附属病院の医療をとりまく現況

医療費の公定価格といわれる平成14年4月の診療報酬改定は、初めて診療報酬本体に切り込んだマイナス2.7%(診療報酬本体で−1.3%、薬価・医療材料で−1.4%)となりました。本学の収入は8割以上が附属病院の医療収入から成り立っているため、今回のマイナス改定を受けて、今まで以上に厳しい経済情勢となっています。収入がマイナスとなればその分支出に対しても徹底したコスト管理を図らなければなりません。

かねてから病院経営は極めて厳しい環境に置かれている一方で、国民の医療に求める要望もますます厳しいものになっています。また、レセプト請求をめぐる問題は経済財政諮問会議、総合規制改革会議などで、医療のIT(information technology;情報技術)化が指摘されており、もはや国レベルの問題という時代になってきています。電子レセプト、電子カルテ、情報開示、保険証のカード化など、医療機関の近代化・効率化が求められており、非常に急速なスピードで進んでいます。

このような医療を取り巻く急激な諸情勢の変化と医療制度改革の流れに柔軟に対応できる「患者本位の医療」を基本理念とした病院を構築する必要に迫られています。少子・高齢化、価値観の多様化など、医療を取り巻く社会変化を感じ取らなければなりません。いいかえれば医療は与えられるのではなく、患者さんや地域住民の方々から求められるものであるとの観点に立ち、医療人として、病院として、どのように対応することが必要なのかということを考え、次のことを準備・推進しております。

IT化の推進:医療経営の効率化や医療の質の向上、病院としての情報化整備が急務となっており、カルテ管理室の中央化及びそれに付随する諸システムの整備、レセプトの電子請求、電子カルテの導入、予約関連(外来再来予約管理・手術室予約管理)システムなどを検討しています。

安全管理、医療事故対策:平成11年3月、附属4病院にリスクマネジメント委員会を発足させるとともに、安全管理指針を作成して医療事故やニアミス事例の報告を義務付けております。たとえ小さなミスでも病院全体で共有財産として、インシデントレポートを事故再発防止という観点から検討して、それをフィードバックし、病院のシステムの改善に生かさなければなりません。フロアリスクマネージャー会議、シンポジウムや講演会を積極的に開催しています。

情報開示・公開:診療に対して不安や不満などがあれば、情報開示が求められることは当然です。信頼され納得される診療が原点であります。プライバシーの保護を図りつつ、患者の請求に基づくカルテ開示を行うため、診療情報開示に関するルールの確立やガイドラインを制定しており、開示に向けて準備しています。

第三者評価機関の認定:4月から医療機関の広告規制が大幅に緩和され、専門医・手術件数・治療方法・日本医療機能評価機構の認定有無などが新たに広告できることになりました。特に今年度の医療費改定でも施設基準の申請において、第三者による評価を受けていることが要件となっている項目が新設されています。(財)日本医療機能評価機構は病院の質を審査、認定する唯一の第三者評価機関であり、今年度中に附属4病院が受審する予定です。

また、特定機能病院における入院診療の包括医療制度導入は、ほぼ平成15年度に実施される見込みであり、身近な問題として対策を講じなければなりません。

厳しい社会・経済情勢の中で平成14年度を迎えましたが、4月1日に開院した「慈恵医大晴海トリトンクリニック」は関係各位のご協力をもちまして順調に進んでおります。

今後も各機関と連携をとりながら教職員が一体となり、IT化、安全管理、医療事故対策などの推進に鋭意努力する所存です。教職員、諸先生方の一層のご支援、ご協力、ご助言を賜りたくお願い申し上げます。

[特集]

座談会

慈恵に学ぶ
―学長と語り合う―

司会
羽野 寛

今回の「The JIKEI」では、現在本学医学科に学ぶ学生たちに集まっていただき、栗原学長を囲んで本学に学ぶ意義について自由に語り合ってもらいました。いまどきの学生気質が感じられるとともに、創立者の精神がしっかりと受け継がれていることを確信することができ、大変有意義な座談会になりました。

出席者
学長／栗原　敏
大瀧　佑平（4年生）
関山　裕士（4年生）
坂本　広喜（2年生）
川崎　冬子（2年生）
司会：学生部長・教授／羽野　寛

幅広い視野と人とのコミュニケーションが良き医療人を育てる。

人の役に立ちたいという気持ちが医学の道につながった。

司会　まず始めに皆さんが医学部を目指した動機について聞かせてください。

＊

坂本　私の場合、慈恵医大に入る前に他の大学に入学して経済学を学んでいました。ただ、将来の職業について考えると、自分の存在意義が他にあるのではないかと思うようになったのです。自分はお金を儲けるということよりも人の役に立ちたい、でも経済学部にはそうした職業の選択肢がない。その最たるものが医師という職業だと考えて、改めて医学部を志すことにしました。

川崎　私も小さな頃から人の役に立てる職業につきたいという思いが強かったですね。ただ、私の場合は、両親とも医師で、身近に理想とすべき存在がありました。他の職業でも人の役に立つことはできると思いますが、これもひとつの縁だと思って、医師という職業につこうと決めて努力してきました。

関山　私の家は父も祖父も医師で、常に祖父や父が患者さんとコミュニケーションする姿を見てきました。私自身、人とコミュニケーションするのが好きで、自分もこういう仕事を通して人の役に立ちたいと思っていました。周りの環境が大きいと思うのですが、物心がついた頃から医師になるものだと思って生活してきました。

大瀧　医学部というのは他の学部と違って職業に直結していますよね。そういう意味で、高校生にとって志望する動機がクリアなのだと思います。私の場合は、医療倫理に興味があったことと、人を看護することが嫌いではないということから医師に向いていると考えて志望しました。

学長　医学部は、他の学部と違って医師になるという目標がはっきりしていますね。専門性が高い学問だからこそ職業と結びついているわけです。ただ、坂本君のように医学部に入る前に他の学部で学んできた人と、ストレートに医学部を目指してきた人とは医学に対する意識の違いがあると思いますが、坂本君は何か違いを感じますか。

坂本　親が医師だからとか勉強ができたからという動機を否定するわけではないのですが、私の場合、医学部に入りたいという気持ちには、熱いものがありましたね。

学長　皆さんは、実際に慈恵で学んでみて、どのようなことを感じていますか。

関山　4年生になって本格的に臨床医学の講義が始まり、自分が学びたかったことがやっと学べるようになったという感じです。

大瀧　私の場合は、文系の科目が好きだったので、1年生の理系の教養科目が苦痛でした。進学の時に、医学部か文学部か迷っていたくらいですから。

学長　医学生には、人文社会科学系の科目が苦手という人は多いですけど、その意味で大瀧君は将来他の人とは違うタイプの医師になりそうで、楽しみですね。皆が同じような医療人になる必要はないわけですから。

川崎　他の大学の人の話を聞くと、大学で他の学部の人と話ができたり、自分とはまったく違った環境にいて羨ましいところはあります。医学だけを学ぶのではなくて、視野が狭くならないように、今のうちに色々な知識や考え方にも積極的に取り組みたいですね。

学長　そういう意味で、教養課程では、人文社会科学系の講義や演習も用意されています。是非、真剣に勉強してください。

少人数だからこそモチベーションも高くなる。

司会　慈恵ではカリキュラム改革を進めていて、テュートリアル教育や少人数教育といった自ら学ぶ姿勢を重視した講義、実習を行っています。実際に講義や実習を受けてみて、どんな感想を持っていますか。

学長／栗原　敏

司会／羽野　寛

＊

大瀧　大きな講堂で授業を受けるのとは違って、集中力が要求されますから、密度の濃い時間を過ごせたと思います。

特に、症候学演習やテュートリアルでは、実際の医療の現場に沿った流れで進められるので、学問的なことが将来どう結びついていくのかが分かりました。今の勉強の大切さを再確認できて、高いモチベーションにつながりましたね。

関山　研究室配属は楽しかったですね。研究という今まで見えなかった世界を見ることができて新鮮な驚きがありました。臨床だけではない広い世界を知ることができて、とても意義があったと思います。

学長　医療は臨床だけではなく、根底には研究の世界があって成り立っているわけですから、そうした経験はとても重要ですね。大学では、臨床医も研究していますし、大学は教育と研究の場だということを理解してもらえたら嬉しいと思います。

司会　2年生の方々はどうですか。

川崎　高校時代とは勉強に対する姿勢が変わりましたね。少人数なので先生だけでなく、他の人の意見も聞くことができて、すごく刺激になっています。

坂本　前にいた大学では1学年が5,600名もいて、授業も一方的で、話したことがある先生も語学の先生ぐらいでした。慈恵では、多くの先生方とも話をすることができるので、モチベーションが違ってきますね。

段階的に学ぶことで系統的な理解が生まれる。

司会　2年生からは専門科目が入ってきますが、医学生としての自覚とか、気持ちの上で変化はありますか。

＊

大瀧　学年が上になるにつれて、いわゆる医学のイメージが強い科目が増えてきて、だんだん医師になっていくのだと気が引き締まる思いがします。それと同時に、今になって1、2年生の授業の大切さを再確認することも多いですね。

学長　大瀧君は、顔付きが変わってきたのが分かりますよ。ゆとりもあるし、人間として幅が出てきたような印象を受けますね。5年生になって実際に患者さんに接するようになると、もっと変わってくると思いますよ。

関山　今は自分が医師になるという自覚は確実にできてきています。専門科目が増えてくれるにしたがって、医師である父に近づいているんだなと思います。専門分野以外は、今しか学べないと思うと本当に一日一日、気が抜けないですね。

坂本　正直言って、1年生の授業は医学に直結していなかったので、意欲を維持するのが大変でした。2年生

になって臨床の先生の講義などを受けられるようになって、忘れかけていた想いが湧き上がってきました。今は勉強が楽しいですね。骨を描いているのも医学生らしくて楽しいなんて思ったりします。

川崎　2年生になってからは、今勉強していることが、将来どう役に立っていくのかを考えながら勉強に臨んでいます。今やらなければ後で後悔すると思うと、ひとつも無駄にできないという気になってきます。

学長　勉強には段階がありますし、順次性があります。何もかも一度に詰め込むことはできません。ある程度、積み上げていくことで、系統的に理解できるようになるのです。その意味で、大学の教育は各段階で終わりではなく、すべてが系統的に学ぶためのスタートなのです。

医学以外の分野についても真剣に学び医療人としての幅を広げたい。

関山　裕士

司会　前金沢大学付属病院長の河崎一夫先生の医学生に対する厳しいお言葉が朝日新聞に掲載されましたが、皆さんはどう思いましたか。（解説参照）

＊

大瀧　授業に記事のコピーを持っていらっしゃった先生もいて、インパクトは大きかったですね。確かにそう言われてしまうと返す言葉もない気がします。ただ、「『よく学び、よく遊び』は許されない」という言葉はそのままでは納得できないところもあります。知性や知力は勉強だけでは身につかないのではないでしょうか。いろいろな経験を積んだ上で新しく生み出されるものだと思います。

関山　河崎先生のおっしゃっていることは間違っていないと思います。確かに知識がなければ診断も治療もできませんから。ただ、学校以外で人と接することからも学ぶことがあるはずです。授業に出られない場合があったとしても、それなりに理由があればいいと思います。

坂本　ちょっと極論過ぎるとは思います。でもおっしゃりたいことはすごく良く分かります。本音では「遊ぶことは許されない」とは考えていらっしゃらないのではないかと思います。ただ、昔の学生の方がよく勉強していて、今の学生は遊びすぎというのは、全体としてはいわれても仕方ないというのが現実でしょう。

川崎　私は医学だけを学べとはおっしゃっていないと思います。きちんと学ぶ姿勢を崩さないで欲しいということではないでしょうか。学生は自分を甘やかせ過ぎだと思います。遊ぶなら遊ぶで、自分のためになると自信を持って言えるくらいならいいのですが。仲間との付き合いでお酒を飲む翌日に実習があったとして、その2つを自分の中でどう調整していくかを学ぶことも重要だと思います。

学長　確かにそうですね。遊ぶにしても自分でどう責任をとれるかということが大事です。怠惰に流されてはいけないということでしょう。今、世の中には医療に対する強い不信感があります。そうした中で、河崎先生は、後輩たちにしっかりして欲しいという思いがあって、こうしたお言葉をおっしゃったのだと思います。真面目に取り組んでいる大学は沢山ありますし、慈恵はその最たるものだと思っています。

医学以外のことに対しても学ぶという姿勢を持つことは重要です。研究の始まりはいつも知的好奇心です。学生の皆さんには、良き医療人になるために、学ぶことを通して変わっていって欲しいと思います。そのために大学としてはいろいろなカリキュラムを用意し、常に良くするための努力をしています。私たちも皆さんもよく学び、変わることで、慈恵もより良く変わっていくことができるのです。

解説：前金沢大学付属病院長　河崎一夫先生のコラム

朝日新聞の「私の視点」というコーナーに平成14年4月16日付けで掲載された「医学生へ-医学を選んだ君に問う」というコラムで、医学を選んだ学生の責任感の欠如を憂い、医師になるために厳しく自分を律することを求めた内容になっています。

『医師の知識不足は許されない。知識不足のまま医師になると、罪のない患者を死なす。』と警告を発するとともに、『こんな医師になりたくないなら「よく学び、よく遊び」は許されない。医学生は「よく学び、よく学び」しかないと覚悟せねばならない。』と説かれています。

また、医師にとって『心の真の平安をもたらすのは、富でも名声でも地位でもなく、人のため世のために役立つ何事かを成し遂げたと思える時なのだ。』と結ばれ、医師という職業の責任の重さを強調されています。

大瀧　佑平

人とのコミュニケーションが良き医療人としての原点。

司会　学生生活では課外活動も大事ですが、皆さんはクラブ活動にどのように取り組んでいますか。

＊

関山　私は剣道部に所属していますが、高校の頃と比べると、6年制だけに先輩・後輩のつながりは深いですね。精神的には鍛えられています。

川崎　運動が苦手なので、学生会活動をしています。自分を成長させるためには何か組織に所属したいと思ったのですが、とても役に立っています。先生と話す機会も多いですし、多くの人と話すために準備したり、周囲の意見を調整したりと学ぶことが沢山あります。

坂本　学生会と硬式野球部と、あと相撲部にも所属しています。いろいろな先輩がいて、いろいろな視点から意見が聞けるので役に立っています。もっともその意見を自分なりにどう解釈するかが大事なのですが、先輩には恵まれていると思います。

大瀧　私は大学ではなくて、母校の小・中学生に水泳を指導したり、ライフセイバーの活動をしています。大学では全員が医師になる人たちなので、なるべく別の世界の人と接する機会を増やして、世間の人とズレが起きないように心掛けています。

司会　医療人になるために人間性を高めるための工夫という点で何かされていますか。

＊

関山　クラブ活動では他の大学と積極的に交流を持って、いろいろな人の意見を受け止めることで人間性を高めることにつながっていると思います。また、学生会で責任者をやっていますが、自ずと自分が変わっていくのが分かります。学生会にせよクラブ活動にせよ、先生のご意見を伺うことで身が引き締まる気がします。

大瀧　人間性を高めるためにというわけではないのですが、生活の中で様々な人々と接する機会を増やして、そのひとつひとつを大切にするようにしています。また、政治・経済・哲学といった医学以外の人文系の本もよく読んでいます。

坂本　特別なことは一切やっていません。人間性は、日々の生活の中で多くの人と係わることで形成されていくものだと思います。とにかくいろいろなところに積極的に出て行くようにしています。

川崎　自分を甘やかさないで、積極的に他人に接することが大事だと思います。家族とどのように接していくかも同様に大事に考えています。面倒臭がらずにいろいろなところに積極的に出て行って、知識の獲得以外にも貪欲に取り組むようにしています。

学長　人生に無駄は無いと言いますから、積極性は大事ですね。何事も糧になるのだと思います。今の人はコミュニケーションが苦手だと言われていますが、人とのコミュニケーションが医療の原点です。いろいろな人と接点を持つことは、医師になるための訓練という意味でも良いことだと思います。人と接することで人間としての幅を広げてもらいたいですね。慈恵としても他大学との連携などを計画しています。

患者さんへの姿勢を通して建学の精神を具現化する。

司会　最後に慈恵医大に対しての率直な感想を聞かせてください。

＊

川崎　新しい校舎ができて変わるとは思うのですが、慈恵では患者さんと学生が一緒にいますよね。最初は患者さんが嫌がるからいけないことだと思っていました。でも患者さんが身近にいることは、私たち学生にとっては医学生であることを自覚する良い機会だと思いました。

「病気を診ずして、病人を診よ」という高木先生の言葉は入学してから知ったのですが、足りなかったのはこれだったんだと思いました。病気の人々を診るためにどうあるべきかを学べる環境があることはありがたいと思っています。カリキュラムを理想に近づけるように努力していただいていることにも感謝しています。

坂本　広喜

川崎　冬子

学長　新しい校舎に移っても学生諸君はきっと高木会館のロビーには集まってくるのでしょうね。あのロビーには患者さんだけでなく、患者さんのご家族もいらっしゃいます。医学生としての自覚を持って行動して欲しいと思っています。

坂本　私は将来、名医というよりは良医になりたいのです。それが理由で、慈恵を選びました。自分の医学を学ぶことへの満足感を満たしてもらい、卒業するときに良医になるための素養を身につけさせてもらえたらと思っています。もちろん、自分の努力は必要ですが。

関山　慈恵は本当に良い大学で、医学部を目指している弟にも迷わずに勧めています。学長とこうやって話をすることができる大学なんて他にないと思います。人間性を磨くためには人と人とのつながりが最も大事だと思いますが、慈恵にはそのつながりが濃密に存在します。人好きの私としては幸せですね。

大瀧　私もアットホームな雰囲気は好きですね。居心地の良さに流されてしまうのではという不安はありますが。高木先生の建学の精神は真理だと思いますが、体現することは非常に難しいのではないかと思っています。

学長　建学の精神は、慈恵で学んでいくうちに皆さんの中に育っていくはずです。この患者さんにとってこの治療はどういう意味があるのかと常に問いかけること。つまり自分のためにではなく、患者さんのためにどうしたら良いのかという自分の考えの原点があれば、最良で最適の医療を実践することができると思います。

●

学長　今日、皆さんのお話をお聞きして、医学そのものだけではなく、幅広く勉強していきたいという姿勢が分かって大変嬉しく思います。是非、広い視野に立って医学を勉強して、良き医療人に育ってください。そのためには、私たちもできるだけの努力をしていくつもりです。これからも、教員と学生が常に正面から向かい合って、より良い大学となるよう努力していきましょう。

共用試験と慈恵医大

The Jikei 第1号で「臨床実習開始前の学生評価のための共用試験システム」についてご紹介させていただきました。共用試験システムではコンピュータ試験（computer-based testing: CBT）と客観的臨床能力試験（objective structured clinical examination: OSCE）の2つが使われています。今回は共用試験CBTと慈恵医大の関連についてご報告させていただきたいと思います。

医学教育研究室
教授 福島 統

共用試験CBTには、その思想の根底に慈恵医大総合試験システムがあります。慈恵医大は平成8年度の医学科カリキュラム大改訂のとき、医学専門科目では講座制を廃し、講座とはまったく別の教育責任組織、「コース・ユニット制」を採用しました。この構造的改革により、解剖学、生理学、内科学、外科学のような講座縦割りの教育から、臓器・機能別の統合カリキュラムへの変換を行ったわけです。全国の多くの統合カリキュラム採用医学部は授業科目の変更は行ったものの、学生の学習活動を事実上規定する試験制度までは統合化できずにいます。慈恵医大はこのとき、他校では実施できずにいた試験そのものの統合化を実現化しました。それが「慈恵医大総合試験システム」です。

学生は試験に受かるために勉強します。試験問題は6年間の医学教育のカリキュラム構造に合ったものでなくてはなりません。そして慈恵医大が目指す医師養成の目的に合ったものでなければなりません。いままでの試験は教育を担当した講座が独自に自分の領域について、試験問題を作成、実施し、学生の成績を確定してきました。しかしながら、統合カリキュラムでは、この時期のこのコース・ユニットではこれだけのことを学生に求めなければならないという、学習項目と学習の深さが決められています。すなわち、教育が中央管理されて、学生に供給できるという機構が必要になるわけです。これを実現化するために開発されたものが総合試験システムです。

総合試験システムでは、各ユニット（教育単位）の講義実習担当者が作った試験問題がユニット責任者の校閲をへて、総合試験委員会に提出されます。総合試験委員会は専門の異なる委員から構成され、委員自身の専門を超えて、提出された試験問題が講義要綱に示されている学習目標や理解の深さに適合しているかを一問一問チェックしていきます。試験委員は、時には自分の上司が作った試験問題にクレームをつけたり、改善を要求したりすることも起こってきます。試験委員会で採択された問題のみが出題可能問題として学務課が管理する試験問題サーバーに蓄積されることになります。サーバーに蓄積された試験問題のレイアウトを整え、印刷し、試験が実施されます。多肢選択問題は学務課のOCRで採点され、論述試験は出題者により採点された点数データが学務課のOCRで記録され、サーバーに記録されます。そしてこのデータが学生の成績判定会議にかけられることになります。

総合試験を実施するために慈恵医大で独自開発されたシステムが慈恵医大総合試験システムです。EXAM98と呼んでいます。EXAM98は、試験問題入力ツール、試験問題データベース、試験問題編集システム、印刷システム、採点システム、試験実施後の成績分析システムなどが含まれた複合システムです。そしてこのシステムの運用責任部署は教員ではなく、学務課です。

私が学生時代は、試験は講座が行い、当時の教学部は講座から提出された成績を束ねることが仕事のようでした。しかしながら、現在は全ての試験問題をサーバーに落とし込み、試験委員会が訂正した問題文をサーバー上で訂正し、編集し、試験問題そのものを管理し、さらに採点しその採点データから試験実施後に判定される不適切問題や不適当問題のデータを削除し、学生の成績を確定する作業が学務課で行われているのです。すなわち、慈恵医大での教育活動は、教員と事務職の共同作業で遂行されているわけです。

また、EXAM98という複合システムは毎年のように、システムの改修が行われてきました。システム構築には膨大な仕事量がついて回ることは想像に難くないと思います。その改修の仕様を開発業者との間で、時間をかけて詰めてきたのはサーバーを操作する学務課職員とサーバー管理をサポートしたシステム企画課（現システム課）職員でした。このような平成8年以降の着実な積み重ねが慈恵医大総合試験システムを作り上げました。この慈恵医大の経験が、共用試験CBTのシステム開発にも生かされています。そして共用試験CBTは日本の医学教育を大きく変えようとしています。

総合試験ばかりでなく、客観的臨床能力試験（OSCE）やテュートリアルといった新しい教育手法は、複数講座の教員の力を集めて行われています。講座の枠を越えた教育では、教員の手配、教員への資料配布、演習室の手配、学生のグループ分けなどの仕事が付いて回ります。現在、4年生で実施しているテュートリアルを例にとれば、1年間に300名以上の教員の管理を行うことになります。それぞれの教員にテュートリアルに参加してもらうために、その教員の講座主任と診療部長に願い状を送付しなければなりません。教員の中には派遣病院出張中の教員もいます。そのときには派遣病院の病院長宛に出張願いも送付することになります。300名の教員のために、900通あまりの書類をスケジュールに合わせて発送するのです。

このように、教育は教員と学生のみで成り立っているのではありません。教員と職員と学生で成り立っているのです。これから慈恵医大がますます発展していくためには、教員と職員との共同作業が不可欠です。教員と職員のお互いを尊重しあう職場環境の一日も早い熟成が期待されます。

▲平成14年2月15日に、国領校に新設されたコンピュータ演習室で、共用試験CBTが全国に先駆けて実施されました。
国領校コンピュータ演習室にはWindows 2000 サーバと135台のコンピュータが設置されています。

視点

慈恵医大晴海トリトンクリニックにみるこれからの慈恵

慈恵医大晴海トリトンクリニック所長　阪本要一

POINT OF VIEW

中央区晴海1丁目の晴海アイランド・トリトンスクエア、オフィスタワーW館3階に平成14年4月1日、本学初めてのサテライト・クリニックである「慈恵医大晴海トリトンクリニック」がオープンした。

晴海アイランド・トリトンスクエアは住友商事を中心に開発された職住の多目的ビル群で構成され、約2万人の就業人口と約5千人の住居人口がある。そこに、保険診療によるクリニックと人間ドック、定期健診による予防医学とを備えた施設が設置された。

本稿では慈恵医大晴海トリトンクリニックにみるこれからの慈恵と題して、今サテライトクリニックを設置する意義とその未来を考察してみたい。

まずクリニックを慈恵大学の5番目の施設として捉えると、その使命の根底は診療・教育・研究にある。診療では、晴海トリトンクリニックは附属病院本院の組織の中に位置づけられているので、本院の一つの外来診療室が晴海にあるという感覚で、本院の一部として運営されている。そこで、大学病院で専門の診療を受けた患者に対し、その後のトータルケアを提供するファミリードクターとしての役割、すなわち病診連携のモデルケースとして考えることができる。

また、企業や地域住民にとって、外来診療を含めた健康管理を、居ながらにして時間を浪費せずに受けることが可能であることは、これほど恵まれたことはない。さらに、必要に応じて専門診療が速やかに受けられることも、新たな医療体系として注目を集めるものと思われる。

次に教育面で見ると、本学附属病院本院は特定機能病院として細分化された専門医療を行っているが、ここでは真の総合診療・プライマリーケアが中心になると予想される。そこで、総合診療あるいは予防医学に関連した教育の場としての有効利用も可能となる。すなわち、医学部学生の客観的臨床能力試験（OSCE）のための教育の場や、パイロットスタディで行われている電子カルテ教育、さらに正しい保険診療を学ぶ場として機能できるものと考えられる。

研究面では、生活習慣病やメンタルケアなど産業衛生に関連した、予防医学を考慮した前向き試験の計画が可能である。また、新薬の臨床治験も可能で、専用ブースの設置スペースもあり、それを利用したきめの細かい対応ができることと思われる。

今後本学がサテライトクリニックを増設する計画の中で、地域に根付いた診療が可能になれば、首都圏を中心とした専門医療とプライマリーケアの両面を持つ大学病院として高く評価されるものと期待される。

「研究余話」

マラリア

東京慈恵会熱帯医学研究部
客員教授　大友　弘士

マラリアは古くて新しい感染症である。人類が織り成す歴史に深くかかわりながら、幾多の惨禍を記録し、人知を尽くした対策を巧みにかわして、今なお年間3億人以上の感染者と200万人以上の犠牲者を強いているマラリアと私の付き合いも早35年以上の月日が流れた。

私のマラリアとの最初の邂逅は医学部卒業前年の7月から9月までタイに派遣された時である。当時、バンコクには世界保健機関（現在は世界保健機構）、東南アジア機構などの事務所や研究所が沢山あり、現地の大学を含めてマラリアの研究者が大勢いることに驚いたことを記憶している。そんなある日、一人の医師に誘われてジャングルを切り開いて進められていた鉄道工事現場の診療所を訪問した。この診療所はマラリア患者で賑わっていたが、突然看護婦の一人がうずくまって瞑目したのにびっくりし、医師に告げたところ「マラリアの発作が出たのだよ」と事も無げに言われた。その晩、バンガローハウスでの夕食時に医師から「流行地では無症候のマラリア患者がおり、時々熱発作を起こすが、日本人のようにマラリアに全く免疫をもっていない人が感染した時は直ぐに治療しないと致命的になる」と聞かされた。

この学生時代の体験が脳裡を離れず、インターン終了後、マラリア研究に従事したいと思い大学院に進んだが、いわばタイでのアーリーエクスポジャーが私の進路を決定したといえよう。そこで、大学院ではマラリアにおける病勢進展に関与する化学的伝達物質の研究に着手し、キニン―カリクレイン系の関与とその病態生理学的意義の一端を明らかにして、その後の病態生理学的研究に発展させることができた。また、わが国の国際化が進んで輸入マラリア症例と接触する機会が増え、患者救済を視野に入れた研究も重要と考え、その化学療法及び抗マラリア薬の薬物動態、さらに国の支援を得て各種熱帯病治療薬の供給体制の構築などにも取組み、医療環境の改善に貢献すべく努力して来た。

なお、本学では最近の感染症の変貌に対応すべく、岡村哲夫理事長をはじめ、大学上層部の英断により、2000年11月に附属病院に感染制御部が設置され、感染症の診療、コンサルテーション（熱帯医学講座、熱帯医学研究部と連携）、病院感染対策（感染対策委員会、感染制御チームと連携）などの業務を開始している。また、現在、輸入感染症が疑われて受診する患者は年間約100名、そのうちマラリアと確定し治療される患者は10～15名、熱帯医学講座と熱帯医学研究部が他機関から検体検査を依頼され、マラリアと確定される患者は年間40～60名に達しており、国内患者の半数弱が慈恵医大で診断されている。

さらに、今年5月1日から附属病院中央検査部では、マラリアのギムザ染色標本の鏡検及び抗原検査を24時間体制で受付けており、国内未発売の各種熱帯病治療薬は熱帯医学研究部から所定の手続きにより無償供与されている。

名誉教授
松田　誠

第一話

正直であれ

高木兼寛が生涯にわたって大切にした徳目に「正直」というのがあった。子供や孫たちにも、ことある毎に、正直であれ、嘘をついてはいけない、人をだましてはいけない、とまるでお経を唱えるように諭したという。

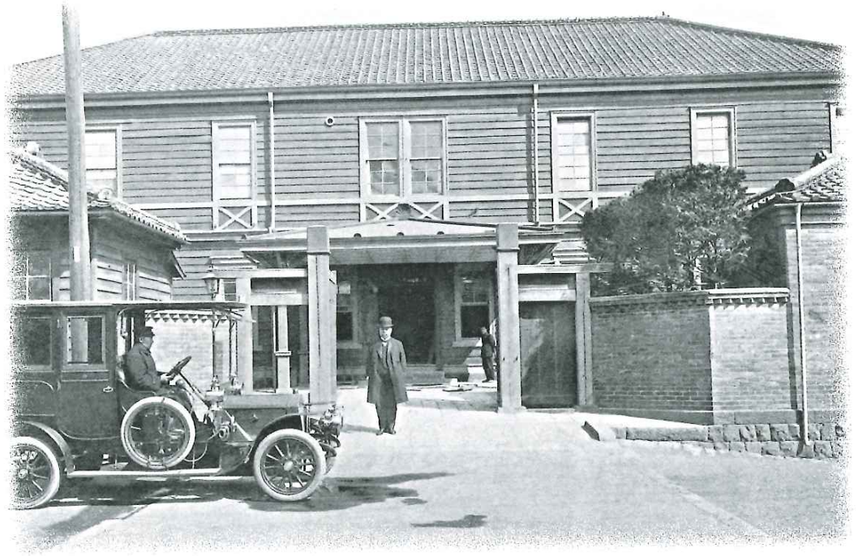
兼寛のこの正直であれという教訓は、彼の幼少のころの忘れがたい苦い体験からきている。彼は幼時から漢学の塾に通っていたが、ある日、遊びが面白くなって、つい塾を休んでしまったことがあった。彼はそれを内緒にして、親には塾にいったことにしていたが、悪いことに塾の先生がそのことをすっかり告げたために、父からきつい折檻をうけた。そしてその折檻の痕はながく残った。

その顛末はこのようであったという（兼寛晩年の講演より）。「私は武士の子で、大きくなれば武士になるべき筋合いのものでした。幼少の折から『武士は正直でなければならぬ』と教えられていましたが、ある時、偽りを言いました。すると父は、『かように嘘を言うものは、生かしておいても武士になることはできぬ。今日かぎり打ち殺してしまうから、さよう心得ろ』といって、割薪で臀部をひどく打ちました。私が痛さに堪えかねて悲鳴をあげると、母がきて、一緒に詫びてくれましたので、ようやく父の怒りも解けました。

私の臀部には、そのときの痕がながく残りましたが、母はそれを見るたびに、『お前はなぜ嘘を言ったか。人が見ていないからと思って悪事をしても、神仏はそばからちゃんと眺めておられるから、始終表も裏も同じように努めねばならぬ』と涙を流して訓戒しました。

私の今日あるは、この父母の一挙に原因があるといって差し支えありません」と。

筆者には、兼寛の人生にたいする基本姿勢は、この時にさだまったように思われる。「正直」をふくめて、すべての徳目を守るには、その背景にそれを支える神仏のはたらきが必要であるという姿勢もこの時にさだまったのである。



彼は明治36年ころ、自ら校長をつとめる東京慈恵医院医学専門学校で、彼独自の人間教育をはじめた。それは、それまでの経験から、医学教育には知識の教育だけでは不十分であり、必ずしも良医を育てることができないことを覚ったためであった。その独自の人間教育というのは、一つは入学試験に「品性試験」なるものを加えたことであり、もう一つは在学生に「明徳会」なる精神修養の講座を設けたことであった。「品性試験」では、受験生に、どんな理想をもっているかとか、どんな宗教を信じているか、などを口頭試問して、とくに高い理想をもたない者や、宗教に無関心な粗野な人物は遠慮なく落第させたといわれる。

一方の「明徳会」では、名僧高徳を招いて講義をしていただき、それを全員で拝聴させた。

そもそも医師には、患者の苦しみ、痛みに共感し、これをいたわり、慰める感性が必要であるが、兼寛は、この「明徳会」によってその感性を涵養するとともに、それが神仏の慈悲（愛）に根ざしていることを教えたかったものと思われる。

兼寛自身、英国留学時には毎週教会に通うほどキリスト教に接近し、また明徳会を開くころは仏教に傾倒し、さらに晩年には神道に心酔していったが、それは、幼少のおり母から「神仏はいつもそばから眺めておられる」と訓戒されたその神仏のすがたを求める遍歴の旅だったのではなかろうか。

◆◆◆

随想

変革期に求められる病院事務のあり方

附属病院事務部長
今出進章

本年4月より、附属病院事務部長を仰せ付かったイマデ ノブアキです。初対面の方に正確に名を呼ばれた事がまず有りません。

分院も含め医事課20年、企画調査室4年、人事部3年、病院管理課1年の経験を経て今日にいたっております。長年の経験だけでは対応できない程、医療界を取り巻く環境の変化の速さと、課題の多さに気持ちも新たにした次第です。

これからの医療界の大変さは、散々言い尽くされている事ですが少子高齢化が進み、経済基調が変化を向える中で、現在の医療水準を維持していくには医療制度改革が不可欠であると言われております。情報開示に基づく患者の選択を尊重したうえで、医療の質の向上と効率化をはかり、国民の医療に対する安心と信頼を確保することが大切であるとする政策が推し進められております。

これからの5年

昨年12月に保健医療情報システム検討会から医療情報提供体制のグランドデザインが出され、電子カルテ、電子媒体によるレセプト請求等IT化の推進について、今後の5年間を見据えた情報化計画（工程表）が示されております。この情報化を実現するには、事務職員の業務内容も大きな変化を要求されます。また、広告規制の緩和、医療機関情報提供の推進、第三者による医療機能評価、病診・病病連携、包括医療の導入、危機管理体制の構築等制度改革の目標は数多くあります。

第三者の評価に耐えうる体制づくりと情報の公開を進めることにより、医療の質の向上を図ると共に効率化を進めようとする政策が着実に実現されようとしています。まさに医療も患者さんからの選択の時代に入ったといっても過言ではありません。外に向っていかに的確に情報を発信できるかが重要になってきます。

最良の方策

ビジネスマナーの基本は「信頼」であると言われます。昨今の企業の不祥事、銀行統合によるシステム障害等すべてが顧客の信頼を裏切った見返りとして企業の存続自体が危ぶまれております。医療も、「選択される時代」にあっては同様であります。

アメリカには、Honesty is the best policy（正直は最良の方策）ということわざがあるとのことです。反面日本のことわざでは正直者が馬鹿を見るとも言われます。バブル真っ盛りの頃は、正に「正直者が馬鹿を見る」風潮がありました。しかし、昨今の企業の倒産劇をみると因果応報と思われる場面が数多くあります。前者に優るものはないと思います。

利休に学ぶ

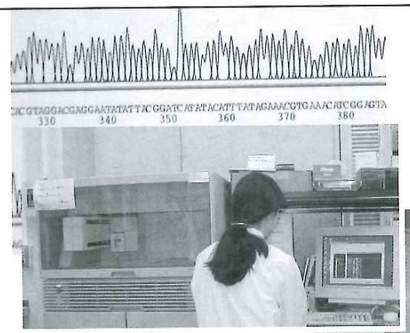
現在放映されている大河ドラマに千利休の姿を見ることがありますが、利休の言葉に「稽古とは一より習ひ十を知り十よりかへるもとのその一」があります。利休が茶道の心得を詠んだ教導歌集の利休百首にある教えです。基本の大切さを教えたものと理解しております。

我々、病院運営の一翼を担っている事務職員としては、どんなに情報化が進み、新しい体制の整備と効率化が求められても、信頼を得ることを基本に正直であれば、変化の激しい中にあっても迷うことなく、最良の道を選択できるものと確信しております。

学内めぐり

DNA医学研究所 分子遺伝学研究部門

部門長
山田 尚



▲シーケンサーと解析結果

▲ジーンチップ

ジーンチップによる解析▶

2001年、ヒトDNA塩基配列のほとんどが決定されました。これをもってゲノムプロジェクトの終了を宣言する人もいます。しかし、ヒト遺伝情報は本当に全てが解明されたのでしょうか。私たちは今、ヒトDNAの基本的な塩基配列を手に入れました。疾病の原因解明と治療法の開発に向けて、これからが真のゲノム時代ではないでしょうか。

DNA医学研究所分子遺伝学研究部門は大学における遺伝情報の解析を受け持つ部門と位置づけられております。はじめに我々の研究課題から紹介いたします。中心的課題はがんの細胞生物学で細胞周期、細胞死、遺伝子不安定性そして薬剤作用機序を分子レベルから解明する研究を行っております。これらを通して悪性腫瘍の新たな診断法と治療法の開発を目指しております。詳細は大学の教育研究年報やDNA医学研究所年報を参考にしていただくことにして、ここでは皆様方とより密接に関連する分野を紹介いたします。

私どもの部門に期待されている仕事の一つに学内における研究支援があります。DNA塩基配列の解析（シーケンシング）はその中心的業務です。研究所内をはじめ学内からの委託を受けてシーケンシングを行っております。当初はシーケンサーが1台の状況でしたが大学の支援のもと、文部科学省のハイテクリサーチセンター整備事業及びバイオベンチャー研究開発拠点整備事業で最新のシーケンサーを導入することができました。現在、シーケンサー4台が稼動しており、研究者のニーズに合わせて利用できるようになっております。シーケンサーの性能も向上し一度に解析できる長さが従来の400塩基程度から現在では650から700塩基まで可能となりました。これにより2、3回のシーケンシングを要したところを一度に終了することができるようになりました。また、新しいシーケンサーにはDNA fragment解析機能が追加されており遺伝子不安定性や微小変化を捉えることが可能となっており、多方面での研究に利用いただいております。

平成13年より新たに提供している技術にジーンチップによる遺伝子発現解析があります。分子生物学の花形的技術でありますジーンチップもバイオベンチャープロジェクトで導入させていただきました。遺伝子発現解析は今まではノーザンブロットやRT-PCRといった方法で個々の遺伝子毎に発現を検討しておりましたが、ジーンチップの出現で網羅的に解析することが可能となりました。高々、1センチメートル四方のチップで3万以上の遺伝子発現を一度に解析できます。現在、学内ではこの技術を用いて中枢神経系の発生、人工肝臓作成のための基礎的研究、心筋細胞と虚血、癌細胞の分化など多方面にわたる研究がなされております。

以上のように、分子遺伝学研究部門は大学における基礎的研究や臨床研究と深く結びついた部門であります。研究員一同はこれからも一層の研鑽に励む所存でありますので、皆様方のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

西新橋校に大学1号館完成
教育と研究の新たな拠点として展開

これまでの大学本館に代わり、本学における教育と研究の新たな拠点となる大学1号館が、2002年3月に完成しました。地上18階、地下3階のこの建物は、教育施設と一部の基礎医学講座、総合医科学研究センターの3部門から構成されており、それぞれが最新の設備を備えています。

教育施設としては、最新のAV機器などを備えた講堂が設置されているほか、講義室や実習室、学生ホールなどが設けられています。大学本館から移転した一部の基礎医学講座は14階から17階に設置されており、よりよい環境の中で伝統に基づいた研究が行われます。総合医科学研究センターでは、文部科学省の補助を得て、バイオベンチャー開発拠点として先端的な研究が行われます。

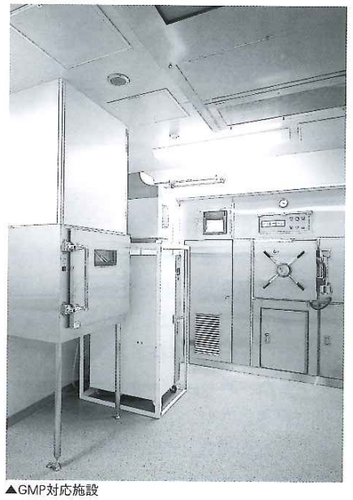
建物南側の居室部分は、連続した窓と16.4mの無柱空間が採用され、明るく眺めの良い設計になっています。また機密性、クリーン度が確保されたP3やクリーンルーム、温湿度、気圧の厳密な管理が可能なGMP諸室や動物施設など、教育・研究施設としての機能性が追及されているほか、二重床下による漏水対応や災害時のバイオハザード対応など、安全性も確保されています。さらに電気設備を各階で完結させることにより、上下階に影響を与えず改修が可能で、将来の変化に柔軟に対応することができます。

▲3月に完成した大学1号館

▲講堂

▲実習室

▲学生ホール


▲GMP対応施設

慈恵医大晴海トリトンクリニックが開設
晴海アイランドトリトンスクエアで総合診療を提供

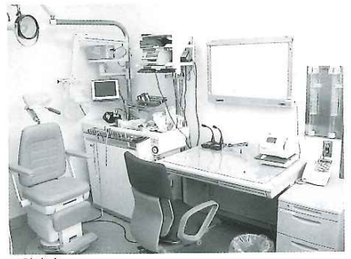
近代的なオフィスビルが並ぶ晴海アイランドトリトンスクエアに、慈恵医大晴海トリトンクリニックが、2002年4月1日にオープンしました。クリニックはオフィスタワーW館3階に開設されました。

晴海アイランドトリトンスクエアは、4棟のオフィスビルに約2万人が就業し、住居棟には1800戸、約5000人が暮らしている大規模な新しい都市で、住友商事により開発され、昨年4月にオープンしました。診療所や人間ドック、検診などのメディカルサービスを提供できるクリニックを開設する際に本学に打診があり、この度の開設となりました。

慈恵医大晴海トリトンクリニックには、常設診療科として内科と歯科が、特設診療科として眼科、耳鼻咽喉科、整形外科、産婦人科、精神神経科（メンタルクリニック）が設置されています。また人間ドックや定期健康診断なども行っているほか、内視鏡科、放射線科も設置されています。なお常勤で5名、非常勤で10～11名の医師が勤務しています。

▲晴海アイランドトリトンスクエア～写真左手前がW館

▲ロビー

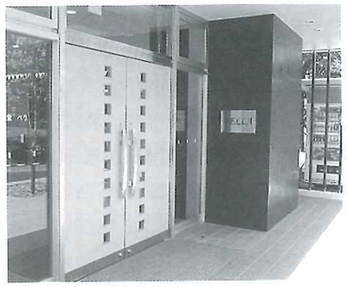

▲診察室

国領校の学生食堂ベラ、リニューアルオープン
良好な環境で、おいしくリーズナブルな料理を

国領校で現在まで24年間に渡って、学生・教職員に安くておいしい料理を提供している学生食堂ベラが、リニューアルオープンしました。

ベラ（Bella）はラテン系の言葉で「美しい」という意味の語で、ベラ開設の際に久志本常孝教授（当時）が命名しました。コック長は開設当時から現在まで、前田宣彦氏が務めています。この度、長年の使用で施設の老朽化が目立つようになり、解体した国領校2号館の跡地に新築することとなりました。

新しいベラは延床面積295.2㎡、鉄骨造りの平屋建てで、座席数は屋内が120席、屋外が40席となっています。またテラスに面した南側の壁一面にガラスを使用して、明るく開放感のある設計になっているなど、居住性も考慮されています。


▲新しくなったベラの入り口

▲日当たりが良く明るい室内

同窓会活動における『慈大新聞』の過去・現在・未来

慈大新聞編集長
原　貞夫

『車の両輪』という言葉に象徴されているように、我が慈恵に於いては大学と同窓会は従来より極めて良好な関係を維持してきました。歴史的にも大学が存亡の危機に直面した関東大震災や第二次世界大戦の折、更には種々の募金に際しても同窓会はその組織力を生かし最大限の支援をしてきた経緯があります。

このような素晴らしい伝統が今日に到るまで脈々と引き継がれているのです。

前号に小田泰治同窓会長が同窓会全般の活動について書かれましたので今回は同窓会活動の重要な柱の一つである『慈大新聞』についてご紹介いたします。

はじめに、新聞のルーツをたどってみますと『慈大新聞』は同窓会の機関紙『慈大愛宕新聞』と学生新聞である『学友会々報』の合併により誕生したもので、その第一号は昭和15年5月20日に発行されました。当時の金杉英五郎学長は【大学新聞】の誕生である事を宣言し母校を中心として学校当局、同窓会、学生が従来より一層強固に結合した意義を強調しております。その後60年以上にわたり大学の広報紙的な機能も担いつつ継続されてまいりました。

現在、慈大新聞は月一回、年間12回、8000部以上を印刷しており同窓は勿論、学生、学生父兄、他大学など国内・国外を問わず広く配付しております。その主な役割は2つあり、「同窓同士の情報交換」と「大学と同窓を結ぶパイプ役」であります。特に大学から離れておられる同窓の関心が深いようで愛読されている方も多く、同窓会運営に不可欠の高い会費納入率にも大きく貢献しているものと考えられます。

私達の編集委員会は編集長以下総勢24名の委員により構成され紙面の向上に努力するとともに学内外より幅広い情報の収集につとめております。

大学関連の刊行物としては、平成7年2月に『大学広報』そして平成14年3月に法人広報誌『The JIKEI』が各々創刊されております。これからは『慈大新聞』も同窓会新聞としての役割を中心に号を重ねて行く事になりますが新しい時代に向けて日々リニューアルしていきたいと思っております。

最近の同窓会理事会に於いてホームページについて議論され新聞編集部が窓口となって広報活動を推進することになり、以下の事が確認されました。

1. 同窓会専用のメールアドレスの取得。
   (jidaidosokai@jikei.ac.jp)
2. 一般会員から同窓会への住所変更その他の連絡・問い合わせにメールを利用。
3. 慈大新聞への投稿に積極的にメール利用をすすめる。
4. 新聞編集会議では資料（紙面構成予定etc）の配付などからメール利用を開始する。
5. 本部事務局・役員・編集委員などの連絡にメールも利用する。

同窓会も積極的にIT化を推進するにあたりその環境作りをしなければならない時期にきていると思います。

紙を媒体とした慈大新聞の役割も捨て難くまだ当分続くでしょうが、長年、新聞の発行人をされていた南雲今朝雄先生が予言されたように、いつの日かスタイルを変えデジタル化され全世界に配信される時代がくるかも知れません。

(sadao@ea.mbn.or.jp)

慈恵看護専門学校同窓会・恵和会の主な活動

恵和会会長
塚本　光子

平成14年3月15日・金曜日、慈恵大学中央講堂において、4つの看護専門学校の卒業式が厳かに行われ、171名が卒業いたしました。その171名が4月より恵和会会員となり、卒業生総数からの正会員数は、慈恵看護専門学校5,613名、青戸看護専門学校782名、第三看護専門学校1,381名、柏看護専門学校705名、合計8,481名となりました。

恵和会は「The JIKEI」創刊号に掲載されたとおり「会員相互の親睦、看護の向上を図り、看護教育の充実発展」を目的としております。その目的を果たすため、毎年事業計画を立て活動を行っておりますが、平成14年度恵和会事業の主な活動は次のとおりです。

- ・特別講演会（会員対象と学生対象に実施）
- ・青山墓地墓参・清掃
- ・会報刊行（10月発刊予定）
- ・四校への後援
- ・70周年記念式典の準備

特別講演会

対象を会員と学生に分け開催しております。会員向けの開催は、今年度で2回目となりますが、現在、企画担当を決め検討しております。ちなみに1回目は、平成11年度、看護協会理事・山崎 麻耶 先生により「介護保険制度について」ご講演いただき、大盛況でありましたが、今年度もこうした開催を目指しております。一方、学生を対象とした講演会は5回目になりますが、今年は、去る5月11日（土）に文化人類学者でお茶の水女子大学教授の波平恵美子先生を講師にお招きし、「看護におけるコミュニケーションの多様性」について講演いただきました。中央講堂は、四校の看護学生で満席の状態でありました。

青山墓地の墓参

明治初期に建てられた卒業生のお墓を昨年改修工事いたしました。今年度も例年どおり10月28日・月曜日、大学主催による解剖祭終了後、役員等で墓参する予定です。大先輩の墓参を行うと共に、日本最古の看護教育の歴史や先輩の遺徳を後輩に伝えることも恵和会の大切な役割と認識しております。

会報の刊行

年に1回発行しております。今年は10月を目標に計画しておりますが、会報を通して恵和会の活動状況や会員の近況、クラス会等の記事掲載を行うと共に四看護専門学校、慈恵大学、各機関附属病院の情報提供をと考えております。なお、今年度は誌面を従前の2面から4面印刷に変更し、内容の充実を図り、会員各位のご期待に応えるよう取り組みたいと思っております。

四校への後援

毎年3月の卒業式には、在学中成績優秀であった学生に（各専門学校1名、計4名）恵和会賞を授与しております。また、事前に卒業生へは恵和会員の入会説明を行うと共に記念品を贈呈しております。その他、今後も入学式や四校の戴帽式への後援にも努めてまいります。

70周年記念式典の準備

平成15年度は、恵和会設立70周年を迎え、記念式典を行う事を昨年の理事会で決定いたしました。今年はその記念式典の開催準備を行うべく、理事会の定期開催をより実りある会にして活動してまいりたいと思っております。

CAMPUS NEWS キャンパスニュース

多様な人との出会いや多くの体験は、教育の原点

平成14年度医学部入学式

医学部医学科・看護学科の入学式が、4月4日の午後2時より、中央講堂で挙行されました。本年度の新入学生は、医学科103名、看護学科33名の全136名です。

音楽部員が演奏する「威風堂々」が流れる中、栗原敏学長を先頭に、岡村哲夫理事長、名取禮二名誉学長、阿部正和元学長が入場し、厳粛な雰囲気のなかで、西澤学事部長による開会の宣言で入学式が始まりました。国歌斉唱の後、新入学生全員の名前が一人一人読み上げられ、学長により入学が許可されました。

次に医学科の柳沢春華さんと看護学科の小坂井里恵さんが、新入学生を代表して誓いのことばを述べました。二人は慈恵医大の建学の精神を学び、良識ある医師や看護師になるために努力し、また、クラブ活動やボランティア活動を通して人間的な成長を目指すなど、入学にあたっての決意を述べました。

▲新入学生の代表による誓いの言葉

▲医学科・看護学科全136名の新入学生

続いて栗原学長が告辞を述べ、多様な人との出会いや多くの体験は、本や電子媒体で得る知識とは異なるものを得ることができ、教育の原点であること、多様な人を理解し全人的な医療を実践するためには幅広い知識と豊かな感性が必要であることなどを語り、新入学生を励ましました。

そして医学科の伊東哲史君と看護学科の野村聡美さんに記念品として高木先生の「記念フォトフレーム」が手渡された後に、参列者全員による学生歌「曙満ちくる」の斉唱で入学式を終えました。

入学式終了後、看護学科の新入学生と父兄、教職員はバスで国領キャンパスへ移動し、医学科の新入学生父兄は、新築の大学1号館を見学した後に、高木2号館地下のカフェテリア「リーベ」で開催された父兄会主催の懇親会に参加しました。

▲告示を述べる栗原学長

良き医療のために、人と接する態度の涵養を

慈恵医大・上智大学 第2回ジョイントシンポジウム

去る4月25日、高木会館2号館南講堂において、慈恵医大・上智大学第2回ジョイントシンポジウム-両大学における人間性涵養のための教育-が開催されました。

この度のシンポジウムでは、21世紀の日本を担う学生の人間性涵養の問題が取り上げられました。当日配布されたプログラムに掲載されていた栗原敏学長、ウイリアム・カリー学長の挨拶文には、この度のシンポジウムの開催趣旨を次のように説明しています。「今回のシンポジウムでは、21世紀の日本を担う学生の人間性涵養の問題を取り上げました。科学技術創造立国を日指している日本の教育のあり方が問われていますが、中でも人間教育は現在における日本社会だけでなく、世界全体の大きな課題ともいわれています。人と人とのコミュニケーションは社会生活の原点です。以前に比べて、コミュニケーションの手段は多様になりましたが、ITの発達によって人と直接会って意思の疎通をはかり、相互理解を深める機会が少なくなりつつあります。電子媒体が発達すればするほど、感動が人から人へ伝わる機会が少なくなり、一層、人間教育の必要性が問われます。特に医療の分野では病を持った人々と接する医療人の心のあり方が問題になっています。病める人や多様な人の言うことに良く耳を傾け、全人的に理解することが、良き医療の第一歩です。単に知識や技能を修得するだけでなく、人と接する態度の涵養が求められます。これらを踏まえて、このシンポジウムでは、両大学でこの方面に深い関心をお持ちになっている方々にお話をお願いしました。」

以上のような趣旨を踏まえて、両大学からこの方面に関わりの深い先生方に、研究発表を行っていただきました。当日は、木村直史教授（薬理学講座第2、医学教育研究室）、谷口清教授（人間科学教室心理学研究室）が司会を担当し、栗原敏学長の挨拶に続いて、次の5演題について研究発表が行われました。

1. 大学における人間教育
長島正教授
上智大学人間学研究室長

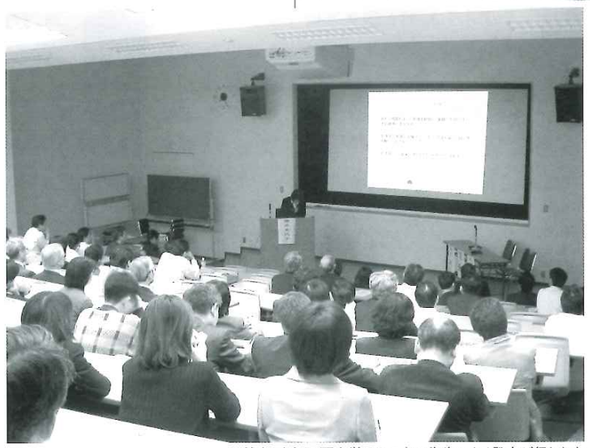
2. 病人の心理、その何を教えるのか
牛島定信教授
慈恵医大精神医学講座

3. こころを学ぶ者への教育
荻野美佐子教授
上智大学文学部心理学科長

4. 良好な患者-医師関係構築のための医学教育
川村哲也助教授
慈恵医大内科学講座

5. ケアの本質を学ぶ看護学教育
櫻井美代子教授
慈恵医大看護学科

発表終了後の総合討論を経て7時45分に閉会となり、引き続き「リーベ」で懇親会が催されました。シンポジウムは大盛況のうちに終わり、南講堂に予備の椅子を補充するほどの参加者を集めました。


▲慈恵・上智の両大学から、5人の先生による発表が行われた

医師・看護師の国家試験結果発表

第96回医師国家試験 第91回看護師国家試験 第88回保健師国家試験

第96回医師国家試験の結果が、4月25日に発表されました。全体の合格者は7881名で、合格率は90.4%でした。平成14年3月に本学を卒業した新卒業生90名が試験に臨み、88名が合格しました。卒業後に受験した1名も、合格を果たしました。この度の試験において本学の合格率は97.8%となりました。

また、第91回看護師国家試験、および第88回保健師国家試験の結果も発表されました。なお各校の合格状況は下表の通りです。

第96回医師国家試験合格状況　（　は前回の数字）

区分	校数	総数			新卒業生（平成14年3月卒）			既卒業生		
		受験者数（名）	合格者数（名）	合格率（%）	受験者数（名）	合格者数（名）	合格率（%）	受験者数（名）	合格者数（名）	合格率（%）
本学	—	91	89	97.8	90	88	97.8	1	1	100.0
		122	121	99.2	109	108	99.1	13	13	100.0
国立	43	4,557	4,198	92.1	4,198	4,001	95.3	359	197	54.9
		4,781	4,420	92.4	3,986	3,815	95.7	795	605	76.1
公立	8	726	686	94.5	667	645	96.7	59	41	69.5
		771	711	92.2	663	627	94.6	108	84	77.8
私立	29	3,411	2,981	87.4	2,947	2,728	92.6	464	253	54.5
		3,686	3,225	87.5	2,767	2,562	92.6	919	663	72.1
その他	—	25	16	64.0	19	13	68.4	6	3	50.0
		28	18	64.3	16	13	81.3	12	5	41.7
合計	80	8,719	7,881	90.4	7,831	7,387	94.3	888	494	55.6
		9,266	8,374	90.4	7,432	7,017	94.4	1,834	1,357	74.0

第91回看護師国家試験合格状況

	医学部看護学科	新橋	青戸	第三	柏
受験者数（名）	33	61	29	27	54
合格者数（名）	33	60	29	27	52
合格率　（%）	100.0	98.4	100	100	96.3
全国合格率（%）	84.8				

第88回保健師国家試験合格状況

区分	校数	受験者数（名）	合格者数（名）	合格率（%）
医学部看護学科		33	31	93.9
大　　学	62	4,702	3,870	82.3
短期大学専攻科	22	691	642	92.9
養　成　所	45	1,195	1,101	92.1
合　　計	129	6,588	5,613	85.2

患者さんと良好な関係を築く態度・コミュニケーション能力を学ぶ

医学科・看護学科1年生合同授業「日本語表現法・医療面接のデモンストレーション」——

4月16日火曜日の9時～10時30分と10時40分～12時10分の時間帯に、医学科・看護学科1年生の合同授業「日本語表現法・医療面接のデモンストレーション」が行われました。

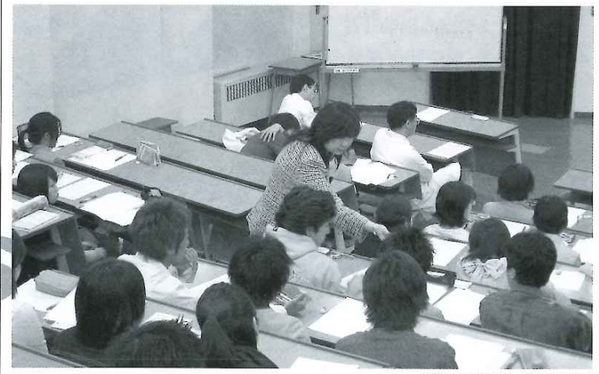
この講義は、野呂幾久子助教授、佐伯晴子講師が担当され、患者さんと良好な関係を築くために必要な態度と、それを表現するためのコミュニケーション能力を身につけることを目的としています。医療者として知識や技術が必要であることはもちろん、患者さんを人間として尊重し、大切にしようとする態度も必要です。そしてその態度を患者さんやその家族に伝えるためには、言葉や振るまいでそれを表現できるコミュニケーション能力を身につける必要があります。

当日は、堀教授、福島教授が医師役、佐伯講師が患者役となって、診療にあたる医師の好ましくない姿と好ましい姿のロールプレイングを行い、患者応対にあたる看護師の好ましくない姿をビデオで上映しました。佐伯講師がマイクを持って学生に感想を求めると、好ましくない医師の姿として「言葉遣いがそっけない」、「患者さんの顔を見ていない」、好ましい医師の姿は「不安げに病状を訴えている患者さんの目を見ての応対は、患者さんに安心感を与える」などの意見が出ました。

その後、堀教授、福島教授からロールプレイングを行う際に意識した点などについて説明が加えられました。

さらに日常生活の中でも、ものの言い方や食事のマナー、電車に乗っている時の何気ない仕草などを、人は見ているものだし、見られているものだとの指摘がありました。

▲医療面接のデモンストレーションからコミュニケーションを考える



▲学生に感想を聞く佐伯講師

CD教材「臨床入門テュートリアル」について

臨床入門テュートリアル——

医学教育研究室　古谷伸之、福島　統
医学情報センター　小松一祐

「これから旅をする人（医学生）に、多くの食料（医学知識）を持たせても重くて長く歩けず、しかもそのうち腐ってしまう。旅を始めるための少しの食料と、狩りや漁など旅先の状況に合わせて食料を得る方法（問題抽出および解決）を教えてあげれば、旅人は飢えることはない。」

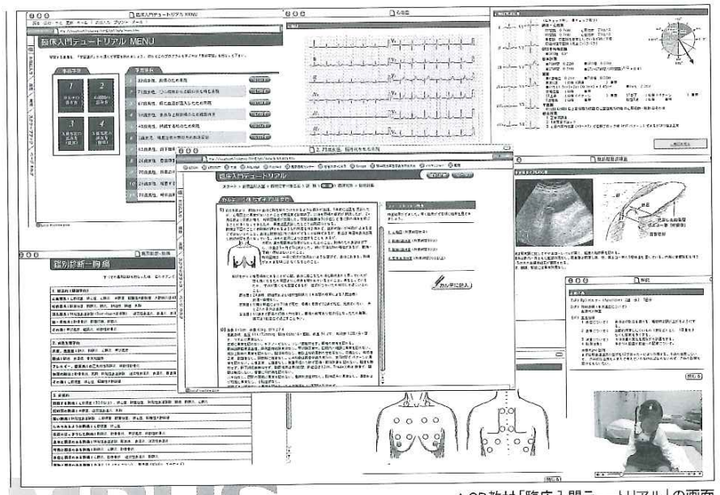
▲医学教育研究室
古谷伸之助手

医学教育で学生が得た知識の半分は5年以内に最新のものではなくなってしまうと言われているため、本学では講義などによる知識教育だけでなく、臨床の中で必要な問題解決能力の開発のために、平成10年にテュートリアル教育を導入しました。

CD教材「臨床入門テュートリアル」は、医学科4年次に行われている患者診療モデルを用いた臨床医学演習をもとに、診療プロセスの学習と臨床推論能力の獲得を目的に、本学テュートリアル委員会の協力のもと作成されました。

過去の患者診療モデルから厳選した11症例は、外来や救急室での診療を想定した患者モデルであり、得られた所見は診療録記載を行いながら診療を進めていきます。診察前の情報、患者の到着（入室）、緊急性の評価、問診、身体診察、臨床検査、臨床判断、診療計画のステップごとに、的確な臨床推論を行い問題を解決してくことをシミュレーションしていくことで、臨床での問題解決の方法論を身に付けていきます。また、患者入室時の状態はビデオ映像で、問診や心臓聴診・呼吸聴診は音声で出力され、患者としてのリアリティも配慮されています。心電図や単純X線は画像のほか判読結果やスケッチも提示されるようになっており、添付されている事前学習資料を使うことでより効果的な学習が可能となっています。このように豊富な学習内容のため、グループ学習では特に高い学習効果を得られると思われます。

慈恵医大では、この教材を使って臨床実習前に「模擬診療」のトレーニングをする教育体制を作っています。そして、臨床実習をより安全で学習効果の高いものとすることが可能になると考えています。



▲CD教材「臨床入門テュートリアル」の画面

京都府立医科大学との定期対抗戦結果

平成14年度慈恵医大・京都府立医科大定期対抗戦——

平成14年4月28日（日）～5月1日（水）にかけて京都府立医科大学との定期戦が開催されました。対戦運動競技は16種目で、今年度は本学の7勝11敗という結果に終りました。この定期戦は、昭和9年11月15日～16日に開催されたのが始まりという長い伝統があり、その間、第1次・第2次世界大戦などによって、中断の止む無きに至ったこともありました。しかし、現在は、隔年ごとに京都、東京とその試合会場を移し、サッカー、ラグビー、テニス等熱戦が繰り広げられています。

▲慈恵医大が勝利したラグビーの試合

定期戦結果

	東京慈恵医科大学	対	京都府立医科大学
サッカー		2－3	○
ラグビー	○	48－8	
準硬式野球		5－13	○
硬式テニス・男子	○	9－2	
女子	○	3－2	
軟式テニス		雨天中止	
バスケットボール		49－84	○
バレーボール・男子		0－2	○
女子		0－2	○
バトミントン・男子	○	3－2	
女子		0－2	○
ハンドボール	○	19－17	
卓球		3－4	○
弓道		38－62	○
柔道		0勝3敗2分	○
空手	○	2勝1敗1分	
剣道	○	2勝1敗	
ヨット			○
ゴルフ		537－527	○
対戦成績	7勝		11勝

JIKEI TOPICS

学内ニュース

若い希望と柔軟な感性をもって努力したい

平成14年度新入職員就任式

去る4月1日(月)午前10時より、中央講堂において「平成14年度新入職員就任式」が挙行されました。

冒頭、松本人事部長より新入職員数について総数506名と報告が行われました。続いて理事長告辞、学長挨拶、附属病院長挨拶の後、新入職員代表就任の言葉を事務部医事課・安藤真之君が次のように述べました。

「本日より永い歴史と伝統を誇る慈恵大学の職員として第一歩を踏み出すことになりました。それは、社会人としての第一歩でもあり、私たちの心は、医療機関に勤めることの責任と自覚、そして未知の世界への不安ならびに医療機関を通して社会に役立つ喜びが入り混じり、複雑な気持ちでいっぱいです。……近年、医療機関を取り巻く環境は社会情勢と共に厳しい状況にありますが、私たちは若い希望と柔軟な感性をもって努力することをお約束いたします。皆様におかれましては、どうかこの心構えをご理解いただき、一日も早く立派な慈恵大学の職員と呼ばれるよう、ご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。」

この言葉を受けて、1年先輩の事務部医事課・平野孝夫君が在職職員代表として歓迎の言葉を述べました。その後、松井専務理事が主な大学役員を紹介して、閉式となりました。今年度は、中央講堂2階席も使用しての新入職員就任式でした。

▲総数506名の新入職員

最強の布陣で来るべき大会にのぞむ

慈恵大学職員野球部合宿トレーニング

慈恵大学職員野球部は、毎年8月に開催される私立大学連盟職員野球大会ならびに日本私立医科大学協会加盟大学職員野球大会に出場しています。これらの大会に参加するため4月28日(日)、29日(祝)の連休を利用して、大学契約保養施設・千葉県九十九里蓮沼海岸 ホテル浪川荘で野球部合宿トレーニングを行いました。参加者はマネージャーを含む22名で、ベースランニング、守備、打撃練習、サインプレーなど久しぶりに部員たちの大声がグランド内に響きわたりました。

▲大会を控え練習にも力が入る

今回は練習中の姿をビデオカメラに収録し、練習後の懇親会開催時に放映し、相互に入念なチェックを行いました。今年度本学は、日本私立医科大学協会加盟大学職員野球大会の運営委員長校を務めることになっているので、いつになく練習に力が入っています。

今後も合宿練習を重ね、「最強の布陣をもって来るべき大会に備えたい」と監督も抱負を語っています。なお、今年度の私立大学連盟職員野球大会ならびに日本私立医科大学協会加盟大学職員野球大会の日程、試合会場は次のとおりです。

私立大学連盟職員野球大会

日時：平成14年8月7日(水)～9日(金)
　　予備日10日(土)
会場：東京健保組合大宮運動場野球場(予定)

日本私立医科大学協会加盟大学職員野球大会

日時：平成14年8月21日(水)～22日(木)
　　予備日23日(金)
会場：夢の島総合運動場野球場(予定)

地域医療ネットワークの構築に向けて

柏病院第2回地域医療連携フォーラム

5月15日水曜日の午後7時より、臨床医学研究所講堂にて第2回柏病院地域医療連携フォーラムが開催されました。

「地域医療ネットワークの構築に向けて」というテーマで開催され、院内関係者から82名、院外の柏市役所や柏地区医師会などから34名の総数116名と、多くの参加者を集め、会場後方には立って聴いている参加者も多く見られました。

講演は、「わかしお医療ネットワークの現状と将来」というテーマで千葉県立東金病院院長・平山愛山先生が、「画像診断における地域医療連携の現状と将来」というテーマで当院放射線部・原田潤太診療部長が、それぞれ行いました。

講演終了後の総合討論では、東葛北部地域の医療ネットワーク構築を目指す上での活発な意見交換が行われ、院内外における地域医療連携に対する関心の高さがうかがわれました。

▲活発な意見交換が行われた総合討論

地域医療の基幹病院として一層の活躍を

第3回第三病院医療連携フォーラム

5月23日の木曜日に、第3回第三病院医療連携フォーラムが、国領校620講義室にて開催されました。

診療、施設の特色を明らかにし、地域医療の基幹病院としての役割をなお一層果たすために、積極的かつ多様な活動が必要であると考え、近隣医療機関との定期的な各種情報交換の場として平成13年5月に第1回を開催し、今回で3回目を迎えました。

前日からの雨予報を覆し当日は晴れ、近隣の37医療機関から41名、高木専務理事ならびに第三病院教職員85名の参加がありました。

▲熱心に講演を聴く参加者

「日常診療に潜む要注意疾患」というテーマのもと、最近のトピックスとして症例を交えた講演が行われました。

＊

1.「白内障:適応と最先端手術」
　眼科　　診療部長　常岡　寛

2.「無症候性心筋虚血の診断と対応」
　循環器内科　　診療部長　谷口　郁夫

3.「家庭医と前立腺治療」
　泌尿器科　　診療部長　山崎　春城

＊

講演後、新築された学生食堂「ベラ」にて懇親会が開かれ、参加したほとんどの先生方が出席されました。同窓会調布支部長の中村昇先生、狛江医師会長で同窓の山口陽先生の挨拶があったほかに、飛び入りでの挨拶もあり、盛況のうちに閉会しました。なお第4回第三病院医療連携フォーラムは、11月頃に予定しています。

健康維持と病気予防援助のために

青戸病院公開健康セミナー

青戸病院では、地域一般住民を対象に健康維持・病気の予防援助を目的として公開健康セミナーを開催しています。葛飾区医師会共催、葛飾区後援で、葛飾区の公共施設にて無料で開催しており、主に本院の医師が講演を行っています。

平成13年度からは開催回数を年2回に増やし、生活習慣病や老化および老化に伴う病態や疾患をテーマに取り上げています。なお第11回公開健康セミナーは、次の通りに開催され、約150名の参加者を集めました。

◀第11回青戸病院公開健康セミナー

第11回慈恵医大青戸病院公開健康セミナー

日　時：平成14年5月25日（土）
　　午後2時～午後4時
会　場：亀有地区センター
テーマ：「中高年と目の病気」
　　～あなたの目は大丈夫?～
演題：1.「老眼とメガネ」
　　慈恵医大青戸病院　眼科　鎌田　芳夫
2.「白内障」
　慈恵医大青戸病院　眼科　並木　美夏
3.「疲れ目体操」
　（株）東京アスレチッククラブ　小澤　孝
4.「緑内障」
　慈恵医大青戸病院　眼科　高橋　寧子
5.「網膜の病気」
　慈恵医大青戸病院　眼科　渡辺　朗

身近な愛宕地区周辺の新発見

春季野外レクリエーション、ウォークラリー

5月26日の日曜日に、職員レクリエーション委員会主催でウォークラリーが開催されました。

スタート地点の芝公園には300名を超す参加者が集まり、1チーム6名、合計52チームが午前11時にスタートしました。ラリー用紙を片手に問題を解きながら、ウォーキングを行いましたが、愛宕神社、城山ヒルズ、東京タワーへと展開する約3kmのコースは、身近な愛宕地区周辺の新発見とともに、チーム力を確かめあう絶好の機会となりました。

ウォークラリー終了後、東京プリンスホテル・ガーデンアイランドにおいて表彰パーティーが開催されました。正解発表の場面では各チームから大きな歓声が上がり、また、参加者が作った人間味あふれる俳句から名句賞が発表されると会場はさらに沸き上がり、終始大盛況で有意義な1日となりました。

▲6名一組で愛宕地区を歩く

エントランスホールで音楽を満喫

第9回柏病院フロアーコンサート

5月31日の金曜日に、柏病院1階外来エントランスホールにて、第9回柏病院フロアーコンサートが開催されました。

当日の会場となったエントランスホールには、外来会計カウンターの前にピアノが設置され、家族や看護師に付き添われた患者さん約200名が集まりました。

今回のコンサートは、柏市周辺地域において母娘3名で演奏活動を行っている内藤先生を迎えて催され、アヴェマリア、浜辺の歌、ふるさとなど馴染み深い曲をはじめ、世界・日本の名曲や童謡などの曲目を、ピアノ、フルート、歌で披露していただきました。

参加した患者さんは、リズムを取ったり口ずさんだりしながら、演奏を楽しんでいました。1時間の開催時間はあっという間に過ぎ、大きな拍手の中、盛況のうちにコンサートは終了しました。

▲当日はコンサートホールとなったエントランス

生涯学習

生涯学習センターをはじめとする慈恵大学の各機関では、生涯学習のために
セミナーやフォーラムなどさまざまな取り組みを行っています。

慈恵医大生涯学習センター

●慈恵医大生涯学習セミナー

月例セミナーと夏季セミナーを開催し、受講者には「日本医師会生涯教育講座参加証（シール）」を交付しています。

■月例セミナー／開催日時：毎月第2土曜日（休日を除く）
16:00～18:00（但し、1月、8月、10月、12月を除く）

開催予定	テーマ	講演者
平成14年7月13日	「いま、胃癌の診断と治療を考える」	内視鏡部　田尻久雄教授（司会：江戸川区　岸田明宣先生）
平成14年9月14日	「きずは消すことができるか？ー心の安らぎのためにー」	形成外科　内田満助教授（司会：港区　大野昭彦先生）
平成14年11月9日	「肺炎について」	呼吸器内科　佐藤哲夫助教授（司会：茅ヶ崎市　近藤芳郎先生）

■夏季セミナー

開催日時：平成14年8月24日（土）　15:00～18:30
場所：東京慈恵会医科大学中央講堂
テーマ：院内感染の現状と対策
（主催）慈恵医大生涯学習センター、
（共催）慈恵医大同窓会、慈恵医師会、港区医師会で開催。

◎お問合せ先：慈恵医大生涯学習センター
電話：03－3433－1111（大代表）内線2634

慈恵医師会

●慈恵医師会産業医研修会

開催日時：平成14年7月20日（土）　9:25～18:30
場所：東京慈恵会医科大学中央講堂
（主催）慈恵医師会、（共催）東京都医師会で開催し、受講者には「日本医師会産業医認定シール」が交付される。

◎お問合せ先：慈恵医師会
電話：03－3433－1111（大代表）内線2636

青戸病院

●青戸病院公開健康セミナー

葛飾区医師会共催、葛飾区後援にて区民を対象に公開健康セミナーを毎年5月下旬と10月に開催しています。

●青戸病院症例検討会（CPC）

近隣医師と教職員を対象に年3～4回症例検討会を開催しています。

●メディカルカンファレンス

近隣医師と教職員を対象に年2回メディカルカンファレンスを開催しています。

◎お問合せ先：青戸病院　総務課
電話：03－3603－2111（大代表）内線2671

第三病院

●第三病院公開健康セミナー

年3回、第三看護専門学校大教室にて、市民を対象に健康講座を開催しています。

●調布市市内大学公開講座

■開催大学名　東京慈恵会医科大学
■テーマ　中高年者の健康
■講座日程

回数	月日（曜）	時間	会場	定員	テーマ	講師名	事前に準備する備品等
第1回	11月12日（火）	19:00～20:30	大会議場	100名	頭痛	助教授 持尾聰一郎	
第2回	11月27日（水）	19:00～20:30	大会議場	100名	血圧	助教授 川村哲也	
第3回	12月10日（火）	19:00～20:30	大会議場	100名	病気になっても元気に生きる	教授 深谷智恵子	
第4回	12月19日（木）	19:00～20:30	大会議場	100名	白内障	助教授 常岡　寛	

※開催内容については、変更することもございますので、ご了承ください。

●第三病院医療連携フォーラム

近隣医師と教職員を対象に、最新医療や医療問題その他のフォーラムを開催しています。

◎お問合せ先：第三病院　総務課
電話：03－3480－1151（大代表）内線3711

柏病院

●柏病院症例検討会（CPC）

近隣医師と教職員を対象に、6月と11月の年2回症例検討会を開催しています。

●柏病院地域医療連携フォーラム

近隣医師と教職員を対象に、地域医療の連携についてフォーラムを開催しています。

◎お問合せ先：柏病院　総務課
電話：04－7164－1111（大代表）内線2185

JIKEI BULLETIN BOARD

大学広報のまとめ

行事

BULLETIN BOARD

1. 平成13年度第4回学位記授与式が11月19日（月）午後2時30分より、学長応接室に於いて挙行された。
　授与された者　論文提出者　10名

1. 新年挨拶交歓会が1月5日（土）午後3時より、高木2号館地下1階教職員食堂に於いて開催された。

1. 平成13年度第5回学位記授与式が1月21日（月）午後2時30分より、学長応接室に於いて挙行された。
　授与された者　大学院修了者　2名
　論文提出者　14名
　計　16名

1. 山下廣教授、青木照明教授の退任記念講義が1月31日（木）午後2時30分より、中央講堂に於いて行われた。

1. 平成14年度大学院入学試験が次の通り行われた。
　2月16日（土）第二次募集　合格者　16名

1. 平成13年度第6回学位記授与式が2月18日（月）午後2時30分より、学長応接室に於いて執り行われた。
　授与された者　大学院修了者　2名
　論文提出者　9名
　計　11名

1. 献体者に対して文部大臣より感謝状が贈呈され、平成14年2月19日（火）、高木会館B会議室に於いて伝達式が行われた。

1. 平成14年度入学試験が次の通り行われた。
　医学科　2月25日（月）　第一次試験
　3月8日（金）、3月9日（土）　第二次試験
　合格者　103名
　看護学科　2月9日（土）　第一次試験
　2月14日（木）　第二次試験
　合格者　46名

1. 平成13年度慈恵看護専門学校卒業式が次の通り挙行された。
　3月15日（金）　青戸看護専門学校卒業生　30名
　第三看護専門学校卒業生　27名
　柏看護専門学校卒業生　54名

1. 第77回医学科卒業式、第7回看護学科卒業式が次の通り挙行された。
　3月19日（火）　医学科卒業生　90名
　看護学科卒業生　33名

1. 平成14年度大学院医学研究科入学式が次の通り挙行された。
　4月1日（月）　入学者　29名

1. 平成14年度入学式、始業式が次の通り挙行された。
　4月4日（木）　医学部医学科入学式　103名
　医学部看護学科入学式　33名

1. 看護専門学校入学式が次の通り挙行された。
　4月6日（土）　青戸看護専門学校　入学者　24名
　第三看護専門学校　入学者　49名
　柏看護専門学校　入学者　77名

1. 平成14年度第1回学位記授与式が4月15日（月）午後2時より、学長応接室に於いて挙行された。
　授与された者　大学院修了者　2名
　論文提出者　12名
　計　14名

1. 平成14年4月15日（月）午後3時より、大学1号館竣工式が挙行された。

財務報告
BULLETIN BOARD

■平成13年度決算について

平成13年度は、大学1号館の建設やE棟を改修して総合母子健康医療センターを開設しましたので、決算にもこの影響が大きく現れました。

消費収支計算書では、消費収入は補助金の増加と医療収入の増加で779億円を計上いたしました。これは、大学1号館の施設整備補助金、高次元医用画像工学研究所のハイテク設備補助金、臨床医学研究所のオープンリサーチ補助金等の交付を受けましたので、国庫補助金は56億円（前年比+16億円）と過去最高額になりました。また、中央棟病棟の稼動、総合母子健康医学センターの稼動が奏効し、医療収入は658億円（前年比+19億円）になりました。

一方、消費支出の総額は725億円でした。消費支出の主な項目は、人件費が330億円（前年比+1億円）、医療経費228億円（前年比+4億円）、教育研究費11億円でした。

これにより、本学の授業料収入等学納金や収入の大半を占める医療事業収入から、その事業に要した経費を引いた事業収支は30億円（前年比+10億円）となりました。また、消費収入から消費支出を引いた帰属収支差額は54億円（前年比+25億円）となりました。

貸借対照表では、大学1号館の建設99億円、E棟の改修工事55億円等を実施し、固定資産を131億円プラス計上いたしました。これらの固定資産の計上分などで基本金を119億円組み入れました。

平成13年度消費収支計算書

自 平成13年4月1日　至 平成14年3月31日

消費支出の部		消費収入の部	
科目	金額	科目	金額
事業経費	67,569,297,662	事業収入	70,595,004,561
人件費	32,992,805,753	授業料その他収入	2,789,907,100
教育研究費	1,071,505,728	医療収入	65,800,558,332
奨学金	102,190,000	衛生管理収入	487,303,986
医療経費	22,784,021,664	雑収入	1,517,235,143
消耗品費	1,186,639,333		
委託費	3,640,046,275		
光熱水費	1,780,433,271		
修繕費	918,149,443		
諸経費	3,093,506,195		
事業外経費	543,292,056	事業外収入	7,305,942,490
支払利息	462,586,987	受取利息	138,825,814
除却損	27,566,639	受取配当金	1,726,371
徴収不能額	53,138,430	有価証券利息	4,951,310
		国庫補助金	5,603,905,000
償却勘定	4,377,847,025	地方公共団体補助金	379,528,990
建物	1,959,661,097	寄付金	1,177,005,005
設備	732,295,079		
構築物	30,239,590		
教具	417,259,557		
医療器械	1,151,332,022		
一般備品	87,059,680		
合計	72,490,436,743	合計	77,900,947,051
消費支出の部合計	72,490,436,743	帰属収入の部合計	77,900,947,051
消費支出超過額	△6,540,480,845	基本金組入額合計	△11,950,991,153
合計	65,949,955,898	合計	65,949,955,898

（単位:円）

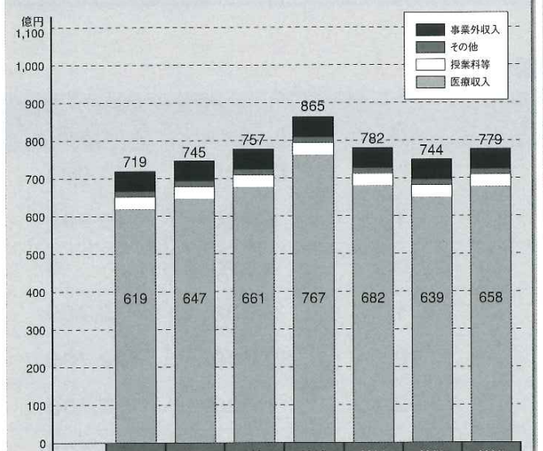
平成13年度貸借対照表

平成14年3月31日現在

借方		貸方	
科目	金額	科目	金額
流動資産	43,887,599,391	流動負債	12,696,029,709
現金	132,262,146	未払金	11,206,155,486
預金	30,914,978,606	預り金	423,310,118
振替貯金	23,393,270	前受金	919,119,517
有価証券	22,563,220	保証金	147,444,588
貸付金	261,948,221		
仮払金	75,670,778		
未収入金	12,377,537,210		
貯蔵品	79,245,940		
固定資産	99,886,412,502	固定負債	41,379,681,256
土地	6,331,512,574	長期借入金	25,413,385,000
建物	73,432,538,806	退職給与引当金	15,966,296,256
設備	3,991,978,190		
構築物	407,364,401		
教具	2,649,635,808		
医療器械	7,647,684,567		
一般備品	574,040,914		
図書	2,255,281,862		
放射性同位元素	17,699,680		
施設利用権	421,195,200		
建物仮勘定	127,480,500		
有価証券	2,030,000,000		
		基本金	89,698,300,928
		基本金	116,166,122,527
		翌年度繰越消費支出超過額	△26,467,821,599
合計	143,774,011,893	合計	143,774,011,893

（単位:円）

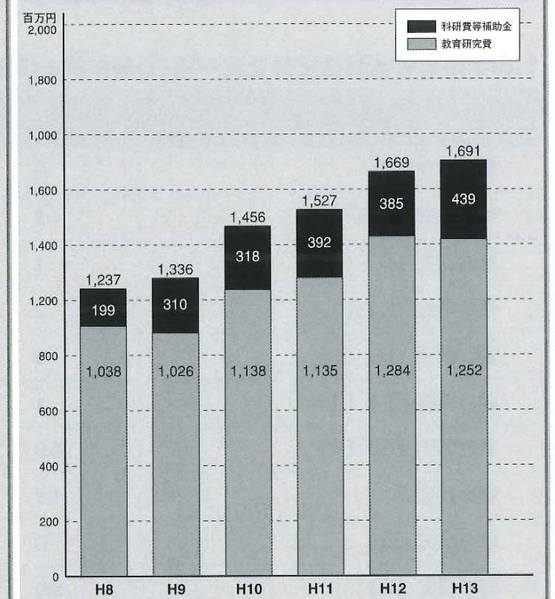
帰属収入の推移



	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13
事業外収入	62	58	54	54	56	59	73
その他	16	18	19	20	18	19	20
授業料等	22	22	23	24	26	27	28
医療収入	619	647	661	767	682	639	658
事業収支差額	10	23	38	34	42	20	30

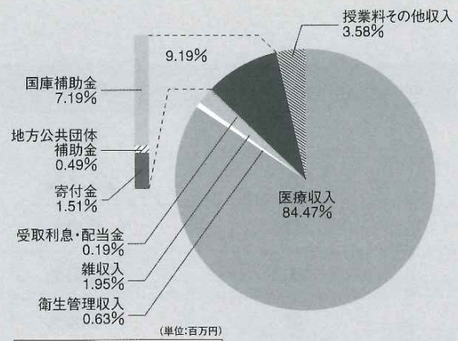
※本学の収支状況を示す指標として、帰属収支差額を掲載して来たが、今後はより事業の運営状況を表す「事業収支差額」を表示することにした。

本学が教育や研究に充当した費用の推移



※ここで用いた「教育研究費」とは、各講座・教室等で購入した教具等固定資産に分類されるものも含めた実質的教育研究に使われた費用の合計を示している。「科研費等補助金」とは、文部科学省の日本学術振興会、厚生労働省の科学研究費、その他公的機関からの委託研究費等の合計額である。

帰属収入の構成

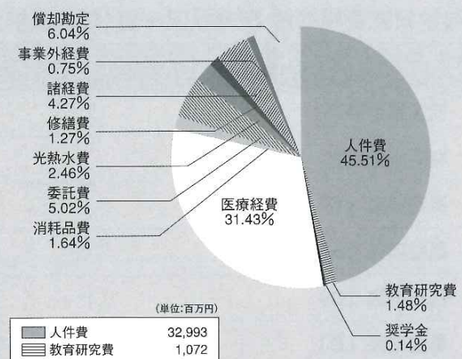


（単位:百万円）

授業料その他収入	2,790
医療収入	65,801
衛生管理収入	487
雑収入	1,517
受取利息・配当金	145
国庫補助金	5,604
地方公共団体補助金	380
寄付金	1,177
計	77,901

※帰属収入とは、消費収入と同意語で学校法人の負債とならない収入のことで、企業会計の収入と類似の概念。本学は医療収入の比率が極めて大きい。他に、補助金、授業料、寄附金等の収入がある。

消費支出の構成



（単位:百万円）

人件費	32,993
教育研究費	1,072
奨学金	102
医療経費	22,784
消耗品費	1,187
委託費	3,640
光熱水費	1,780
修繕費	918
諸経費	3,093
事業外経費	543
償却勘定	4,378
計	72,490

※消費支出とは、学校法人が消費した財貨または用役に対して支出した金額のことで、企業会計の費用と類似の概念。
支出で一番大きいのは人件費である。この他に医療経費、委託費、光熱水費等の経費と固定資産を減価償却した償却勘定がある。

補助金・助成金
BULLETIN BOARD

平成14年度　科学研究費補助金配分内定一覧

1.科学研究費補助金配分状況一覧（新規採択＋継続分）

研究種目	内定件数		配分予定額（千円）	
	14年度	13年度	14年度	13年度
特定領域研究	6	7	47,000	41,000
特別研究促進費	1	1	6,100	10,800
基盤研究（A）（2）	1	0	8,190	0
基盤研究（B）（1）	2	1	5,900	2,700
基盤研究（B）（2）	9	9	27,700	32,700
基盤研究（C）（1）	1	2	1,300	3,100
基盤研究（C）（2）	69	70	73,000	83,900
萌芽研究	11	9	13,800	7,300
若手研究（A）	0	—	0	—
若手研究（B）	90	—	97,200	—
奨励研究（A）	—	84	—	79,930
合　計	190	183	280,190	261,430

＊平成14年度より、奨励研究Ａは若手研究(A)(B)に改組した。

2.科学研究費補助金 配分状況一覧（新規採択分）

研究種目	申請件数	採択件数	採択率(%)
特定推進研究	1	0	0.0%
特定領域研究	19	4	21.1%
基盤研究（S）	1	0	0.0%
基盤研究（A）	5	1	20.0%
基盤研究（B）	27	2	7.4%
基盤研究（C）	247	16	6.5%
萌芽研究	145	5	3.4%
若手研究（A）	2	0	0.0%
若手研究（B）	288	52	18.1%
合　計	735	80	10.9%

公示
BULLETIN BOARD

平成13年11月1日（木）

1.大槻磐男氏に客員教授を命ずる。
1.黒澤博身氏に客員教授を命ずる。
1.福島統助教授（定員外）に教授（定員外）を命ずる。

平成13年11月21日（水）

1.一ノ瀬昭子整備員（施設用度課）は、医学教育等関係業務功労者として、文部科学大臣より表彰された。

平成13年12月1日（土）

1.伊藤文之助教授に教授を命ずる。

平成14年1月1日（火）

1.木村直史助教授に教授（定員外）を命ずる。
1.水島裕氏に客員教授を命ずる。（DDS研究所）
1.附属青戸病院に内視鏡部を設置する。
1.成宮徳親氏に附属青戸病院内視鏡部診療部長を命ずる。

平成14年3月1日（金）

1.古幡博助教授に教授（定員外）を命ずる。

平成14年3月31日（日）

1.青木照明教授は、定年により職を解く。
1.山下廣教授は、定年により職を解く。
1.村上安子教授（定員外）は、定年により職を解く。
1.多田信平教授（定員外）は、定年により職を解く。

平成14年4月1日（月）

1.濱中喜代助教授に医学部看護学科教授を命ずる。
1.阪本要一助教授に慈恵医大晴海トリトンクリニック所長を命ずる。
1.阿部俊昭教授に国際交流委員長を命ずる。
1.仲嶋一範氏に客員教授を命ずる。
1.鈴木直樹助教授に教授（定員外）を命ずる。
1.晴海トリトンスクエアに慈恵医大晴海トリトンクリニックを開設する。
1.山下廣氏に名誉教授の称号を贈る。
1.青木照明氏に客員教授の称号を贈る。
1.多田信平氏に客員教授を命ずる。（但し、立川総合病院メディカルセンター顧問在任中）
1.村上安子氏に客員教授を命ずる。（但し、LTT研究所特別研究員在任中）
1.畑雄一氏に附属青戸病院放射線部長を命ずる。
1.落合和彦氏に附属青戸病院外科診療部長（兼任）を命ずる。
1.谷藤泰正氏に附属青戸病院麻酔部診療部長（兼任）を命ずる。
1.羽生信義氏に附属病院消化管外科診療部長代行を命ずる。
1.国領校の人文系諸学科、社会系諸学科、外国語系諸学科を自然科学教室、人間科学教室、外国語教室に改組する。
1.生涯教育センターを生涯学習センターに改称する。
1.水島裕客員教授に総合医科学研究センターDDS研究所長を命ずる。
1.阪本要一氏に附属病院晴海トリトンクリニック診療部長を命ずる。
1.佐々木敬氏に附属柏病院糖尿病・代謝・内分泌内科診療部長を命ずる。
1.田尻久雄氏に附属柏病院内視鏡部診療部長を命ずる。

学事 BULLETIN BOARD

■大学院修了者

13.12.25	有廣　誠ニ	吉田　清哉		
14.1.15	小澤　真帆			
14.1.28	相良　憲彦			
14.3.11	中尾　誠利	柴　浩明		
14.3.25	中村　晶子	川崎　成郎		
14.5.8	高松　正視			

■学位論文通過者

13.11.12	奥村　啓之	小野　雅史	豊田　圭子	安田　武史		
13.11.26	高岡　徹	橋爪　由紀夫				
13.12.10	篠田　知太朗	杉浦　徹	宇和川　匡	梁井　真一郎	野尻　卓也	
13.12.25	豊泉　高峰	鎌田　美乃里	武内　孝介			
14.1.15	濱屋　貢造	田代　健一	浅川　博	向井　英晴	坂場　秀行	
14.1.28	宮川　朗	竹内　紋子	黒田　陽久	辻　富彦		
14.2.12	諏訪　勝仁	林　裕作	田中　和郎			
14.2.26	片山　晃	美田　敏宏	薄葉　輝之	南谷　めぐみ	山本　尚	和久津里行
14.3.11	高橋　暁	柏木　秀彦	小林　直樹			
14.3.25	松本　滋	村山　雄一				
14.4.10	勝　久寿	吉田　正樹				
14.4.24	藤岡　秀一	黒澤　健司	渡邊　朗			
14.5.8	高橋　創	尾尻　博也	坪田　昭人	戸崎　光宏		

慶弔 BULLETIN BOARD

訃報

1. 同窓会神奈川逗葉支部学術連絡委員 天野文武先生(昭31年卒)は、11月23日逝去されました。

1. 同窓会群馬支部長 髙島正敏先生(昭29年卒)は、12月4日逝去されました。

1. 同窓会秋田支部学術連絡委員 小野良實先生(昭42年卒)は、12月18日逝去されました。

1. 同窓会評議員 亀井邦倫先生(昭26年卒)は、2月2日逝去されました。

1. 同窓会評議員 深田弘治先生(昭33年卒)は、5月28日逝去されました。

人事 BULLETIN BOARD

教員(医学科)

■教授

解剖学第1
13.11.1　福島　統　(外)

小児科
13.12.1　伊藤　文之

薬理学第2
14.1.1　木村　直史　(外)

高次元医用画像工学研
14.4.1　鈴木　直樹　(外)

ME研
14.3.1　古幡　博　(外)

内科学
14.5.1　多田　紀夫　(外)

■設置準備室長(兼務)

晴海トリトンクリニック
14.1.1　阪本　要一

■助教授

内科学
13.12.1　薄井　紀子
14.1.1　宇都宮一典
14.3.1　相澤　良夫
14.4.1　伊坪　真理子　(外)
　　小林　直　(外)

精神医学
14.3.1　中村　敬

整形外科学
13.11.1　丸毛　啓史
14.4.1　永井　素大　(派)

産婦人科学
14.5.1　恩田　威一　(外)

放射線医学
13.12.1　辻本　文雄　(派)
14.3.1　畑　雄一

内視鏡科
13.11.1　成宮　徳親

■講師

薬物治療学研
13.12.1　浦島　充佳

病理学
14.1.1　野村　浩一　(無)

環境保健医学
14.2.1　猿田　克年　(非)

臨床検査医学
13.11.1　田村　忠司

内科学
13.11.1　山根　貞一
　　蔵田　英明
　　野間　健司　(非)
13.12.1　長田　広司　(非)
14.1.1　横山　啓太郎
　　山本　裕康
14.2.1　渡邊　文時
　　浅井　治
14.3.1　黒坂　大太郎
　　塚　洋二　(派)
14.5.1　小野寺達之

精神医学
14.4.1　西村　浩
　　樋口　英ニ郎　(無)

小児科学
13.12.1　勝沼　俊雄
14.1.1　宮田　市郎
　　奥山　眞紀子　(派)
14.4.1　望月　弘　(派)

皮膚科学
14.1.1　太田　有史

外科学
14.2.1　中林　幸夫　(派)
　　山寺　仁　(派)

整形外科学
14.2.1　小谷野康彦

脳神経外科学
14.1.1　常喜　達裕

形成外科学
14.3.1　宮脇　剛司

産婦人科学
14.5.1　渡辺　明彦

泌尿器科学
14.1.1　後藤　博一　(無)

歯科
14.4.1　鈴木　茂

放射線医学
13.12.1　内山　眞幸
　　蘆田　浩　(非)

麻酔科学
14.4.1　近江　禎子
14.5.1　熊谷　雅人　(非)
　　鳥海　和弘　(非)

内視鏡科
13.12.1　一志　公夫

総合医科学研究センター悪性腫瘍治療研究部門
14.4.1　本間　定

■助手

大学直属
14.4.1　鹿瀬　陽一
　　櫻井　淑男　(無)

解剖学第1
14.4.1　中尾　誠利　(無)

生化学第2
14.4.1　吉村　邦泰

生理学第2
14.4.1　湯本　史明

薬理学第1
14.5.1　池田　恵一

病理学
14.1.1　大村　光浩
14.4.1　黒土　衛

法医学
14.3.1　有木　則文

臨床検査医学
14.4.1　林田　健一
　　伊藤　達彦

高次元医用画像工学研
14.4.1　大竹　義人

実験動物研究施設
14.5.1　和田　あづみ

内科学
13.11.1　木島　洋征
14.1.1　東　吉志
　　石橋　健一
　　浅川　博
　　小武海公明
　　古谷　徹　(無)
　　酒井　朋久　(無)
　　國安　祐史　(無)
　　阪本　晋
　　有廣　誠ニ
　　深澤　健至
　　川口　祥子
　　高橋　暁
　　橋本　健一
　　河野　優
　　小澤　律子
　　笠間　絹代
　　佐野　公司
　　河石　真
　　川村　仁美
　　戸島　恭一郎
　　西村　理明
　　川本　進也
　　矢野　真吾
　　石川　悦久
　　小野田　泰　(無)
　　深田　雅之　(無)
　　瀬嵐　康之　(無)
　　山本　亮　(無)
　　西川　元　(無)
　　鈴木　憲治　(無)
14.5.1　石橋　健一　(無)

精神医学
14.4.1　伊藤　達彦
　　石野　裕理
　　鹿島　直之
　　中川　種栄　(無)
　　三宮　正久　(無)
　　石黒　大輔

小児科学
13.11.1　菅野　啓一
14.1.1　宍戸　淳
14.4.1　南波　広行
　　浦島　崇
　　寺本　知史
　　瀬尾　雅美
　　千葉　康之
　　宍戸　淳　(無)

皮膚科学
14.1.1　草間　美紀
　　黒坂　良枝　(無)
14.3.1　竹内　紋子　(無)

外科学
13.1.1　小林　克敏　(無)
13.11.1　大谷　昌道
14.1.1　篠田　寿彦
　　山崎　哲資
　　薄葉　輝之
　　池尻　真康
　　根岸　由香
　　平林　剛
　　三浦　英一朗
　　田部　昭博
　　渡辺　通章
　　楠山　明
　　梶本　徹也
　　山寺　仁　(無)
　　中林　幸夫　(無)
　　山下　誠　(無)
　　矢野　文章　(無)
　　大谷　昌道　(無)
14.2.1　横田　徳靖　(無)
14.4.1　川崎　成郎　(無)

整形外科学
14.1.1　別当　武治
　　田口　哲也
　　佐藤　康伴
　　小野　直樹　(無)
　　山岸　千晶　(無)
　　根本　高幸　(無)

脳神経外科学
13.12.1　清水　純
14.4.1　赤崎　安晴　(無)

形成外科学
13.12.1　宮脇　剛司
14.1.1　林　淳也

心臓外科学
14.2.1　宇野　吉雅
14.4.1　儀武　路雄
　　野村　耕司　(無)

産婦人科学
14.4.1　池谷　美樹
　　中野　真　(無)
　　柳田　聡
　　鈴木　啓太郎
　　石塚　康夫　(無)
14.5.1　新家　秀

泌尿器科学
14.1.1　長谷川太郎
　　林　典宏　(無)
14.4.1　塩野　裕　(無)

環境保健医学
14.4.1　宮越　雄一

眼科学
14.1.1　酒井　勉
　　永井　祐喜子
　　飯田　和之
　　高橋　寧子
　　戸田　和重　(無)

耳鼻咽喉科学
13.12.1　田中　康広
14.1.1　濱田　幸雄
　　稲葉　岳也　(無)

リハビリテーション科
14.4.1　武原　格

放射線医学
14.4.1　池田　実徳　(無)
　　武内　弘明

麻酔科学
14.4.1　柴崎　敬乃

内視鏡科
14.3.1　日野　昌力
14.4.1　鈴木　武志
　　金丸　千穂　(無)

■臨床研究助手

小児科学
14.4.1　斉藤　和恵

■医員

内科学
14.2.1　田中　康之
14.3.1　橋本　希代子
14.4.1　坂本　剛
　　平川　吾郎
　　猿田　雅之
　　川村　佳子
　　佐藤　憲一

(無)＝無給、(派)＝派遣中、(外)＝定員外、(非)＝非常勤、院単取得＝大学院単位取得者

田村　洋平

小児科学
14.4.1　倉内　恵
小林　博司
14.5.1　黒澤　健司　（無）

皮膚科学
14.1.1　早川　祐子

外科学
14.4.1　高橋　朋子

脳神経外科学
13.12.1　荏原　正幸

眼科学
14.1.1　山崎　佳代子
14.4.1　大山　かおり
青木　容子
酒井　勉

耳鼻咽喉科学
14.2.1　添田　一弘

放射線医学
14.4.1　中田　典生

出向

■助教授（定員外）
14.4.1　晴海トリトンクリニック（診療部長）　阪本　要一　内科学

■講師
14.1.1　病院病理部（第三病院・診療医長）　加藤　弘之　病理学
14.4.1　臨床腫瘍部（診療副部長）　小林　直　内科学
14.5.1　臨床腫瘍部（本院・診療医員）　相羽　恵介　内科学

■助手
13.10.1　救急部（柏病院・診療医員）　牛込　琢郎　外科学
14.1.1　病院病理部（柏病院・診療医員）　大村　光浩　病理学
救急部（柏病院・診療医員）　京田　茂也　外科学
14.4.1　中央検査部（青戸病院・診療医員）　林田　健一　臨床検査医学
中央検査部（柏病院・准診療医員・助手）　伊藤　達彦　臨床検査医学
救急部（診療医員）　佐々木知也　内科学
臨床腫瘍部（診療医員）　平野　明夫　内科学
内視鏡部（准診療医員・助手）　坪井　一人　外科学
内視鏡部（青戸病院・診療医員・助手）　坪井　一人　外科学
健康医学センター（診療医員・助手）　鈴木　武志　内視鏡科

■助手（無給）
14.4.1　健康医学センター（診療医員・助手）　武内　弘明　放射線医学
健康医学センター（診療医員・助手）　常喜　眞里　内視鏡科

■医員
13.11.1　救急部（柏病院・診療医員・助手）　田村　俊一　内科学
14.1.1　救急部（柏病院・診療医員）　薄葉　輝之　外科学
14.5.1　麻酔部（第三病院・准診療医員）　滝澤　寛重　眼科学

出向解除

■助教授
13.11.1　内視鏡部　成宮　徳親　内科学

■講師
14.1.1　病院病理部（柏病院）　加藤　弘之　病理学
病院病理部（第三病院）　野村　浩一　病理学
14.4.1　中央検査部(青戸病院)　西村　浩　臨床検査医学

■助手
13.11.1　救急部　上竹　大二郎　内科学
救急部（柏病院・医員）　宮村　香代子　内科学
14.1.1　救急部（柏病院）　大谷　圭　内科学
救急部（柏病院）　井口　保之　内科学
救急部（柏病院）　孫　敬洙　外科学
救急部（柏病院）　後町　武志　外科学
14.4.1　中央検査部（柏病院）　三宮　正久　臨床検査医学
救急部　高松　正視　内科学
救急部（柏病院）　内山　幹　内科学
救急部（柏病院）　丸山　之雄　内科学
内視鏡部　坪井　一人　外科学
内視鏡部　高橋　朋子　外科学
健康医学センター　氏田　万寿夫　放射線部

派遣（13.11.1～14.5.31）

麻生病院
14.1.1　助手　中林　幸夫　外科学

英国ロンドン日本クラブ診療所
14.4.1　助手　浅川　博　内科学

神奈川県衛生看護専門学校附属病院
14.4.1　助手　石塚　康夫　産婦人科学

神奈川県立厚木病院
14.1.1　講師（派）　村井　繁廣　形成外科学
助手　大谷　昌道　外科学
14.4.1　講師（派）　石田　裕一郎　内科学
助手　小野田　泰　内科学
助手（無）　塩塚　重正　産婦人科学
医員　倉内　恵　小児科学
14.5.1　助手（無）　橋本　朋子　産婦人科学

神奈川リハビリテーション病院
14.4.1　医員　吉田　啓　内科学

川口市立医療センター
14.4.1　助手　西川　元　内科学

杏雲堂病院
14.4.1　助手（無）　中野　真　産婦人科学

国立相模原病院
14.1.1　助手（無）　南部　典彦　眼科学

国立成育医療センター
14.3.1　講師（派）　奥山　真紀子　小児科学

国立西埼玉中央病院
14.4.1　助手　瀬嵐　康之　内科学

国立東埼玉病院
14.3.1　医員　野崎　和之　小児科学

国立療養所東宇都宮病院
14.1.1　助手　山下　誠　外科学

埼玉県立循環器・呼吸器病センター
14.1.1　医員　小野田　学　内科学

埼玉県立小児医療センター
14.4.1　助手　野村　耕司　心臓外科学

社会保険大宮総合病院
14.1.1　助手　古谷　徹　内科学
黒坂　良枝　皮膚科学
小野　直樹　整形外科学
稲葉　岳也　耳鼻咽喉科学

湘南病院
14.5.1　助手（無）　阿部　邦彦　内科学

総武病院
14.4.1　講師　樋口　英二郎　精神医学

立川総合病院
14.4.1　助手（無）　池田　実徳　放射線医学

東急病院
14.1.1　助手　矢野　文章　外科学
山岸　千晶　整形外科学

東京都リハビリテーション病院
14.4.1　医員　高田　耕太郎　ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学

東京労災病院
14.1.1　助手　戸田　和重　眼科学

都職青山病院
14.1.1　助手　根本　高幸　整形外科学

栃木県精神保健センター
14.4.1　講師（無）　増茂　尚志　精神医学

都立母子保健院
14.4.1　助手（無）　寺本　知史　小児科学

中伊豆リハビリテーションセンター
14.4.1　医員　高田　耕太郎　ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学

平塚共済組合病院
14.1.1　助手（無）　長谷川太郎　泌尿器科学

富士市立中央病院
14.1.1　講師（派）　村井　繁廣　形成外科学
助手（無）　高橋　寧子　眼科学
南部　典彦　眼科学
14.4.1　講師（派）　石田　裕一郎　内科学
14.5.1　助手（無）　荏原　太　内科学

町田市民病院
14.1.1　助手　深田　雅之　内科学
山本　亮　内科学
塩野　裕　泌尿器科学
14.5.1　医員　細谷　工　内科学

横手興生病院
14.4.1　講師（無）　大西　守　精神医学

立正佼正会佼正病院
14.1.1　講師　野村　浩一　病理学

麻生病院
14.1.1　講師（派）　三浦　英一朗　外科学

飯田病院
14.1.1　助手（無）　佐藤　康伴　整形外科学

英国ロンドン日本クラブ診療所
14.4.1　講師（派）　戸島　恭一郎　内科学

春日部中央総合病院
14.1.1　助手（無）　田部　昭博　外科学

神奈川県看護衛生看護専門学校附属病院
14.4.1　助手（無）　塩塚　重正　産婦人科学

神奈川県立厚木病院
14.1.1　助手（無）　渡辺　通章　外科学
林　淳也　形成外科学
14.4.1　助手（無）　林　博　産婦人科学

神奈川リハビリテーション病院
14.1.1　助手（無）　田口　哲也　整形外科学
14.4.1　助手（無）　武内　弘明　放射線医学
14.5.1　医員　池田　惠一　内科学

川室記念病院
14.4.1　医員　石野　裕理　精神医学

癌研究会附属病院
14.1.1　医員　篠原　寿彦　外科学
14.5.1　講師（派）　相羽　恵介　内科学

北茨城市立総合病院
14.4.1　助手（無）　川本　進也　内科学

国立相模原病院
14.5.1　助手（無）　滝澤　寛重　眼科学

国立小児病院二宮分院
14.3.1　医員　野崎　和之　小児科学

国立生育医療センター
14.5.1　助手（無）　丹　愛子　小児科学

国立西埼玉中央病院
14.1.1　助手（無）　草間　美紀　皮膚科学
14.4.1　医員　橋本　健一　内科学

国立療養所東宇都宮病院
14.1.1　医員　山崎　哲資　外科学
14.4.1　医員　川口　祥子　内科学

埼玉県立小児医療センター
14.3.1　講師（派）　奥山　真紀子　小児科学
14.4.1　助手（無）　南波　広行　小児科学
浦島　崇　小児科学
瀬尾　雅美　小児科学
義武　路雄　心臓外科学

埼玉慈恵病院
14.1.1　医員　根岸　山香　外科学

賛育会病院
14.1.1　医員　池尻　真康　外科学

社会保険大宮総合病院
14.1.1　助手（無）　浅川　博　内科学
石橋　健一　内科学
14.4.1　助手（無）　鈴木　啓太郎　産婦人科学

総武病院
14.4.1　講師（無）　増茂　尚志　精神医学
助手（無）　石黒　大輔　精神医学

茅ヶ崎市立病院
14.4.1　助手（無）　柳田　聡　産婦人科学

東急病院
14.1.1　医員　薄葉　輝之　外科学
永井　祐喜子　眼科学

東京厚生年金病院
14.1.1　助手（無）　濱田　幸雄　耳鼻咽喉科学

東京都リハビリテーション病院
14.4.1　助手（無）　武原　格　ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学

栃木県精神保健センター
14.4.1　講師（無）　大西　守　精神医学

欧米文学　太田　信良

平成14年度講師（非常勤）（国領校）

14.4.1　生命基礎科学実習(物理)　和田　数幸
梶　裕志
生命基礎科学実習(生物)　塚元　葉子
内村　一幸
生命基礎科学実習(科学)　石川　麗
伊藤　賢一

依願解職

■教授
13.10.31　黒澤　博身　心臓外科学

■教授（定員外）
14.1.31　堀越　茂樹　心臓外科学

■助教授
14.3.31　仲嶋　一範　分子神経生物学研究部門
増田　勝紀　内視鏡科

■助教授（派遣中）
13.12.31　斉藤　賢一　泌尿器科学
14.3.31　石原　扶美武　内科学
14.4.30　松島　宏　小児科学

■助教授（無給）
14.2.28　上田　正山　泌尿器科学

■講師
14.2.28　内山　浩志　小児科学
14.3.31　舘　直彦　精神医学
橋本　雄幸　外科学
鈴木　和彦　心臓外科学
水野　朝敏　心臓外科学
許山　浩司　産婦人科学
遠藤　陽一　ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学ｽﾎﾟｰﾂ医学科
熊谷　雅人　麻酔科学
豊原　敬三　健康医学センター

■講師（派遣中）
13.12.31　杉本　泉　内科学
大野　仁　眼科学
片山　昇　耳鼻咽喉科学
14.3.31　海老澤俊治　内科学
道躰　敏弘　産婦人科学

■講師（無給）
13.11.30　三浦　金次　外科学
14.3.31　加藤　光敏　内科学
渡辺　修　ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学

■講師（非常勤）
14.2.28　小島　信行　小児科学

■助手
13.12.31　伊達　昌孝　臨床医学研
片山　隆司　内科学
井上　貴博　内科学
都野　晋一　内科学
茂木　純一　内科学
小池　雄一　小児科学
橋本　透　皮膚科学
玄　智庸　外科学
中村　純太　外科学

平成14年度講師（非常勤）

14.4.1　哲学　伊藤　一美
心理学2　磯崎　三喜年
社会学　松尾　精文
日本文学　刑部　久
社会福祉学　高橋　流里子
高橋　五江
倫理学　亀山　純生
政治学　中野　裕二
日本史　小岩　信竹
教育学　福田　誠治
現代社会論　田端　博邦
社会保障学　杉村　宏
英語　M.E.カミンス
D.B.スチュワート
渡辺　章子
阿部　潤
武井　博美
跡部　智
東方　和子
清水　純子
田中　真希子
M.J.ワーマン
S.D.プロバー
A.R.ルイス
ドイツ語　鈴木　克己
今井　敦
フランス語　稲葉　延子
柿崎　有美
友谷　知己
ラテン語　山田　哲子
日本語表現法　佐伯　晴子
医史学　藏方　宏昌
西欧史　萩原　伸次郎
経済学　深貝　保則

（無）＝無給、（派）＝派遣中、（外）＝定員外、（非）＝非常勤、院単取得＝大学院単位取得者

	須郷　正徳	整形外科学
	齋藤　文美恵	心臓外科学
	湯本　隆文	泌尿器科学
	師　敏也	眼科学
	三宅　彰	眼科学
	島田　千恵子	耳鼻咽喉科学
14.1.31	藤井　本晴	脳神経外科学
14.2.28	渡部　稔	臨床医学研
	増井　良臣	内視鏡科
14.3.31	田畑　秀典	分子神経生物学研究部門
	中田　秀二	内科学
	野里　明代	内科学
	大林　豊	内科学
	香取　美津治	内科学
	長谷川　元	内科学
	岡藤　隆夫	小児科学
	佐藤　優子	皮膚科学
	樫村　弘隆	外科学
	多々良　彰	心臓外科学
	清水　昭吾	心臓外科学
	鳥海　和弘	麻酔科学
	桂　俊司	内視鏡科
14.4.30	平野　明夫	内科学
14.5.31	根岸　由紀	臨床検査医学
	大熊　るり	リハビリテーション医学
	川崎　優子	内視鏡科

■助手（無給）

13.12.31	柏木　明	外科学
	藤川　亨	外科学
	宮崎　秀一	整形外科学
	内田　崇之	形成外科学
	渡辺　健志	産婦人科学
	工藤　春彦	眼科学
14.1.31	梅澤　充	外科学
14.3.31	吉田　裕明	内科学
	関口　博仁	内科学
	深田　弘幸	内科学
	関口　茂	小児科学
	松原　和樹	小児科学
	西岡　謙二	小児科学
	大橋　俊子	整形外科学
	井村　有希	産婦人科学
	吉野　恭正	泌尿器科学
	加澤　玉恵	内視鏡科

■医員

13.12.31	和泉　直子	内科学
14.3.31	栗原　悦子	内科学
	本田　陽一	内科学
	上條　武雄	内科学
	石川　貴敏	内科学
	諸富　千英子	小児科学
	吉村　博	小児科学
	豊泉　高峰	外科学
	藤原　寿彦	歯科
14.4.30	草野　美穂子	精神医学
	田邊　千鶴子	内視鏡科

定年退職

■教授

14.3.31	山下　廣	解剖学第1
	村上　安子	生化学第2　（外）
	多田　信平	放射線医学（外）
	青木　照明	外科学

■助教授（派遣中）

14.3.31	高柳　慎八郎	整形外科学

教　員（看護学科）

■教授

小児看護学

14.4.1　濱中　喜代

■助教授（兼担）

コンピューター演習

14.4.1　須藤　正道

■講師

精神看護学

14.4.1　松本　弘子

老人看護学

14.4.1　佐藤　玲子

■講師（非常勤）

地域看護学

14.4.1　西内　千代子

総合臨床看護

14.4.1　小宮路　敏
　　土屋　明美

■助手

母性看護学

14.4.1　鈴木　美和

老人看護学

14.4.1　長根　彩子

基礎看護学

14.4.1　前田　雅美

レ　ジ　デ　ン　ト

■助手

内科

13.11.1	佐藤　憲一	
14.1.1	吉原　理恵	
	石井　博尚	
	内山　幹	
	猿田　雅之	
	伊藤　洋太	
14.2.1	佐野　公司	
14.4.1	西尾　慶之	
	安田　千穂	
	推津　昌司	
	三村　秀毅	
	萩野　剛史	
	荒川　泰弘	
	北原　拓也	
	木下　晃吉	
	佐藤　文哉	
	松平　透	
	齋藤　敦	
	遠山　潤一郎	（無）
	相良　憲彦	

精神神経科

14.4.1	小高　文聰	
	阿部　定則	（無）
	森田　道明	（無）
	西村　祐子	（無）

小児科

14.3.1	小俣　貴嗣	
14.4.1	高田　大	
	長島　達郎	
	作間　未織	
	河合　利尚	（無）
	小俣　貴嗣	（無）
	井口　正道	（無）

皮膚科

14.1.1	小林　康隆	
	萩原　正則	
	堀　和彦	（無）
14.4.1	佐々木　一	

外科

14.1.1	山崎　一也	
	道躰　隆行	（無）
	大平　寛典	（無）
14.2.1	小林　克敏	
14.4.1	鳥海　久乃	
	山下　重雄	
	安江　英晴	
	平松　美也子	
	三宅　亮	
	柴　浩明	（無）
	小林　克敏	（無）

整形外科

14.1.1	檜山　三葉子	
	中村　陽介	
	為貝　秀明	（無）
14.4.1	真島　敬介	

形成外科

14.1.1	黒木　知子	
	大村　愉己	（無）
14.4.1	中村　晶子	
	永野　貴裕	

心臓外科

14.4.1	井上　天宏	

産婦人科

14.4.1	小澤　真帆	
	矢内原　臨	
	岩﨑　雅子	
	梅原　永能	（無）

泌尿器科

14.1.1	成岡　健人	
14.3.1	小出　晴久	（無）
14.4.1	佐々木　裕	
14.5.1	面野　寛	
	山本　順啓	

眼科

14.1.1	丹治　麻子	
	加畑　好章	（無）
14.4.1	久保　寛之	
	高階　博嗣	
	飯野　弘之	
	野呂　隆彦	
14.5.1	田中　格	

耳鼻咽喉科

14.1.1	高野　哲	
14.2.1	青木　謙祐	
14.4.1	落合　文	

リハビリテーション科

14.4.1	熊澤　祐輔	

放射線科

14.4.1	上江州佐矢子	
	北井　里実	

麻酔科

14.4.1	青木　彩子	
	大谷　法理	（無）

救急部（医員）

14.3.1	佐野　公司	（無）

救急部（柏病院）

14.3.1	丸山　之雄	（無）

■医員

内科

14.1.1	氾　揚文	
	細谷　工	
14.2.1	伊藤　洋太	
14.4.1	相澤　摩周	
	佐伯　千里	
	松平　浩	
	湯川　豊一	
	高原　映崇	
	野田　一臣	
	久保田健之	
	田中　寿一	
	日下　正久	
	松井　芳憲	
	永妻　啓介	
	磯部　建夫	
	小島　淳	
	阪口　真之	
	及川　恒一	
	田中　賢	
	百瀬　邦雄	
	小室　朋子	
	林　洋介	
	小川　和男	
	加藤　順一郎	
14.5.1	清水　昭宏	
	森本　彩	
	稲田　慶一	
	滝沢　信一郎	
	金子　有吾	

精神神経科

14.4.1	小幡　こず恵	
	青木　公義	

小児科

14.4.1	菊池　健二郎	
	横井　健太郎	
	久保　明子	
	西山　貴子	
	田嶋　朝子	

皮膚科

14.4.1	加藤　一郎	
	岩屋　聖子	
	片山　壽子	

外科

14.1.1	鳥海　久乃	
14.4.1	大橋　仁志	
	佐々木敏行	
	濱口　敬子	
	伊藤　隆介	
	矢部　三男	
	満山　喜宣	
14.5.1	毛利　貴	

整形外科

14.4.1	森　良博	
	小澤　美貴	

脳神経外科

13.12.1	加藤　正高	

形成外科

14.4.1	森　克哉	
	西岡　弘記	
	小島　正裕	
14.5.1	鈴木　文恵	

心臓外科

14.4.1	木ノ内勝士	

産婦人科

14.4.1	川口　里恵	

眼科

14.4.1	池田　泰道	
	田中　格	

耳鼻咽喉科

14.4.1	澤田　弘毅	
	長友　真理子	
	力武　正浩	
	小島　純也	
14.5.1	久能　浄	
	鈴木　理恵	
	山崎　ももこ	
	三橋　康之	

内視鏡科

14.4.1	安達　世	
	益子　貴博	

出向

■助手

13.11.1	救急部	高松　正視	内科
14.1.1	内視鏡部	高橋　朋子	外科
	病院病理部	良元　和久	外科
	救急部（柏病院）	鈴木　恵介	整形外科
14.4.1	救急部（柏病院）	木田　吉城	整形外科

■医員

14.1.1	救急部（柏病院・助手）	内山　幹	内科
	救急部（柏病院・助手）	伊藤　洋太	内科
14.2.1	救急部（柏病院）	佐野　公司	内科
14.4.1	麻酔部（医員）	小島　純也	耳鼻咽喉科
	感染制御（助手）	佐藤　文哉	内科
	内視鏡科（助手）	鳥海　久乃	外科
	救急部（柏病院・講手）	推津　昌司	内科
	救急部（柏病院・講手）	三村　秀毅	内科

出向解除

■助手

13.10.1	救急部（柏病院・助手）	吉田　清哉	外科
14.1.1	麻酔部	田屋　圭介	脳神経外科
	内視鏡部	大平　寛典	外科
	内視鏡部	櫻井　みのり	外科
	内視鏡部	志田　敦男	外科
	病院病理部	齋藤　良太	外科
	救急部（柏病院）	大森　俊行	整形外科
14.2.1	救急部（柏病院）	伊藤　洋太	内科
14.4.1	救急部（柏病院）	鈴木　恵介	整形外科

■助手（無給）

14.1.1	麻酔部	中村　陽介	整形外科

派遣（13.11.1～14.5.31）

岩手県立遠野病院

14.1.1	医員	吉村　剛	耳鼻咽喉科

太田総合病院

14.4.1	医員	澤田　弘毅	耳鼻咽喉科

大森赤十字病院

14.4.1	医員	丸山　大	内科

春日部中央総合病院

14.4.1	助手	小林　克敏	外科

神奈川県衛生看護学校附属病院

14.4.1	医員	荒瀬　聡史	内科
		三留　淳	内科
		西山　貴子	小児科

神奈川県立厚木病院

14.4.1	助手	小俣　貴嗣	小児科
		大谷　法理	麻酔科
	医員	横井　健太郎	小児科
14.5.1	医員	三橋　康之	耳鼻咽喉科

神奈川リハビリテーション病院

14.1.1	助手	為貝　秀明	整形外科
14.4.1	医員	小澤　美貴	整形外科

川口市立医療センター

14.1.1	助手	道躰　隆行	外科
14.4.1	医員	飯田　里菜子	内科
	院単取得	山前　浩一郎	内科

川崎市立川崎病院

14.4.1	医員	矢部　三男	外科

川室記念病院

14.4.1	医員	品川　俊一郎	精神神経科

癌研究会附属病院

14.1.1	助手	大平　寛典	外科
14.4.1	医員	永崎　栄次郎	内科

国立国際医療センター

14.4.1	医員	益井　芳文	内科
		高木　聡	内科
14.5.1	医員	清水　健一郎	内科

国立埼玉病院

14.4.1	医員	佐々木英之	内科

国立相模原病院

14.4.1	医員	豊川　泰彦	内科
14.5.1	助手	丹治　麻子	眼科

国立佐倉病院

14.4.1	助手（無）	村山　明子	内科

国立精神・神経センター武蔵病院

14.4.1	院単取得	豊田　千純子	内科

国立西埼玉中央病院

14.1.1	助手	堀　和彦	皮膚科
14.4.1	医員	柴　浩明	小児科
	院単取得	海老澤高憲	内科
14.5.1	医員	満山　喜宣	外科

国立病院東京医療センター

14.4.1	医員	天木　誠	内科

国立療養所東京病院

14.4.1	医員	原　弘道	内科

国立療養所東宇都宮病院

14.4.1	医員	松浦　憲一	内科

済生会中央病院

14.4.1	院単取得	大城戸一郎	内科

埼玉県立循環器・呼吸器病センター

14.4.1	医員	松尾　征一郎	内科

埼玉県立小児医療センター

14.4.1	助手	河合　利尚	小児科
	医員	安達　達也	小児科
		菊池　健二郎	小児科
		木ノ内勝士	心臓外科

社会保険大宮総合病院

14.1.1	助手	岡　瑞穂	内科
14.4.1	医員	浅野　博子	内科

社会保険蒲田総合病院

14.4.1	医員	久保　明子	小児科

湘南病院

14.4.1	助手	西村　祐子	精神神経科

聖隷三方原病院

14.4.1	医員	柴山　健理	内科
		宮田　秀一	内科

総武病院

14.4.1	医員	蓮田　洸	精神神経科

茅ヶ崎市立病院

14.4.1	助手	梅原　永能	産婦人科

東急病院

14.1.1	医員	烏須　貴子	眼科

東京厚生年金病院

14.4.1	医員	西岡　弘記	形成外科

東京逓信病院

14.4.1	医員	佐藤　敬太	内科

東京労災病院

14.4.1	医員	池田　泰道	眼科

都職三楽病院

14.4.1	医員	山尾　瑞奈	内科

栃木県精神保健センター

14.4.1	医員	川上　正憲	精神神経科

虎ノ門病院分院

14.4.1	医員	間森　聡	内科

日赤医療センター

14.4.1	院単取得	小野内健司	内科

沼津市立病院

14.4.1	医員	遠藤　聡	内科

富士市立中央病院

14.1.1	助手	加畑　好章	眼科
14.3.1	助手	小出　晴久	泌尿器科
14.4.1	助手	井口　正道	小児科
	医員	加藤　正之	内科
		五條　淳	内科
		前原　光次郎	内科
		日下　朗	精神神経科

（無）＝無給、（派）＝派遣中、（外）＝定員外、（非）＝非常勤、院単取得＝大学院単位取得者

森　良博　整形外科
森　克敏　形成外科
長友　真理子　耳鼻咽喉科
小島　純也　耳鼻咽喉科
14.5.1　医員　毛利　貴　外科

町田市民病院
14.1.1　助手　大村　愉己　形成外科
14.4.1　医員　宇田川　崇　内科
伊藤　隆介　外科

本島総合病院
13.12.1　助手　加藤　正高　脳神経外科

横手興生病院
14.4.1　助手　森田　道明　精神神経科

横浜総合病院
14.4.1　医員　水野　泰孝　小児科

横浜労災病院
14.4.1　医員　仙石　錬平　内科

派遣解除（13.11.1～14.5.31）

岩手県立遠野病院
14.1.1　助手（無）　高野　哲　耳鼻咽喉科

太田総合病院
14.1.1　医員　吉村　剛　耳鼻咽喉科

神奈川県衛生看護学校附属病院
14.4.1　医員　佐藤　文哉　内科
松尾　七重　内科

神奈川県立厚木病院
14.4.1　助手（無）　遠山　潤一郎　麻酔科
医員　伏谷　直　内科
安藤　達也　小児科

亀田総合病院
14.4.1　医員　橋本　昌也　内科

川口市立医療センター
14.1.1　助手（無）　山崎　一也　外科
14.4.1　医員　小林　裕彦　内科

川室記念病院
14.4.1　医員　蓮田　洸　精神神経科

癌研究会附属病院
14.4.1　医員　荒川　泰弘　内科

衣笠病院
14.4.1　医員　館野　直　内科

国立国際医療センター
14.4.1　医員　ニ上　敏樹　内科
沼田　尊功　内科
石川　威夫　内科

国立相模原病院
14.4.1　医員　安田　千穂　内科
澤井　博典　内科

国立佐倉病院
14.4.1　医員　鈴木　孝秀　内科

国立精神・神経センター武蔵病院
14.4.1　医員　村上　泰生　内科

国立西埼玉中央病院
14.4.1　医員　推津　昌司　内科
松平　透　内科
太田　正人　内科
院単取得　相良　憲彦　内科
14.5.1　医員　林　武徳　外科

国立東埼玉病院
14.3.1　医員　小俣　貴嗣　小児科

国立療養所東宇都宮病院
14.4.1　医員　北原　拓也　内科
間森　聡　内科

済生会中央病院
14.4.1　院単取得　国枝　武彦　内科

埼玉県立循環器・呼吸器病センター
14.4.1　医員　宮永　哲　内科

埼玉県立小児医療センター
14.4.1　医員　井上　天宏　心臓外科

社会保険大宮総合病院
14.1.1　助手（無）　荻原　正則　皮膚科
14.4.1　院単取得　斎藤　隆俊　内科

聖隷三方原病院
14.4.1　医員　荒巻　和彦　内科
院単取得　梶原　秀俊　内科

東急病院
14.1.1　助手（無）　檜山　三葉子　整形外科

東京厚生年金病院
14.1.1　医員　黒木　知子　形成外科

東京逓信病院
14.4.1　医員　望月　英明　内科

都職三楽病院
14.4.1　助手（無）　齋藤　敦　内科

虎ノ門病院分院
14.4.1　医員　鳥巣　勇一　内科

沼津市立病院
14.4.1　医員　上田　裕之　内科

兵庫県立高齢者脳機能研究センター附属病院
14.4.1　医員　西尾　慶之　内科

富士市立中央病院
14.1.1　助手（無）　中村　陽介　整形外科
成岡　健人　泌尿器科
医員　青木　謙祐　耳鼻咽喉科
14.4.1　医員　木下　晃吉　内科
萩野　剛史　内科
吉澤　海　内科
山路　朋久　内科

町田市民病院
14.4.1　医員　原　弘道　内科

横手興生病院
14.4.1　医員　川上　正憲　精神神経科

横浜労災病院
14.4.1　医員　三村　秀毅　内科

大学院単位取得者

14.4.1　入江　正紀　内科
山岸　弘子　内科
大川　豊　内科
水野　泰孝　小児科

依願解職

■医員
14.3.31　佐々木　謙　内科
14.4.30　森下　幸治　外科
竹川　徹　リハビリテーション科

職員

新採用

大学
13.8.1　研究補助員・国領校
小堀　卓子
研究補助員・微生物学第1
佐藤　依子
13.9.1　研究技術員・総合医科学研究センターアイソトープ実験施設
田中　智香子
14.4.1　研究補助員・臨床検査医学
槌谷　恵美

本院
13.8.1　看護婦・看護部
山崎　ひとみ　谷口　希代子　吉村　友里
13.9.1　看護婦・看護部
松田　裕子
13.10.1　看護婦・看護部
伊藤　友美　兼氏　乃理子　杉田　聡美
14.1.1　看護婦・看護部
内藤　郁子　深田　薫里　大西　康予
松沢　綾　松本　亜希　前田　美那子
中村　あい子
14.4.1　臨床検査技師・中央検査技師
佐藤　翠
診療技術員・内視鏡部
田原　瑠理
14.5.1　研究補助員・内科学講座
関根　一代

青戸病院
13.9.1　看護婦・看護部
佐藤　火映　藤江　まゆみ
13.10.1　看護婦・看護部
櫻井　麻由子　石川　美幸　松土　祥子
13.11.1　事務員・医事課
菊地　美穂
看護婦・看護部
清水　康代　鈴木　秀美
13.12.1　看護婦・看護部
鎌田　昌子
14.1.1　看護婦・看護部
山本　恵里

第三病院
14.1.1　言語聴覚士・リハビリテーション科
細樅　有里
14.2.1　看護婦・看護部
小佐田美山紀

（無）＝無給、（派）＝派遣中、（外）＝定員外、（非）＝非常勤、院単取得＝大学院単位取得者

14.4.1　臨床検査技師・中央検査部
奈良　文絵
診療放射線技師・放射線部
澁谷　一敬

柏病院
13.10.1　看護婦・看護部
島田　穂佐奈　石井　亜希子
13.11.1　看護婦・看護部
坂本　修子
14.2.1　看護婦・看護部
川口　久美子
14.4.1　看護婦・看護部
田伸　恵　紺野　恵子
臨床検査技師・中央検査部
石井　謙一郎
栄養士・栄養部
鈴木　拓海

昇格・降格・役職任免

情報広報室
14.4.1　9等級（副参事）
室長（システム課長兼務）　事務員　情報広報室　尾立　裕三
8等級（副参事）
課長補佐　事務員　システム課　能勢　安彦
5等級（副主務）
事務員・システム課　豊田　学
4等級（副主務）
事務員・システム課
鈴木　隆文　関根　智之

法人事務局
14.4.1　10等級（参事）
主事　事務員　人事部　小寺　嵩士
8等級（副参事）
課長補佐（課長業務代行）　事務員　人事課　前田　利美
課長補佐　事務員　庶務課　植松　美知男
事務員　慈恵実業出向　佐藤　文夫
看護師　看護部　蝦名　總子
7等級（主務）
事務員　人事課　高山　利幸
6等級（主務）
看護教員　慈恵看護専門学校　井上　ふさえ
主任　事務員　人事課　曾根田明弘
5等級（副主務）
事務員・経理課　望月　宣孝
4等級（副主務）
看護教員・慈恵看護専門学校　本田　景子

大学
14.4.1　10等級（参事）
部長（学務課長兼務）　事務員　学事課　西澤　勇
8等級（副参事）
副主事　事務員　教務課　大黒　博之
課長補佐　研究技術員　医学情報センター　石井　成克
7等級（主務）
係長　事務員　研究支援課　横山　明能
主査　司書　医学情報センター　北川　正路
6等級（主務）
事務員　学務課　興村　慎也
5等級（副主務）
研究技術員・実験動物施設　青木　正隆
司書・医学情報センター　細矢　敬子
4等級（副主務）
事務員・教務課　徳永　奈緒美
研究技術員・実験動物施設　木村　靖男
研究技術員・総合医科学研究センター　臨床研究開発室　山田　佐知子

本院
14.4.1　10等級（参事）
師長　看護師　看護部　大水　美名子
9等級（副参事）
課長（部長業務代行）　事務員　事務部　今出　進章
技師長　診療放射線技師　放射線部　矢本　俊一
8等級（副参事）
課長補佐（課長業務代行）　事務員　病院管理課　宮﨑　栄一
課長補佐　事務員　病院管理課　種田　誠
課長補佐　薬剤師　治験管理室　澤村　正
課長補佐　事務員　医事課　井出　晴夫
看護師　看護部　福士　英子
看護師　看護部　熊木　光枝
7等級（主務）
係長　栄養士　栄養部　高橋　弘
係長　診療放射線技師　放射線部　羽柴　秀樹
係長　診療放射線技師　放射線部　柴田　公望
係長　診療放射線技師　放射線部　武澤　俊夫
係長　事務員　医事課　藤田　眞由美
係長　事務員　病院管理課　水野　圭子
看護師　看護部　坂下　早苗
診療放射線技師　放射線部　布施　章
看護師　看護部　吉原　章子
6等級（主務）
師長　看護師　看護部　猪俣　英子
師長　看護師　看護部　工藤　教子
師長　看護師　看護部　岳　可奈子
師長　看護師　看護部　萩尾　陽子
師長代理　看護師　看護部　西城　美恵子
師長代理　看護師　看護部　中川　みゆき
主任　看護師　看護部　坂本　洋子
主任　看護師　看護部　松藤　珠代
主任　調理師　栄養部　田爪　明
主任　調理師　栄養部　羽田　秋子
事務員　施設用度課　佐藤　道雄
臨床検査技師　中央検査部　長谷川智子
臨床検査技師　中央検査部　渡辺　孝子
診療放射線技師　放射線部　平松　雅樹
診療放射線技師　放射線部　横田　光
臨床工学技士　臨床工学部　宇野　光晴
看護師　看護部　浅野　山美子
看護師　看護部　五十嵐弘美
看護師　看護部　一戸　珠美
看護師　看護部　河内山祐子
看護師　看護部　佐々木章子
看護師　看護部　佐藤　恵
看護師　看護部　鹿内　香織
5等級（副主務）
主任・臨床工学技士・臨床工学部　石井　宣大
主任・栄養士・栄養部　小沼　宗大
主任・事務員・医事課　高田　浩志
主任・看護師・看護部
東　佐知子　國分　紀子　寺田　美香
丸山　めぐる　渡辺　由美子　片桐　治美
北見　志津子　遠山　圭子　都鳥　和枝
坂内　のぞみ　渡部　美佐　阿久津晴己
新井　邦子
主任・事務員・ソーシャルワーカー室　丸尾　さやか
臨床検査技師・中央検査部
栗原　悦子　尾形　秀紀
理学療法士・リハビリテーション科　中山　恭秀
言語聴覚士・リハビリテーション科　門脇　大地
事務員・施設用度課　佐野　健二
事務員・医事課　塚本　匡彦
薬剤師・薬剤部
濱山　博之　笠原　花恵子　島崎　博士
調理師・栄養部　鈴木　憲之

看護師・看護部
伊藤　利江　川江　壮子　小松　由佳
閔根　延子　中澤　山美子　半田　由里
深堀　幸子　堀内　香織　堀津　ゆう子
4等級（副主務）
臨床検査技師・中央検査部
寒河江京子　阿部　美佐子　鈴木　晴美
丹野　純子　富永　賢司　中川　亨子
町田　規子
診療放射線技師・放射線部
伊藤　裕章　木本　のりこ　谷口　修一
和田　治人
研究補助員・耳鼻咽喉科学　浅沼　まり子
事務員・ソーシャルワーカー室　柴宮　千恵
事務員・治験管理室　戸川　道子
事務員・医事課
小田　慶治　金子　山美　冨永　久美子
中西　真有美
営繕員・施設用度課　中村　勝憲
薬剤師・薬剤部
石橋　山美子　今井　淳子　加藤　えい子
下谷　英美　下村　浩子　須田　奈美
高澤　千重理　寺嶋　香織　伏見　友里
栄養士・栄養部　原田　愛
調理師・栄養部　竹内　文子
看護師・看護部
足立　晴美　安保　有子　市村　かおり
伊調　直子　伊藤　智恵子　伊藤　玲奈
犬飼　美奈　牛込　留美香　梅木　美恵子
笠原　和子　柏木　志乃　加藤　恵奈
金沢　真見　川上　文子　川副　亜由美
木船　公子　工藤　弘子　熊澤　香織
小金澤志保　小島　瑞希　齋藤　純子
下枝　友紀子　杉田　優子　杉森　裕美
鈴木　幸子　染谷　典子　髙草木エミ
丹波　志保　塚原　多映子　中堂薗百恵
沼澤　真希　野原　七重　長谷川恭代
原口　慶子　樋口　洋子　日出平幸江
平川　美山紀　廣瀬　富美子　前田　和美
村山　のぞみ　室田　桂子　森田　敏江
山口　美千代　山倉　佐起子　山本　奈央
和田　美恵　土屋　智子

青戸病院
14.4.1　10等級（参事）
部長心得　事務員　事務部　鈴木　命
9等級（副参事）
主事　事務員　総務課　水梨　秀士
7等級（主務）
係長　事務員　総務課　菊地　譲
係長　薬剤師　薬剤部　長谷川英雄
6等級（主務）
看護師　看護部　熊谷　良子
主査　臨床検査技師　中央検査部　石井　健二
診療放射線技師　放射線部　山川　仁憲
診療放射線技師　放射線部　山口　雅崇
看護教員　青戸看護専門学校　本田　真弓
5等級（副主務）
主任・調理師・栄養部　小山　進一
主任・看護師・看護部
代田　文子　森　奈帆子
看護教員・青戸看護専門学校　田代　和子
薬剤師・薬剤部　井上　山紀
看護師・看護部
大野　三穂子　川越　弘美　斎藤　ルミ子
水野　なおみ
臨床検査技師・中央検査部　斎藤　正二
臨床工学技士・臨床工学部　宮川　浩之

4等級（副主務）
主任・看護師・看護部　佐々木優子
診療放射線技師・放射線部　熊谷　史範
臨床検査技師・中央検査部　安井　まゆみ
事務員・医事課
荻野　きよみ　斎藤　百美子　鈴木　宏子
薬剤師・薬剤部
桑原　紀子　野崎　恵　山崎　真由美
栄養士・栄養部　小川　篤美
看護師・看護部
伊藤　光代　井戸山智美　大泉　弓子
上村　雅代　国分　眞美　斉藤　正江
佐宗　陵子　篠　史枝　島本　優希
菅原　早百合　杉本　真理子　鈴森　靖子
砂川　知香子　高原　美穂　中川　千寿子
西川　敦子　濵谷　貴代　福留　香奈
山口　恭子
看護教員・青戸看護専門学校
柿澤　玲子　田中　貴子

第三病院
14.4.1　8等級（副参事）
課長補佐（課長業務代行）　事務員　医事課　横山　秀彦
技師長補佐　臨床検査技師　中央検査部　阿部　都朗
技師長補佐　診療放射線技師　放射線部　松原　馨
教育主事　看護教員　第三看護専門学校　平岡　宮子
7等級（主務）
看護師　看護部　稲垣　妙子
看護師　看護部　上田　博子
看護師　看護部　森本　利恵子
6等級（主務）
臨床工学技士　臨床工学部　木杉　玲子
師長代理　看護師　看護部　庄司　美代子
師長代理　看護師　看護部　山本　恵美子
主任　調理師　栄養部　関根　英樹
主任　事務員　医事課　吉澤　大輔
主任　事務員　医事課　倉本　武晴
5等級（副主務）
主任・事務員・医事課　栗田　知英
主任・臨床工学技士・臨床工学部　角田　裕志
師長代理・看護師・看護部　藤原　定子
主任・看護師・看護部　長島　てい子
言語聴覚士・リハビリテーション科　門脇　大地
事務員・総務課　澤本　裕之
栄養士・栄養部　倉橋　薫
薬剤師・薬剤部　染谷　雅弘
臨床工学士・臨床工学部　天童　大介
看護師・看護部
髙木　陽子　中原　順子　吉澤　明美
片田　陽子
4等級（副主務）
主任・調理師・栄養部　山口　孝子
主任・看護師・看護部
石本　登喜子　白崎　和美　元　智晶
早川　亜矢子　日比野史恵　松岡　康子
安田　みき
看護教員・第三看護専門学校　市原　蔦美
事務員・看護部　篠崎　浩子
事務員・医事課
土屋　真紀　北條　山美
事務員・医事課(看護部出向)　中山　孝子
舎監補佐・総務課　松山　トシエ
臨床検査技師・中央検査部　宮本　博康
薬剤師・薬剤部
根岸　徹　樋口　昌子
栄養士・栄養部　赤石　定典
調理師・栄養部　宮本　道子

看護師・看護部
東　留里　小澤　奈央　木村　暢男
國澤　真紀　佐々木朝麻　嶋岡　雅子
恒川　時子　彦井　佐江子　松本　光子
山田　三津子

柏病院
14.4.1　8等級（副参事）
看護師　看護部　五味　美春
看護師　看護部　藤田　優子
7等級（主務）
副教育主事　看護教員　柏看護専門学校　斎藤　真梨恵
係長　栄養士　栄養部　小林　誠
係長　事務員　医事課　煙草　明夫
看護師　看護部　長沢　恵美子
6等級（主務）
師長　看護師　看護部　飯田　結香
師長　看護師　看護部　髙橋　恵美子
師長　看護師　看護部　藤岡　歩
看護師　看護部　板垣　伸子
看護師　看護部　加藤　喜久子
薬剤師　薬剤部　勝俣　はるみ
事務員　医事課　山崎　薫
看護教員　柏看護専門学校　鬼形　智美
看護教員　柏看護専門学校　山崎　裕子
診療放射線技師　放射線部　桜井　智生
5等級（副主務）
師長代理・看護師・看護部
日比野幸子　星　ユカリ
主任・事務員・医事課
小沼　重幸　前田　光一郎
主任・栄養士・栄養部　岡村　康平
主任・看護師・看護部
挟間　しのぶ　平田　美香　石川　伸子
小　直子　貝澤　理嘉　辻　葉子
薬剤師・薬剤部　北村　好申
臨床検査技士・中央検査部　田村　卓
看護教員・柏看護専門学校
千田　操　根本　明美
看護師・看護部
佐々木ゆみ　高橋　ゆかり　滝口　由紀子
建部　一恵
4等級（副主務）
主任・看護師・看護部　渡辺　昌代
臨床工学技士・臨床工学部　川崎　淳一
診療技術員・耳鼻咽喉科　小檜山美代子
事務員・医事課　神谷　雅江
看護師・治験管理室　渡部　貫子
臨床検査技師・中央検査部　吉益　忠則
事務員・医事課　砂山　容子
薬剤師・薬剤部
石井　賀津ニ　稲田　山美
栄養士・栄養部　高橋　徳伴
調理師・栄養部　加藤　文代
看護師・看護部
植田　智子　榎本　裕香　國井　亜紀子
上村　由美子　栗山　美枝　近藤　きよ美
佐藤　さやか　髙崎　純子　髙山　伸子
福田　美枝　冨士田恭子　松重　寛子
池田　葉子　阿部　悦子

転入

企画室
14.4.1　渡井　光　8等級（副参事）　副主事　事務員　経営企画課　健康医学センター

情報広報室
14.4.1　石渡　憲一　9等級（副参事）　課長　事務員　広報課　法人事務局

法人事務局
13.12.1　加藤　智宏　事務員　人事課　医事課
14.4.1　岡本　栄治　8等級（副参事）　事務員　慈恵実業出向　企画室
峰　隆志　6等級（主務）　事務員　人事課　第三病院
徳永　奈緒美　4等級（副主務）　事務員　経理課　大学
柿沼　恵理子　4等級（副主務）　看護教員　慈恵看護専門学校　附属病院
佐藤　直美　4等級（副主務）　看護教員　慈恵看護専門学校　附属病院
沼尾　恵美子　4等級（副主務）　看護教員　慈恵看護専門学校　附属病院
野田　恵美子　4等級（副主務）　看護教員　慈恵看護専門学校　附属病院
岡見　弘美　事務員　慈恵看護専門学校出向　附属病院

大学
14.4.1　渋谷　守　8等級（副参事）　課長心得　事務員　研究支援課　柏病院
牧村　壽治　7等級（主務）　事務員　研究支援課　第三病院

本院
14.4.1　中村　勝　8等級（主務）　課長補佐　事務員　健康医学センター　医療情報部
中島　秀司　6等級（主務）　主任　事務員　晴海トリトンクリニック　医療情報部
林　進　8等級（副参事）　課長補佐　栄養士　栄養部　青戸病院
平田　龍三　7等級（主務）　臨床検査技師　中央検査部　青戸病院
新崎　勤子　6等級（主務）　臨床検査技師　病院病理部　青戸病院
鈴木　朝弥　6等級（主務）　看護師　看護部　青戸病院
竹町　真弓　看護師　看護部　青戸病院
進通　さえ子　事務員　晴海トリトンクリニック　青戸病院
鶴田　智司　5等級（副主務）　診療放射線技師　晴海トリトンクリニック　青戸病院
仲村　敦子　4等級（副主務）　診療放射線技師　晴海トリトンクリニック　青戸病院
吉田　久子　5等級（副主務）　栄養士　栄養部　青戸病院
出途　一十美　視能訓練士　眼科　青戸病院
柳井　一男　10等級（参事）　課長　栄養士　栄養部　第三病院
石川　次男　8等級（副参事）　課長補佐（課長業務代行）　事務員　医事課　第三病院
髙橋　則子　8等級（副参事）　師長（管理）　看護師　看護部　第三病院

	矢崎　志保子	7等級（主務）		看護師	看護部	第三病院
	今井　元和	6等級（主務）		診療放射線技師	放射線部	第三病院
	勝田　岳彦	5等級（副主務）		臨床工学技士	臨床工学部	第三病院
	下條　文子			臨床検査技師	晴海トリトンクリニック	第三病院
	小辻　文子			臨床検査技師	晴海トリトンクリニック	第三病院
	田代　治江			研究補助員	外科学	第三病院
	内藤　香苗			栄養士	栄養部	第三病院
	白石　弘美	8等級（副参事）	副主事	栄養士	栄養部	柏病院
	上野　雅之	6等級（主務）		診療放射線技師	放射線部	柏病院
	近藤　和典	5等級（副主務）		事務員	晴海トリトンクリニック	柏病院
	田口　英昭	4等級（副主務）		臨床工学技士	臨床工学部	柏病院
	榎本　由美	4等級（副主務）		臨床検査技師	中央検査部	柏病院
	吉村　浩明	4等級（副主務）		臨床検査技師	中央検査部	柏病院
青戸病院						
14.4.1	荒木　達夫	8等級（副参事）	課長補佐（課長業務代行）	栄養士	栄養部	附属病院
	藤田　正起	8等級（副参事）	技師長補佐（技師長業務代行）	診療放射線技師	放射線部	附属病院
	岩田　真	7等級（主務）		診療放射線技師	放射線部	附属病院
	佐久間直美	7等級（主務）		看護師	看護部	附属病院
	三浦　幸子	5等級（副主務）	主任	臨床検査技師	中央検査部	附属病院
	桂　弥生			保育士	看護部	附属病院
	刈谷　育子	8等級（副参事）	師長	看護師	看護部	第三病院
	鈴木　博	7等級（主務）		診療放射線技師	放射線部	第三病院
	小野　安雄	7等級（主務）		臨床検査技師	中央検査部	第三病院
	丹羽　克巳	9等級（副参事）	課長	事務員	総務課	柏病院
	兜玉　文子	8等級（副参事）	師長	看護師	看護部	柏病院
	江畠　慎市	7等級（主務）	係長	栄養士	栄養部	柏病院
	栗原　肇	5等級（副主務）	主任	臨床工学技士	臨床工学部	柏病院
	寺田　初子			看護補助員	看護部	柏病院
第三病院						
14.4.1	奈良　京子	8等級（副参事）	師長	看護師	看護部	法人事務局
	石田　厚	6等級（主務）		事務員	医事課	大学
	藤山　康広	8等級（副参事）	技師長補佐（技師長業務代行）	栄養士	栄養部	附属病院
	斉藤　喜美子	8等級（副参事）	師長	看護師	看護部	附属病院
	白石　正孝	7等級（主務）		臨床検査技師	中央検査部	附属病院
	塩森　由希子	4等級（副主務）		臨床検査技師	中央検査部	附属病院
	藤田　智則	4等級（副主務）		臨床工学技士	臨床工学部	附属病院
	勝又　洋子			研究補助員	外科学	附属病院
	髙島　育子			看護補助員	看護部	附属病院
	赤沢　宏允	9等級（副参事）	技師長	診療放射線技師	総合医科学研究センター・高次元医用画像工学研究所兼務	青戸病院
	藤岡　実	7等級（主務）		診療放射線技師	放射線部	青戸病院
柏病院						
14.4.1	吉岡　茂雄	8等級（副参事）	副主事	事務員	総務課	企画室
	須賀　一元	9等級（副参事）	課長	事務員	総務課	附属病院
	須賀　金彦	8等級（副参事）	課長補佐（課長業務代行）	事務員	物品管理課	附属病院
	歳川　伸一	6等級（主務）		臨床検査技師	中央検査部	附属病院
	佐藤　進	6等級（主務）	主任	調理師	栄養部	附属病院
	小池　俊子	6等級（主務）		看護師	看護部	附属病院
	小林　明美	5等級（副主務）		栄養士	栄養部	附属病院
	米良　泰彦	5等級（副主務）		臨床工学技士	臨床工学部	附属病院
	犬飼　美奈	4等級（副主務）		看護師	看護部	附属病院
	濤川　智栄子			看護師	看護部	附属病院
	面川　眞由美			看護補助員	看護部	附属病院
	清野　繁子			看護補助員	看護部	附属病院
	松尾　礼子			栄養士	栄養部	附属病院
	矢野　得郎	8等級（副参事）	課長心得	栄養士	栄養部	青戸病院
	佐藤　博美	7等級（主務）		看護師	看護部	青戸病院
	金井　徳昭	6等級（主務）		診療放射線技師	放射線部	青戸病院
	金子　昌治	6等級（主務）	主任	臨床工学技士	臨床工学部	青戸病院
	相川　靖子			臨床検査技師	病院病理部	青戸病院
	佐藤　清	9等級（副参事）	技師長	診療放射線技師	放射線部	第三病院
	中澤　美紀	5等級（副主務）		看護師	看護部	第三病院
	岡田　ひとみ			看護師	看護部	第三病院
	梶山　朋子			看護師	看護部	第三病院
	冨迫　和美			看護師	看護部	第三病院
	穴南　利美			看護師	看護部	第三病院
	波々壁千鶴子			看護師	看護部	第三病院

兼務

企画室					
14.1.1	坂本　宗彦	10等級（参事）	事務員	晴海トリトンクリニック設置準備室兼務	
医療情報部					
14.1.1	中島　秀司	6等級（主務）	事務員	晴海トリトンクリニック設置準備室兼務	
法人事務局					
13.12.1	髙山　利幸	6等級（主務）	事務員	人事課・慈恵実業出向兼務	
14.1.1	大澤　藤雄	8等級（副参事）	事務員	学務課兼務	
本院					
14.1.1	田部　司	10等級（参事）	事務員	晴海トリトンクリニック設置準備室兼務	
	佐藤　周	8等級（副参事）	臨床検査技師	晴海トリトンクリニック設置準備室兼務	
	天野　善之	8等級（副参事）	診療放射線技師	晴海トリトンクリニック設置準備室兼務	
	山越　倫	6等級（主務）	事務員	晴海トリトンクリニック設置準備室兼務	
	岳　可奈子	6等級（主務）	看護婦	晴海トリトンクリニック設置準備室兼務	
	高田　浩志	5等級（副主務）	事務員	晴海トリトンクリニック設置準備室兼務	
14.2.1	和久井和子		臨床検査技師	晴海トリトンクリニック設置準備室兼務	
	河上　仁美		臨床検査技師	晴海トリトンクリニック設置準備室兼務	
	加藤　ともみ		臨床検査技師	晴海トリトンクリニック設置準備室兼務	
14.4.1	小池　優	7等級（主務）	臨床検査技師	健康医学センター	
青戸病院					
14.2.1	仲村　敦子	4等級（副主務）	臨床検査技師	晴海トリトンクリニック設置準備室兼務	
第三病院					
14.2.1	小辻　文子	4等級（副主務）	臨床検査技師	晴海トリトンクリニック設置準備室兼務	

部内異動

情報広報室					
14.4.1	尾澤　朋子	4等級（副主務）	事務員	広報課	
法人事務局					
14.4.1	河村　稔明	8等級（副参事）	事務員	人事課	
	内山　茂雄	7等級（主務）	事務員	人事課	
	米林　勝	6等級（主務）	事務員	人事課	
	平　直美	4等級（副主務）	事務員	人事課	
	吉澤　友美		事務員	人事課	
	髙山　利幸	7等級（主務）	事務員	慈恵実業出向	
大学					
14.2.1	儀同　千栄子	5等級（副主務）	研究補助員	薬物治療学研	
	佐藤　隆子	4等級（副主務）	研究補助員	薬理学第１	
14.4.1	横山　明能	7等級（主務）	事務員	研究支援課	
	相澤　敏之	5等級（副主務）	事務員	研究支援課	
	菊地　麻美		事務員	研究支援課	
	内山　慈		事務員	研究支援課	
本院					
14.4.1	今出　進章	9等級（副参事）	事務員	事務部	
	宮崎　栄一	8等級（副参事）	事務員	病院管理課	
	天野　善之	8等級（副参事）	放射線技師	晴海トリトンクリニック	
	佐藤　周	8等級（副参事）	臨床検査技師	晴海トリトンクリニック	
	田中　孝ニ	6等級（主務）	診療放射線技師	晴海トリトンクリニック	
	小川　真弓	5等級（副主務）	看護師	晴海トリトンクリニック	
	沖　山美子	4等級（副主務）	看護師	晴海トリトンクリニック	
	菅井　朋子	4等級（副主務）	看護師	晴海トリトンクリニック	
	土屋　智子	4等級（副主務）	看護師	晴海トリトンクリニック	
	一里塚敏子	4等級（副主務）	臨床検査技師	健康医学センター	
	寒河江京子	4等級（副主務）	臨床検査技師	健康医学センター	
	大河内多恵		診療放射線技師	晴海トリトンクリニック	
	小椋　ゆかり		看護師	晴海トリトンクリニック	
	加藤　ともみ		臨床検査技師	晴海トリトンクリニック	
	河上　仁美		臨床検査技師	晴海トリトンクリニック	
	和久井和子		臨床検査技師	晴海トリトンクリニック	
	今間　志保		事務員	晴海トリトンクリニック	
	岩本　直美		事務員	晴海トリトンクリニック	
	宮崎　愛		看護師	晴海トリトンクリニック	
第三病院					
14.4.1	田口　友子	5等級（副主務）	看護教員	第三看護専門学校	
	秋山　京子	5等級（副主務）	事務員	医事課	
	峯元　千清	4等級（副主務）	看護師	治験管理室	
	宇佐美京子		事務員	総務課	
柏病院					
14.4.1	山崎　薫	6等級（主務）	事務員	医事課	
	篠原　裕子	5等級（副主務）	看護教員	柏看護専門学校	
	山口　悦子		事務員	物品管理課	

復職

大学				
13.12.12	安松　桃子		研究補助員	臨床検査医学
本院				
13.12.1	中川　みゆき	6等級（主務）	看護婦	看護部
	東　佐知子	5等級（副主務）	看護婦	看護部
	堀内　亜紀		事務員	医事課（看護部出向）
	渡邊　千穂		看護婦	看護部
13.12.3	鈴木　優佳	5等級（副主務）	看護婦	看護部
13.12.17	林　沙織		看護婦	看護部
14.3.1	山脇　好子		看護師	看護部
	柏木　恵子	4等級（副主務）	看護師	看護部
14.3.14	柿沼　恵理子	4等級（副主務）	看護師	看護部
	沼尾　恵美子	4等級（副主務）	看護師	看護部
	伴　美智子	4等級（副主務）	看護師	看護部
14.4.1	田原　恵		看護師	看護部
	斎藤　賀代		看護師	看護部
	伊藤　美樹		看護師	看護部
	堀　淑恵		臨床検査技師	輸血部
14.4.15	山口　美英子		臨床検査技師	中央検査部
	大竹　悠起子		看護師	看護部
14.5.1	阿部　紀子	6等級(主務)	看護師	看護部
	林田　眞美		看護師	看護部
	東　弥生		臨床検査技師	中央検査部
14.5.27	河田　好美	5等級（副主務）	看護師	看護部
青戸病院				
13.11.1	塚越　由起子		看護婦	看護部
13.11.12	三ツ石恵威子		看護婦	看護部
13.12.17	近藤　明子		看護婦	看護部
14.2.1	小林　淳子		看護婦	看護部
14.3.1	泉　幸江		看護師	看護部
14.3.28	小嶋　順子	5等級（副主務）	看護師	看護部
14.4.1	鎌木　由香	4等級（副主務）	看護師	看護部
	佐々木珠緒		看護師	看護部
14.4.15	本多　弥生		看護師	看護部
14.4.22	髙木　亜由美		看護師	看護部
第三病院				
13.12.28	三里　久美子		看護婦	看護部
14.1.1	因間　和美		事務員	医事課（看護部出向）
14.1.11	森　有香		事務員	医事課
14.1.16	原　由紀		看護婦	看護部
14.2.1	田村　香	4等級（副主務）	看護婦	看護部
14.3.13	中村　佳子		看護師	看護部
14.3.14	青木　葛美	4等級（副主務）	看護師	看護部
14.3.15	田口　友子	5等級（副主務）	看護師	看護部
14.4.1	浅黄　和代	4等級（副主務）	看護師	看護部
	上原　由美子		看護師	看護部
	清水　美香		看護師	看護部
	杉浦　マリ		診療放射線技師	放射線部
柏病院				
13.11.1	高橋　明子	4等級（副主務）	看護婦	看護部
14.3.15	篠原　裕子	5等級（副主務）	看護師	看護部
	上橋　千春		看護師	看護部
	伊藤　奈津子		看護師	看護部
	伊藤　ひろ子		看護師	看護部
	飯村　晶子		看護師	看護部
14.4.1	植村　歩果		看護師	看護部
14.4.23	黄　幸代	4等級（副主務）	看護師	看護部
14.5.13	宇佐見直美		看護師	看護部

休職

本院

13.11.25	小玉　規子	5等級(副主務)	看護婦	看護部
13.11.27	木内　佳枝		看護婦	看護部
13.12.1	東　弥生		臨床検査技師	中央検査部
13.12.3	平林　彰子		看護婦	看護部
13.12.6	阿部　紀子	6等級(主務)	看護婦	看護部
13.12.23	満島　直子		看護婦	看護部
14.1.28	鈴木　三千代	4等級(副主務)	看護婦	看護部
14.2.11	青木　和美	5等級(副主務)	看護婦	看護部
14.2.14	伊藤　美樹		看護婦	看護部
14.3.5	杉平　香織		事務員	医事課（看護部出向）
14.3.23	上野　真理		看護師	看護部
14.4.1	塩原　香	5等級(副主務)	看護師	看護部
	山田　敦子		看護師	看護部
	江村　紀子		看護師	看護部
14.4.3	髙野　しのぶ		看護師	看護部
14.4.9	池田　直美	4等級(副主務)	看護師	看護部
	徳丸　桂子		看護師	看護部
14.4.11	吉原　章子	6等級(主務)	看護師	看護部
14.4.14	望月　亜紀		看護師	看護部
14.4.24	斉藤　友紀子	4等級(副主務)	看護師	看護部

青戸病院

13.11.13	福田　ひとみ		看護婦	看護部
13.12.18	小林　恵美子		看護婦	看護部
14.2.13	松本　尚子		保育士	看護部
14.2.22	渡邊　依美子		看護婦	看護部
14.4.1	関村　弓		看護師	看護部
14.5.11	上遠野恵美子		看護師	看護部

第三病院

13.11.22	赤澤　孝枝		看護婦	看護部
13.12.1	齋藤　直美	4等級(副主務)	看護婦	看護部
13.12.21	森　有香		事務員	医事課
14.1.4	雨宮　圭子		看護婦	看護部
14.1.10	吉田　綾子		看護婦	看護部
14.2.26	清水　美香		看護婦	看護部
14.3.29	須永　和美		看護師	看護部
14.4.1	西　澄子		看護師	看護部
	堀　麻由子		看護師	看護部
14.4.9	中島　幸恵	4等級(副主務)	看護師	看護部
14.4.25	高取　恵子		事務員	医事課
14.5.18	梅原　美保		看護師	看護部

柏病院

13.11.1	伊藤　千恵子		看護婦	看護部
13.11.26	植村　歩果		看護婦	看護部
14.1.27	萩原　冬華	4等級(副主務)	看護婦	看護部
14.2.2	吉田　しずこ		看護婦	看護部
14.2.18	押山　真由		看護婦	看護部
14.3.10	髙橋　由美子		事務員	医事課（看護部出向）
14.4.1	猪野　良子	5等級(副主務)	看護師	看護部
14.4.3	金城　俊子	4等級(副主務)	看護師	看護部
14.4.9	山田　久枝		看護師	看護部
14.4.21	石井　晃子	4等級(副主務)	看護師	看護部
14.5.8	福田　良美		看護師	看護部
14.5.12	塩谷　美幸		事務員	医事課（看護部出向）
14.5.25	鳥津　幸代		看護師	看護部

研修解除

本院

14.4.1	外村　公子		看護師	看護部

依願解職

法人事務局

14.3.31	阿部　孝子		舎監補佐	人事課
	新沼　まり子	5等級(副主務)	看護教員	慈恵看護専門学校
	三浦　育子	5等級(副主務)	看護教員	慈恵看護専門学校
	岑川　美弥子	4等級(副主務)	看護教員	慈恵看護専門学校

本院

13.11.15	佐藤　洋子		事務員	医事課（看護部出向）
13.11.30	中村　真生子		臨床工学士	臨床工学部
13.12.1	鈴木　きよみ	5等級(副主務)	看護婦	看護部
13.12.31	小倉　厚子	4等級(副主務)	看護婦	看護部
	菊池　ゆかり	4等級(副主務)	薬剤師	薬剤部
	津岡　淳子		事務員	医事課
	野崎　弘枝		臨床検査技師	病院病理部
	石田　智美		看護婦	看護部
	伊藤　かおる		看護婦	看護部
	久保　美彩子		看護婦	看護部
	中村　淑恵		看護婦	看護部
14.1.25	三橋　亜希子		看護婦	看護部
14.1.31	中村　友紀		臨床検査技師	中央検査部
	金子　純子		薬剤師	薬剤部
	畠山　明希		臨床検査技師	輸血部
	斎藤　知恵		事務員	医事課（看護部出向）
	髙田　優子		看護婦	看護部
14.3.20	石井　直子		看護師	看護部
14.3.31	山田　美保子	6等級(主務)	看護師	看護部
	垣内　理佳	5等級(副主務)	看護師	看護部
	柴田　直美	5等級(副主務)	看護師	看護部
	橋本　陽子	5等級(副主務)	看護師	看護部
	山口　貴公子	5等級(副主務)	看護師	看護部
	石井　真由美	4等級(副主務)	看護師	看護部
	北瀬　ミチエ	4等級(副主務)	看護師	看護部
	中路　かお里	4等級(副主務)	看護師	看護部
	西田　祐紀子	4等級(副主務)	看護師	看護部
	森本　育	4等級(副主務)	看護師	看護部
	山田　清子	4等級(副主務)	看護師	看護部
	吉江　昌代	4等級(副主務)	看護師	看護部
	鈴木　雅子		事務員	医事課
	池本　登美子		事務員	医事課（看護部出向）
	山本　敬子		臨床検査技師	中央検査部
	内堀　正美		臨床検査技師	輸血部
	安松　桃子		研究補助員	臨床検査医学
	恩田　明子		栄養士	栄養部
	市川　静江		調理師	栄養部
	安藤　あゆみ		薬剤師	薬剤部
	野上　かおり		視能訓練士	眼科
	原　佳州美		視能訓練士	眼科
	天野　美砂		研究補助員	眼科学
	熱田　亜希		看護師	看護部
	阿部　沙織		看護師	看護部
	石崎　香織		看護師	看護部
	板倉　薫		看護師	看護部
	井出　仁美		看護師	看護部
	伊藤　かなえ		看護師	看護部
	伊藤　奈小子		看護師	看護部
	岩崎　絵理香		看護師	看護部
	岩淵　智美		看護師	看護部
	上野　修子		看護師	看護部
	植松　さゆり		看護師	看護部
	内園　里美		看護師	看護部
	内田　真由美		看護師	看護部
	姥山　篤子		看護師	看護部
	遠藤　綾子		看護師	看護部
	及川　知枝		看護師	看護部
	大濱　恵		看護師	看護部
	小川　真美		看護師	看護部
	小椋　明子		看護師	看護部
	押川　志穂		看護師	看護部
	小平　鈴歌		看護師	看護部
	甲斐　奈緒美		看護師	看護部
	風間　利恵子		看護師	看護部
	柏木　美奈子		看護師	看護部
	亀井　尚巳		看護師	看護部
	川口　寛子		看護師	看護部
	菊池　恵美		看護師	看護部
	北野　祥子		看護師	看護部
	紅林　靖佳		看護師	看護部
	郷　更織		看護師	看護部
	小髙　亜希子		看護師	看護部
	小林　理香		看護師	看護部
	齋藤　禎乃		看護師	看護部
	坂本　裕美		看護師	看護部
	佐々木範子		看護師	看護部
	佐藤　由紀子		看護師	看護部
	重野　文江		看護師	看護部
	清水　美穂		看護師	看護部
	城野　昭美		看護師	看護部
	神通川浩子		看護師	看護部
	菅原　知子		看護師	看護部
	鈴木　恭子		看護師	看護部
	鈴木　智重子		看護師	看護部
	清宮　由美子		看護師	看護部
	関　美奈江		看護師	看護部
	関口　朋子		看護師	看護部
	高橋　淳子		看護師	看護部
	高松　陽子		看護師	看護部
	田口　てるみ		看護師	看護部
	田中　千尋		看護師	看護部
	玉井　千香子		看護師	看護部
	出口　瑞恵		看護師	看護部
	長岡　朝子		看護師	看護部
	中川　絵美		看護師	看護部
	中川　敏江		看護師	看護部
	新倉　あき子		看護師	看護部
	西川　真琴		看護師	看護部
	長谷川　泉		看護師	看護部
	服部　里香		看護師	看護部
	早川　好美		看護師	看護部
	伴田　幸絵		看護師	看護部
	深井　美保		看護師	看護部
	福田　美加		看護師	看護部
	船水　久仁子		看護師	看護部
	松浦　香織		看護師	看護部
	松沼　加奈子		看護師	看護部
	三上　順子		看護師	看護部
	水越　めぐみ		看護師	看護部
	三井　直子		看護師	看護部
	武藤　裕子		看護師	看護部
	森　珠美		看護師	看護部
	柳原　賀奈子		看護師	看護部
	山口　琴江		看護師	看護部
	山中　まどか		看護師	看護部
	山本　美保		看護師	看護部
	山本　美有紀		看護師	看護部
	吉田　実代		看護師	看護部
	渡邊　昌子		看護師	看護部
14.4.20	野口　暁子		看護師	看護部
14.4.30	髙橋　弘子		研究補助員	内科学
	碓井　澄子		診療技術員	産婦人科
14.5.8	藤生　麻衣子		看護師	看護部
14.5.17	野本　優子		看護師	看護部
14.5.18	伊東　初恵		研究補助員	放射線医学講座
	石井　知子		看護師	看護部
14.5.31	酒井　聡美		事務員	病院管理課

青戸病院

13.11.30	桑原　美穂子		看護婦	看護部
	八木　裕見子		事務員	医事課（看護部出向）
13.12.18	廣瀬　美樹		看護婦	看護部
13.12.31	安本　和弘	7等級(主務)	事務員	医事課
	吉田　ニ三恵		看護婦	看護部
	飯島　明子		薬剤師	薬剤部
	辻村　恵美		薬剤師	薬剤部
	富永　優子		薬剤師	薬剤部
14.1.20	塚越　香葉子	4等級(副主務)	看護婦	看護部
14.1.31	花井　あゆみ		事務員	医事課
	高坂　智美		看護婦	看護部
14.2.28	髙橋　博美		看護婦	看護部
14.3.31	新井　里江子	5等級(副主務)	看護師	看護部
	岡部　純子	5等級(副主務)	看護師	看護部
	安部　千代美	4等級(副主務)	看護師	看護部
	岡田　真理	4等級(副主務)	看護師	看護部
	野口　麻子	4等級(副主務)	看護師	看護部
	若林　佳奈子	4等級(副主務)	看護師	看護部
	石崎　かおる		事務員	総務課
	大林　武史		薬剤師	薬剤部
	勝部　深雪		保育士	看護部
	赤木　涼子		看護師	看護部
	阿部　里美		看護師	看護部
	石橋　佐和子		看護師	看護部
	上田　元子		看護師	看護部
	遠藤　佳子		看護師	看護部
	大井　紅葉		看護師	看護部
	大庫　美香		看護師	看護部
	大沼　奈津子		看護師	看護部
	小田　陽子		看護師	看護部
	小野　千加枝		看護師	看護部
	甲斐　志織		看護師	看護部
	鍵和田陽子		看護師	看護部
	國島　恵子		看護師	看護部
	久保　智津子		看護師	看護部
	倉形　美和子		看護師	看護部
	幸田　伸江		看護師	看護部
	神戸　萌		看護師	看護部
	小嶋　由紀		看護師	看護部
	齋戸　山美子		看護師	看護部
	佐藤　真紀子		看護師	看護部
	高橋　百恵		看護師	看護部
	滝澤　亜佐子		看護師	看護部
	田村　紀子		看護師	看護部
	塚越　由起子		看護師	看護部
	樋泉　香奈子		看護師	看護部
	中村　志		看護師	看護部
	成澤　七代		看護師	看護部
	真鶴　いづみ		看護師	看護部
	増渕　千春		看護師	看護部
	松崎　敏子		看護師	看護部
	村上　しのぶ		看護師	看護部
	森田　優美子		看護師	看護部
	山川　智晴		看護師	看護部
	山崎　裕子		看護師	看護部
	吉田　和美		看護師	看護部
14.5.23	諸藤　三世		看護師	看護部

第三病院

13.12.24	坂詰　恵利子		看護婦	看護部
13.12.31	田中　陽子		看護婦	看護部
14.1.31	竿谷　昌子		看護婦	看護部
14.2.6	兒玉　里美		看護婦	看護部
14.3.31	梶谷　由喜子	7等級(主務)	看護教員	第三看護専門学校
	菅原　光晴	5等級(副主務)	作業療法士	リハビリテーション科
	大野　薫	5等級(副主務)	看護師	看護部
	今村　陽子	4等級(副主務)	看護師	看護部
	磯部　美奈子	4等級(副主務)	看護師	看護部
	澤田　陽子	4等級(副主務)	看護師	看護部
	小林　多紀	4等級(副主務)	看護師	看護部

荒谷	美香	4等級(副主務)	看護教員	第三看護専門学校
衛藤	久美子	4等級(副主務)	看護教員	第三看護専門学校
三角	一恵		看護教員	第三看護専門学校
山田	直子		臨床検査技師	病院病理部
相森	澄子		整備員	総務課
瀧口	友美		薬剤師	薬剤部
岩田	順子		薬剤師	薬剤部
高野	光子		調理師	栄養部
定塚	佳子		看護師	看護部
汐谷	真樹		看護師	看護部
北原	真紀		看護師	看護部
森久保	紀斗美		看護師	看護部
東	美里		看護師	看護部
藤本	典子		看護師	看護部
宮﨑	眞理		看護師	看護部
及川	潤子		看護師	看護部
山口	宏美		看護師	看護部
一戸	かおり		看護師	看護部
三浦	由理		看護師	看護部
桐谷	和香		看護師	看護部
穂高	直子		看護師	看護部
長岡	牧子		看護師	看護部
杉山	百合香		看護師	看護部
伊藤	美里		看護師	看護部
山口	佳代子		看護師	看護部
斉藤	麻美子		看護師	看護部
河崎	あゆみ		看護師	看護部
阿部	美穂		看護師	看護部
矢花	博子		看護師	看護部
加治木	江利子		看護師	看護部
斎藤	浩美		看護師	看護部
青江	佳美		看護師	看護部
菜原	要子		看護師	看護部
前田	香		看護師	看護部
早乙女	綾子		看護師	看護部
松本	敦子		看護師	看護部
米山	千春		看護師	看護部
吉留	歩		看護師	看護部
井上	菜穂子		看護師	看護部
石田	由紀		看護師	看護部
宮澤	杏子		看護師	看護部
和田	亜沙実		看護師	看護部
石坂	聡子		看護師	看護部
柳川	千春		看護師	看護部
牛越	未奈子		看護師	看護部
木下	伸代		看護師	看護部
定方	亜也子		看護師	看護部
若山	典子		看護師	看護部
河野	美穂		看護師	看護部
林田	聖子		看護師	看護部
幾野	まゆみ		看護師	看護部
吉澤	未保		看護師	看護部
小池	孝枝		看護師	看護部
本間	はるか		看護師	看護部
森	千晶		看護師	看護部
内田	圭子		看護師	看護部
波多腰	敬子		看護師	看護部
内山	聖士		看護師	看護部
夏堀	寿美礼		看護師	看護部
宮袋	誠子		看護師	看護部
五月女	千春		看護師	看護部
伊藤	美保子		看護師	看護部
伊藤	真実子		看護師	看護部
川瀬	美紀		看護師	看護部
佐藤	しのぶ		看護師	看護部
西村	弘美		事務員	医事課（看護部出向）
河野	亜矢子		事務員	医事課（看護部出向）

柏病院

13.11.30	川崎	利律子	4等級(副主務)	看護婦	看護部
13.12.30	初田	愛子		薬剤師	薬剤部
13.12.31	北原	美香		調理師	栄養部
	岡	陽子		看護婦	看護部
	鈴木	ひろみ		看護婦	看護部
	下村	ひとみ		看護婦	看護部
14.1.17	上之園	留美子		看護婦	看護部
14.1.13	犬塚	奈美子		看護婦	看護部
14.1.31	高橋	みゆき		保育士	看護部
14.2.21	江面	昌子		看護婦	看護部
14.2.28	増田	勇樹		調理師	栄養部
	齋藤	洋美		臨床心理士	精神神経科
14.3.18	石井	励子		看護師	看護部
14.3.31	青木	孝子	7等級(主務)	看護師	看護部
	片岡	昌子	5等級(副主務)	看護師	看護部
	池田	美幸	5等級(副主務)	看護師	看護部
	和久井	晴美	5等級(副主務)	看護師	看護部
	久保	紀子		栄養士	栄養部
	渡辺	佳子		栄養士	栄養部
	榎本	純子		事務員	医事課（医療情報室）
	渡辺	淳子		事務員	医事課（看護部出向）
	小針	玲子		事務員	医事課（看護部出向）
	倉嶋	厚子		事務員	医事課（看護部出向）
	関根	理佐子		事務員	医事課（看護部出向）
	相良	美穂		薬剤師	薬剤部
	石橋	智美		薬剤師	薬剤部
	二木	綾子		薬剤師	薬剤部
	沼田	真由美		薬剤師	薬剤部
	田辺	亮子		薬剤師	薬剤部
	菊池	今日子		視能訓練士	眼科
	武富	里奈		看護師	看護部
	伊藤	えみ子		看護師	看護部
	吉河	さなえ		看護師	看護部
	伊藤	ひろ子		看護師	看護部
	進藤	恵美		看護師	看護部
	小野	梓		看護師	看護部
	稲城	陽子		看護師	看護部
	篠原	啓子		看護師	看護部
	斎藤	美津子		看護師	看護部
	上田	夕子		看護師	看護部
	土田	由紀子		看護師	看護部
	米澤	真理子		看護師	看護部
	富樫	裕子		看護師	看護部
	寺田	文子		看護師	看護部
	安川	まゆみ		看護師	看護部
	阿部	香織		看護師	看護部
	金子	浩美		看護師	看護部
	逆井	恵		看護師	看護部
	吹越	友絵		看護師	看護部
	山口	紀子		看護師	看護部
	桃井	桂		看護師	看護部
	政時	和美		看護師	看護部
	小野	美幸		看護師	看護部
	河上	和泉		看護師	看護部
	小木	千代子		看護師	看護部
	所	順子		看護師	看護部
	山崎	里香		看護師	看護部
	長濱	道子		看護師	看護部
	光武	幸子		看護師	看護部
	石塚	潤子		看護師	看護部
	井口	愛		看護師	看護部
	橋本	真理		看護師	看護部
	舞草	香澄		看護師	看護部
	長塚	千尋		看護師	看護部
	父母	真琴		看護師	看護部
	山中	希		看護師	看護部
	栃山	裕美		看護師	看護部
	関根	渚		看護師	看護部
	千田	早苗		看護師	看護部
	大谷	理恵		看護師	看護部
	久津間	紀子		看護師	看護部
	黒田	まち子		看護師	看護部
	片桐	奈緒		看護師	看護部
	船越	瑞穂		看護師	看護部
	里見	千絵子		看護師	看護部
	中島	佑季		看護師	看護部
	橘	奈緒子		看護師	看護部
	石畑	ゆかり		看護師	看護部
	千秋	絢子		看護師	看護部
	成瀬	清香		看護師	看護部
	中村	香織		看護師	看護部
	松浦	優子		看護師	看護部
	佐々木	良子		看護師	看護部
	鈴木	和恵		看護師	看護部
	小笠原	紫乃		看護師	看護部
	中根	一美		看護師	看護部
	米川	砂織		准看護師	看護部
	伊藤	りき		看護補助員	看護部
14.5.31	御代田	亜子		看護師	看護部

定年退職

法人事務局

14.3.31	柿沼	禮司	10等級(参事)	事務員	慈恵実業出向
	赤嶋	祥雄	8等級(副参事)	事務員	経理課
	大澤	藤雄	8等級(副参事)	事務員	創立百二十周年記念事業募金事務局
	青木	テツ子	5等級(副参務)	事務員	慈恵看護専門学校出向
	前田	君枝		寄宿舎管理員	人事課

本院

14.3.31	中村	宣男	10等級(参事)	診療放射線技師	放射線部
	中島	裕子	10等級(参事)	栄養士	栄養部
	田部	司	10等級(参事)	事務員	事務部
	千葉	幸子	8等級(副参事)	看護師	看護部
	佐藤	英子	6等級(主務)	看護師	看護部
	伊藤	千鶴子	6等級(主務)	事務員	看護部
	一之瀬	昭子	4等級(副参務)	整備員	施設用度課整備B
	中林	倭子		事務員	薬剤部
	中崎	宜子		研究補助員	麻酔科学
	木下	紀子		診療技術員	内視鏡部
	岡見	あい子		調理師	栄養部
	小山	節子		看護補助員	看護部手術部
	坂本	由紀子		看護補助員	看護部中央棟19F病棟
	尾形	寿々子		看護補助員	看護部中央棟21F病棟
	木村	かつえ		看護補助員	看護部Ｆ3病棟

青戸病院

14.3.31	鈴木	圭子	事務員	看護部
	中村	咲子	看護補助員	看護部3E病棟
	細矢	淑子	整備員	物品管理課

第三病院

13.3.31	藤井	秀子	8等級(副参事)	看護師	看護部
	浅輪	昭代	6等級(主務)	看護師	看護部
	戸倉	広子		事務員	医事課（看護部出向）
	貞松	キヨ子		調理師	栄養部
	奈良	芳枝		整備員	物品管理課
	関	ミヨノ		整備員	物品管理課
	三野宮	佳子		看護補助員	看護部

柏病院

14.3.31	其田	梓	9等級(副参事)	診療放射線技師	放射線部
	小俣	光章	7等級(主務)	事務員	医事課（医療情報室）

その他

第三病院

13.3.31	前田	雅美	4等級(主務)	看護師	看護部
	附属第三病院勤務を解く				
14.4.1	嶋岡	雅子		看護師	看護部
	医学部看護学科への派遣研修解除				

平成13年12月に「保健婦助産婦看護婦法の一部を改正する法律」（平成13年法律第153号）が成立し、平成14年3月1日施行されました。これに伴い、看護職種の名称が次のように改められました。

看護婦、看護士 →「看護師」
准看護婦、准看護士 →「准看護師」
保健婦、保健士 →「保健師」
助産婦 →「助産師」

附属病院医師人事委員会報告
BULLETIN BOARD

■診療部長
本院

13.10.1	福田　国彦	画像診断部	放射線部診療部長から
	兼平　千裕	放射線治療部	放射線部診療副部長から
14.4.1	阪本　要一	晴海トリトンクリニック	柏病院糖尿病・代謝・内分泌内科診療部長から

青戸病院

14.1.1	成宮　徳親	内視鏡部	本院診療副部長から
14.4.1	畑　雄一	放射線部	

第三病院

14.5.1	福田　安	放射線部	診療医員から

柏病院

14.4.1	佐々木　敬	糖尿病・代謝・内分泌内科	本院糖尿病・代謝・内分泌内科診療医長から

■診療部長（兼任）
青戸病院

14.4.1	落合　和彦	外科	
	谷藤　泰正	麻酔部	

柏病院

14.4.1	田尻　久雄	内視鏡部	附属病院内視鏡部診療部長

■診療部長代行
本院

14.4.1	羽生　信義	消化管外科	

■客員診療部長
本院

13.12.1	黒澤　博身	心臓外科	診療部長から

■診療副部長
本院

13.11.1	成宮　徳親	内視鏡部	第三病院消化器・肝臓内科診療副部長から
14.4.1	小林　直	臨床腫瘍部	臨床腫瘍部診療副部長（兼任）から
	丸毛　啓史	整形外科	診療医員から
14.5.1	宇都宮一典	糖尿病・代謝・内分泌内科	診療副部長代行から
	藤沢　康司	小児科	柏病院診療副部長から

青戸病院

14.4.1	黒田　徹	外科	
	尾崎　雅美	麻酔部	

■診療医長
本院

13.12.1	勝沼　俊雄	小児科	診療医員から
	一志　公夫	内視鏡部	青戸病院外科診療医長から
14.1.1	宮田　市郎	小児科	診療医員から
14.4.1	池脇　克則	循環器内科	診療医員から
	佐々木英樹	循環器内科	診療医員から
	本郷　賢一	循環器内科	診療医員から
	有田　二郎	小児科	診療医員から
	常喜　達裕	脳神経外科	診療医員から
	鈴木　茂	晴海トリトンクリニック	

第三病院

14.1.1	加藤　弘之	病院病理部	柏病院診療医長から

柏病院

13.11.1	中里　雄一	外科	診療医員から
14.4.1	坂本　敬子	糖尿病・代謝・内分泌内科	診療医員から
	近江　禎子	麻酔部	
	荒川　廣志	内視鏡部	本院診療医員から
14.5.1	山口　由太郎	脳神経外科	診療医員から

■診療医員
本院

13.11.1	荏原　正幸	脳神経外科	准診療医員から
	結城　一郎	脳神経外科	准診療医員から
	大塚　俊宏	脳神経外科	准診療医員から
	櫻井　結章	耳鼻咽喉科	准診療医員から
	葉山　貴司	耳鼻咽喉科	准診療医員から
	内水　浩貴	耳鼻咽喉科	准診療医員から
	和田　弘太	耳鼻咽喉科	准診療医員から
13.12.1	宮脇　剛司	形成外科	米国留学から帰国
	田中　康広	耳鼻咽喉科	留学から帰国
14.1.1	浅川　博	消化器・肝臓内科	社会保険大宮総合病院から復帰
	石川　匡洋	腎臓・高血圧内科	青戸病院診療医員から
	小武海公明	循環器内科	留学から帰国
	石橋　健一	糖尿病・代謝・内分泌内科	社会保険大宮総合病院から復帰
	宍戸　淳	小児科	准診療医員（無給）から
	松下　哲也	皮膚科	第三病院診療医員から
	田部　昭博	外科	春日部中央総合病院から復帰
	渡辺　通章	外科	神奈川県立厚木病院から復帰
	池尻　真康	外科	賛育会病院から復帰
	根岸　由香	外科	埼玉慈恵病院から復帰
	篠原　寿彦	外科	癌研究会附属病院から復帰
	別当　武治	整形外科	
	田口　哲也	整形外科	神奈川リハビリテーション病院から復帰
	野嶋　公博	形成外科	第三病院診療医員から
	林　淳也	形成外科	神奈川県立厚木病院から復帰
	喜多　陽子	形成外科	柏病院診療医員から
	酒井　勉	眼科	留学から帰国
	永井　祐喜子	眼科	東急病院から復帰
	田中　雄一郎	眼科	青戸病院診療医員から
	濱田　幸雄	耳鼻咽喉科	東京厚生年金病院から復帰
	我那覇文清	放射線部	米国留学から帰国
14.2.1	宇野　吉雅	心臓外科	米国留学から帰国
14.3.1	日野　昌力	内視鏡部	米国留学から帰国
14.4.1	戸島　恭一郎	消化器・肝臓内科	英国ロンドン日本クラブ診療所から復帰
	高橋　暁	消化器・肝臓内科	
	井口　保之	神経内科	柏病院診療医員から
	川口　祥子	神経内科	国立療養所東宇都宮病院から復帰
	西村　理明	糖尿病・代謝・内分泌内科	レジデント修了
	石井　博尚	糖尿病・代謝・内分泌内科	レジデント修了
	矢野　真吾	血液・腫瘍内科	米国留学から帰国
	坂本　晋	呼吸器内科	新規採用
	石黒　大輔	精神神経科	総武病院から復帰
	瀬尾　雅美	小児科	埼玉県立小児医療センターから復帰
	浦島　崇	小児科	埼玉県立小児医療センターから復帰
	櫻井　みのり	外科	レジデント修了
	志田　敦男	外科	レジデント修了
	良元　和久	外科	レジデント修了
	儀武　路雄	心臓外科	埼玉県立小児医療センターから復帰
	高倉　聡	産婦人科	第三病院診療医員から
	齊藤　絵美	産婦人科	柏病院准診療医員から
	久米川浩一	眼科	第三病院診療医員から
	渡辺　裕三	歯科	第三病院診療医員から
	武内　弘明	放射線部	非常勤診療医員から
	鹿瀬　陽一	麻酔部	
	佐々木知也	救急部	消化器・肝臓内科診療医員から
	平野　明夫	臨床腫瘍部	本院血液・腫瘍内科診療医員から
	常喜　眞理	健康医学センター	本院内視鏡部准診療医員（無給）から
	鈴木　武志	健康医学センター	
14.5.1	谷口　幹太	糖尿病・代謝・内分泌内科	第三病院診療医員から
	新家　秀	産婦人科	国内留学から帰校
	金丸　千穂	内視鏡部	准診療医員（無給）から
	相羽　恵介	臨床腫瘍部	癌研究会附属病院から復帰
14.6.1	古田　昭	泌尿器科	神奈川県立厚木病院から復帰

青戸病院

13.11.1	森脇　宏人	耳鼻咽喉科	准診療医員から
13.12.1	清水　純	脳神経外科	本島病院から復帰
14.1.1	早川　洋	腎臓・高血圧内科	本院診療医員から
	林田　健一	精神神経科	准診療医員から（精神保健指定医資格取得）
	平林　剛	外科	守屋慶友病院から復帰
	山崎　哲資	外科	国立療養所東宇都宮病院から復帰
	梶本　徹也	外科	富士市立中央病院から復帰
	長谷川太郎	泌尿器科	平塚共済病院から復帰
	高橋　寧子	眼科	町田市民病院から復帰
14.2.1	赤井　良太	麻酔部	本院診療医員から
14.3.1	森　裕紀子	産婦人科	准診療医員から
14.4.1	川村　仁美	腎臓・高血圧内科	レジデント修了
	木村　啓	呼吸器・感染症内科	本院診療医員から
	伊東　建	小児科	柏病院診療医員から
	千葉　康之	小児科	富士市立中央病院から復帰
	齊藤　良太	外科	レジデント修了
	鈴木　啓太郎	産婦人科	社会保険大宮総合病院から復帰
	林田　健一	中央検査部	精神神経科診療医員から
	坪井　一人	内視鏡部	本院准診療医員から
14.6.1	四方　千裕	総合診療部	呼吸器・感染症内科診療医員から

第三病院

13.11.1	上竹　大二郎	腎臓・高血圧内科	本院救急部診療医員から
	中村　将裕	耳鼻咽喉科	准診療医員から
	稲葉　岳也	耳鼻咽喉科	准診療医員から
14.1.1	谷野　千鶴子	皮膚科	本院診療医員から
	三浦　英一朗	外科	麻生病院から復帰
	植山　明	外科	藤村病院から復帰
	宮脇　剛司	形成外科	本院診療医員から
	木村　高弘	泌尿器科	本院診療医員から
14.2.1	結城　一郎	脳神経外科	本院診療医員から
14.4.1	鶴田　由美	消化器・肝臓内科	青戸病院診療医員から
	有廣　誠二	消化器・肝臓内科	レジデント修了
	河野　優	神経内科	レジデント修了
	川本　進也	腎臓・高血圧内科	北茨城市立総合病院から復帰
	吉原　理恵	糖尿病・代謝・内分泌内科	レジデント修了
	笠間　絹代	血液・腫瘍内科	本院准診療医員（無給）から
	深澤　健至	呼吸器・感染症内科	准診療医員（無給）から
	南波　広行	小児科	レジデント修了
	池谷　美樹	産婦人科	
	古賀　良一	産婦人科	本院診療医員から
	武原　格	リハビリテーション科	東京都リハビリテーション病院から復帰
	小山　照幸	リハビリテーション科	レジデント修了
	権　宅成	歯科	本院診療医員から
	福田　安	放射線部	本院診療医員から
14.5.1	石井　博尚	糖尿病・代謝・内分泌内科	本院診療医員から
14.6.1	冨井　雅人	脳神経外科	留学帰国

柏病院

13.7.1	伊藤　博之	泌尿器科	麻酔部診療医員から
13.10.1	牛込　琢郎	救急部	外科診療医員から
13.11.1	谷口　雄一郎	耳鼻咽喉科	准診療医員から
	田村　俊一	救急部	本院循環器内科准診療医員（無給）から
14.1.1	大谷　圭	消化器・肝臓内科	救急部診療医員から
	井口　保之	神経内科	救急部診療医員から
	東　吉志	循環器内科	准診療医員（無給）から
	孫　敬洙	外科	救急部診療医員から
	後町　武志	外科	救急部診療医員から
	茶薗　昌明	整形外科	本院診療医員から
	増井　文昭	整形外科	本院診療医員から
	三戸岡克哉	眼科	本院診療医員から
	大村　光浩	病院病理部	新規採用
	薄葉　輝之	救急部	東急病院から復帰
	京田　茂也	救急部	外科診療医員から
14.4.1	小澤　律子	神経内科	レジデント修了
	丸山　之雄	腎臓・高血圧内科	レジデント修了
	西村　浩	精神神経科	青戸病院中央検査部診療医員から
	布山　裕一	小児科	本院診療医員から
	長沼　宏邦	心臓外科	准診療医員から
	平間　正規	産婦人科	本院診療医員から
	柳田　聡	産婦人科	茅ヶ崎市立病院から復帰

■准診療医員
本院

13.4.1	安藤　和美	麻酔部	レジデント修了
13.12.1	松原　修	脳神経外科	青戸病院准診療医員から
14.1.1	佐藤　康伴	整形外科	飯田病院から復帰
	飯田　和之	眼科	富士市立中央病院から復帰
14.2.1	荒井　隆雄	脳神経外科	第三病院准診療医員から
	荒川　秀樹	脳神経外科	柏病院准診療医員から
14.4.1	須藤　訓	消化器・肝臓内科	青戸病院准診療医員から
	橋本　健一	消化器・肝臓内科	国立西埼玉中央病院から復帰
	石川　悦久	腎臓・高血圧内科	レジデント修了
	高原　忍	血液・腫瘍内科	青戸病院准診療医員から
	河石　真	呼吸器内科	新規採用
	藤本　浩之	精神神経科	第三病院准診療医員から
	寺本　知史	小児科	都立母子保健院から復帰
	丸島　秀樹	外科	レジデント修了
	檜山　三葉子	整形外科	レジデント修了
	橋本　朋子	産婦人科	レジデント修了
	菅谷　真吾	泌尿器科	レジデント修了
	成岡　健人	泌尿器科	レジデント修了
	山田　裕紀	泌尿器科	レジデント修了
	坪井　一人	内視鏡部	レジデント修了

青戸病院

14.4.1	木村　信明	消化器・肝臓内科	本院准診療医員から
	高松　正視	消化器・肝臓内科	レジデント修了
	石野　裕理	精神神経科	レジデント修了
	山形　哲也	外科	レジデント修了
	小暮　太郎	脳神経外科	レジデント修了
	前田　重孝	泌尿器科	レジデント修了

第三病院

14.1.1	草間　美紀	皮膚科	国立西埼玉中央病院から復帰
14.4.1	鹿島　直之	精神神経科	横手興生病院から復帰
	中村　陽介	整形外科	レジデント修了
	下村　達也	泌尿器科	レジデント修了
14.5.1	滝澤　寛重	麻酔部	レジデント修了

柏病院

14.1.1	長沼　宏邦	心臓外科	附属病院准診療医員から
14.3.1	石井　信一	心臓外科	本院准診療医員から
14.4.1	内山　幹	消化器・肝臓内科	レジデント修了
	佐野　公司	血液・腫瘍内科	レジデント修了
	伊藤　達彦	精神神経科	新規採用
	高瀬　聡子	皮膚科	本院准診療医員から
	青柳　充	整形外科	レジデント修了
	柳沼　昌也	眼科	レジデント修了
	柴崎　敬乃	麻酔部	
14.5.1	丹　愛子	小児科	国立成育医療センターから復帰

■准診療医員（無給）
本院

14.1.1	酒井　朋久	循環器内科	柏病院診療医員から
14.2.1	田中　康之	循環器内科	富士市立中央病院から復帰
14.3.1	橋本　希代子	呼吸器内科	
	竹内　紋子	皮膚科	復職
14.4.1	鶴崎　哲士	循環器内科	レジデント修了

	石川　哲也	循環器内科	レジデント修了
	野尻　明山美	循環器内科	育児休職から復職
	細谷　工	糖尿病・代謝・内分泌内科	レジデント修了
	関口　直宏	血液・腫瘍内科	レジデント修了
	川村　佳子	呼吸器内科	診療医員から
	木下　陽	呼吸器内科	レジデント修了
	三宮　正久	精神神経科	柏病院中央検査部診療医員
	川崎　成郎	外科	大学院修了
	大山　かおり	眼科	診療医員から
	佳久　真之	歯科	研修修了
	金丸　千穂	内視鏡部	
14.5.1	中田　希代子	循環器内科	青戸病院診療医員から
	荏原　太	糖尿病・代謝・内分泌内科	レジデント修了
	石橋　健一	糖尿病・代謝・内分泌内科	診療医員から
青戸病院			
14.4.1	范　揚文	糖尿病・代謝・内分泌内科	レジデント修了
第三病院			
14.4.1	平川　吾郎	総合診療部	レジデント修了
柏病院			
13.11.1	宮村　香代子	循環器内科	柏病院救急部診療医員から
14.1.1	大塚　由美	循環器内科	本院准診療医員（無給）から

■非常勤診療医長

本院			
14.4.1	本間　定	消化器・肝臓内科	
	樋口　英二郎	精神神経科	総武病院派遣
	許山　浩司	産婦人科	
	豊原　敬三	健康医学センター	
14.5.1	松島　宏	小児科	
	鳥海　和弘	麻酔部	
青戸病院			
14.5.1	熊谷　雅人	麻酔部	
第三病院			
13.10.1	猫橋　俊文	消化器・肝臓内科	富士市立中央病院派遣中
14.1.1	片山　隆司	糖尿病・代謝・内分泌内科	辞職
柏病院			
14.4.1	田中　純	内視鏡部	

■非常勤診療医長（兼任）

本院			
14.1.1	太田　眞	循環器内科	青戸病院中央検査部診療部長
	成宮　徳親	内視鏡部	青戸病院内視鏡部診療部長
14.4.1	佐々木　敬	糖尿病・代謝・内分泌内科	柏病院診療部長
	小林　直	血液・腫瘍内科	
	佐藤　哲夫	晴海トリトンクリニック	
	繁田　雅弘	晴海トリトンクリニック	
	福田　国彦	晴海トリトンクリニック	
	宮本　幸夫	晴海トリトンクリニック	
	太田　有史	晴海トリトンクリニック	
	春名　眞一	晴海トリトンクリニック	
	矢部　武	晴海トリトンクリニック	
	田辺　晴康	晴海トリトンクリニック	
	和田　高士	晴海トリトンクリニック	
14.7.1	鎌田　芳夫	眼科	青戸病院眼科診療部長
青戸病院			
14.1.1	一志　公夫	内視鏡部	本院内視鏡部診療医長
柏病院			
14.4.1	阪本　要一	糖尿病・代謝・内分泌内科	
	藤崎　順子	内視鏡部	

■非常勤診療医員

本院			
14.1.1	茂木　純一	循環器内科	辞職
	根本　高幸	整形外科	都職青山病院派遣中
	島田　千恵子	耳鼻咽喉科	辞職
14.3.1	小林　道子	内視鏡部	
14.4.1	窪谷　健	産婦人科	
14.5.1	平野　明夫	臨床腫瘍部	
14.7.1	大谷　洋一	画像診断部	
青戸病院			
14.4.1	中田　秀二	血液・腫瘍内科	
	玉置　暢子	精神神経科	
第三病院			
14.1.1	中林　幸夫	外科	麻生病院派遣
14.5.1	野里　明代	血液・腫瘍内科	

■非常勤診療医員（兼任）

本院			
14.3.1	本田　力	放射線治療部	青戸病院診療医員
14.4.1	平野　明夫	血液・腫瘍内科	
	木村　啓	呼吸器内科	青戸病院診療医員
	庄司　和広	手術部	麻酔部診療医員
	宇野　真二	臨床腫瘍部	血液・腫瘍内科診療医員
	橋本　健一	晴海トリトンクリニック	
	鷹橋　伸子	晴海トリトンクリニック	
	柴本　由香	晴海トリトンクリニック	
	後藤　豊	晴海トリトンクリニック	
	小曽根基裕	晴海トリトンクリニック	
	貞岡　俊一	晴海トリトンクリニック	
	入江　健夫	晴海トリトンクリニック	
	豊田　圭子	晴海トリトンクリニック	
	武内　弘明	晴海トリトンクリニック	
	尾尻　博也	晴海トリトンクリニック	
	我那覇文清	晴海トリトンクリニック	
	佐久間　亨	晴海トリトンクリニック	
	田口　哲也	晴海トリトンクリニック	
	鈴木　秀彦	晴海トリトンクリニック	
	永井　祐喜子	晴海トリトンクリニック	
	飯田　和之	晴海トリトンクリニック	
	北村　容子	晴海トリトンクリニック	
	渡辺　裕三	晴海トリトンクリニック	
	千葉　幸子	晴海トリトンクリニック	
	関口　奈穂子	晴海トリトンクリニック	
14.5.1	相羽　恵介	血液・腫瘍内科	本院臨床腫瘍部診療医員
	武原　格	リハビリテーション科	第三病院リハビリテーション科診療医員
	濱田　幸雄	晴海トリトンクリニック	本院耳鼻咽喉科診療医員
青戸病院			
14.4.1	須藤　訓	消化器・肝臓内科	本院准診療医員
	高原　忍	血液・腫瘍内科	
柏病院			
13.11.1	藤原　千江子	麻酔部	本院麻酔部診療医員
14.3.1	荒川　廣志	内視鏡部	

■　訂正　■

2002 Vol.1 附属病院医師人事委員会報告

■診療医員

青戸病院（誤）→第三病院（正）

13.10.1	松下　哲也	皮膚科	准診療医員から
	早川　洋子	皮膚科	准診療医員から

人事

平成14年3月31日（日）

定年退職　青木　テツ子　5等級（副主務）事務員　（慈恵看護専門学校）

依願解職　三浦　育子　5等級（副主務）看護教員（慈恵看護専門学校）

新沼　まり子　5等級（副主務）看護教員（慈恵看護専門学校）

峯川　美弥子　4等級（副主務）看護教員（慈恵看護専門学校）

平成14年4月1日（月）

6等級（主務）看護教員　井上　ふさえ　5等級（副主務）看護教員

4等級（副主務）看護教員　本田　景子

転　入　事務員　岡見　弘美　（附属病院　医事課）

4等級（副主務）看護教員　柿沼　恵理子　（附属病院）

4等級（副主務）看護教員　野田　恵美子　（附属病院）

4等級（副主務）看護教員　佐藤　直美　（附属病院）

転　出　8等級（副参事）看護教員　奈良　京子　（第三病院　師長・看護師）

8等級（副参事）副教育主事・看護教員　蝦名　總子　（附属病院　看護部へ研修）

新採用　中村　明子　看護教員　（慈恵看護専門学校）

吉田　恵美　看護教員　（慈恵看護専門学校）

行事

平成13年11月21日（水）　1. 東京慈恵理事会が開催された。

平成13年12月7日（金）　1. 平成13年度慈恵看護専門学校戴帽式が挙行された。

1年生（第52期生）　72名

平成14年3月15日（金）　1. 慈恵看護専門学校卒業式が、寛仁親王妃信子殿下のご臨席のもとに挙行された。

卒業生　61名

平成14年3月20日（水）　1. 東京慈恵会理事会・評議員会・臨時総会が開催された。

平成14年4月6日（土）　1. 平成14年度慈恵看護専門学校入学式が挙行された。

入学生　95名

ご寄付のお礼

BULLETIN BOARD

ご寄付のお礼と今後のご協力のお願い

東京慈恵会医科大学は創立以来120年の間、患者さんのための医療を追求し、教育機関・医療機関としてその使命を果たしてまいりました。最高・最善の医療を提供していくために不断の努力を傾注しておりますが、そのためには大学・病院の基盤整備が不可欠でございます。

創立百二十周年記念事業として、教育・研修の中心となる大学1号館（U1棟）が平成14年3月末に竣工し、今後も本院外来棟（H3棟）の建築、青戸病院の新築、第三病院や柏病院の整備などを進めてまいります。これらの基盤整備には莫大な資金が必要となり、大学も自助努力を重ねておりますが、資金調達には限界があります。

本学の将来計画と学祖の精神にご賛同賜り、現在までにも関係各方面から心温まるご支援をいただきました。ご協力賜りました方々の温かいご芳志に厚くお礼申し上げます。はなはだ厳しい経済状況のもと、ご協力をお願いいたしまして誠に恐縮ではございますが、そのご支援が必ずや社会に還元されていくこととご理解賜りますよう、さらにより一層の努力をしていく所存ですので、今後とも関係各位の全面的なご協力を、よろしくお願い申し上げます。

記念事業委員会委員長

学校法人慈恵大学理事長　**岡村　哲夫**

創立百二十周年記念事業寄付者名簿

BULLETIN BOARD

同窓生

青木　哲
新井　孝喜
一宮　勝也
稲葉　敏
井上　奈津彦
牛込　新一郎
大城　武徳
太田　正人
岡田　甫
小川　昌之
金子　二郎
神谷　昌宏
北西　憲二
衣笠　泰生
金　清次
後藤　與四之
小室　舜一
重松　恭祐
清水　保雄
宿谷　進
瀬谷　一郎
高橋　裕昭
高橋　文人
滝本　正子
武井　典明
武川　吉和
淡中　章二
手島　ちづ子
徳永　雅實
友成　淑夫
鳥海　達彌
中島　庸也
仲島　四郎
永田　和之
永田　卓司
西田　健二
西野　哲夫
野口　美津
萩原　博道
蜂谷　公敏
原　俊雄
平川　寛
深沢　甲子雄
福島　成夫
前田　敏朗
増田　富士男
町田　尚
松田　誠
丸谷　公一
宮地　三千代
山田　充
吉田　孝一

同窓会支部・クラス会

平成14年卒業生一同

父兄

浅井　孝男
小豆島知恵子
阿部　正伸
砂金　秀充
井内　孝次
石田　伸博
大熊　紘
大塚　宣夫
小笠原文雄
越智　五平
木島　達彦
木島　直彦
木村　完治
木村　敏郎
窪田　浩一郎
黒澤　範夫
河野　安龍
小関　秀旭
小林　彰
小山　厚
権田　泰昌
佐薙　裕一
塩崎　正英
鈴木　以佐夫
鈴木　武二
高野　景司
高野　利典
高橋　正紘
辻村　藤男
徳竹　英一
中田　秀樹
成瀬　健一
仁科　弥生
野口　正興
野村　秀人
長谷川浩一
林　滋
林　皇
平野　たか子
平松　隆夫
藤崎　寿路
坊野　馨二
村瀬　哲司
谷田部元裕
柳澤　義一
柳澤　宗利
横山　謙三
吉田　博和

教職員

井出　晴夫
伊藤　政子
稲田　勝平
植松　美知男
内田　満
衞藤　義勝
圓谷　実喜
小島　理恵
小船　八千代
齋藤　真梨恵
桜井　尚子
高橋　弘
田中　忠夫
徳田　紘一
中村　憲子
西野　博一
原　有紀
平林　彰子
藤沢　麻優子
富士田恭子
古坂　瑞子
前田　加代子
村上　敏明
守屋　邦夫
吉田　伊津美
吉田　富美

一般個人

今成　定弘
下原　すみ子
Mr.&Mrs.K.MATSUDA

企業・一般団体

（株）アムコ
アロカ（株）
オークラ共栄会
クリタ・ビルテック（株）
（株）凰元
慈恵看護・同窓会　恵和会
自治慈恵会
第一園芸（株）
大成設備（株）
高砂熱学工業（株）
（株）東管
東京ガス（株）
東洋熱工業（株）
日機装（株）
ピップトウキョウ（株）
文永堂書店

●平成14年1月1日から平成14年5月31日までにご寄付くださった方々の内容に基づき作成しました。

●ご芳名は敬称を省略し、五十音順に掲載しました。

●尚、この名簿には匿名希望の方の分は掲載しておりません。

The JIKEI 2002 Vol.2

発　行　学校法人　慈恵大学
発行人　理事長　岡村哲夫
連絡先　〒105-8461　東京都港区西新橋3-25-8
　　慈恵大学　広報課
電　話　03-3433-1111
ＦＡＸ　03-5472-4796
e-mail　koho@jikei.ac.jp
号　数　第2号
発行日　2002年7月1日
URL:http//www.jikei.ac.jp/

編集後記

2号目を迎えたThe JIKEIは、いかがでしたでしょうか。特集「慈恵に学ぶ-学長と語り合う-」では、医学部を志望した動機や実際に慈恵に入学した感想、課外活動を通してどのようなことを学んでいるかなど、在学生の生の声をお伝えできたことと思います。今後も皆様に知っていただきたい情報を、より解りやすく、魅力的な形でお伝えし、より良い法人誌にしていきたいと考えております。アンケートを同封させていただきますので、本誌をご覧になったご意見やご感想をお寄せくださいますよう、お願い申し上げます。

大学広報委員会委員長　阿部　俊昭